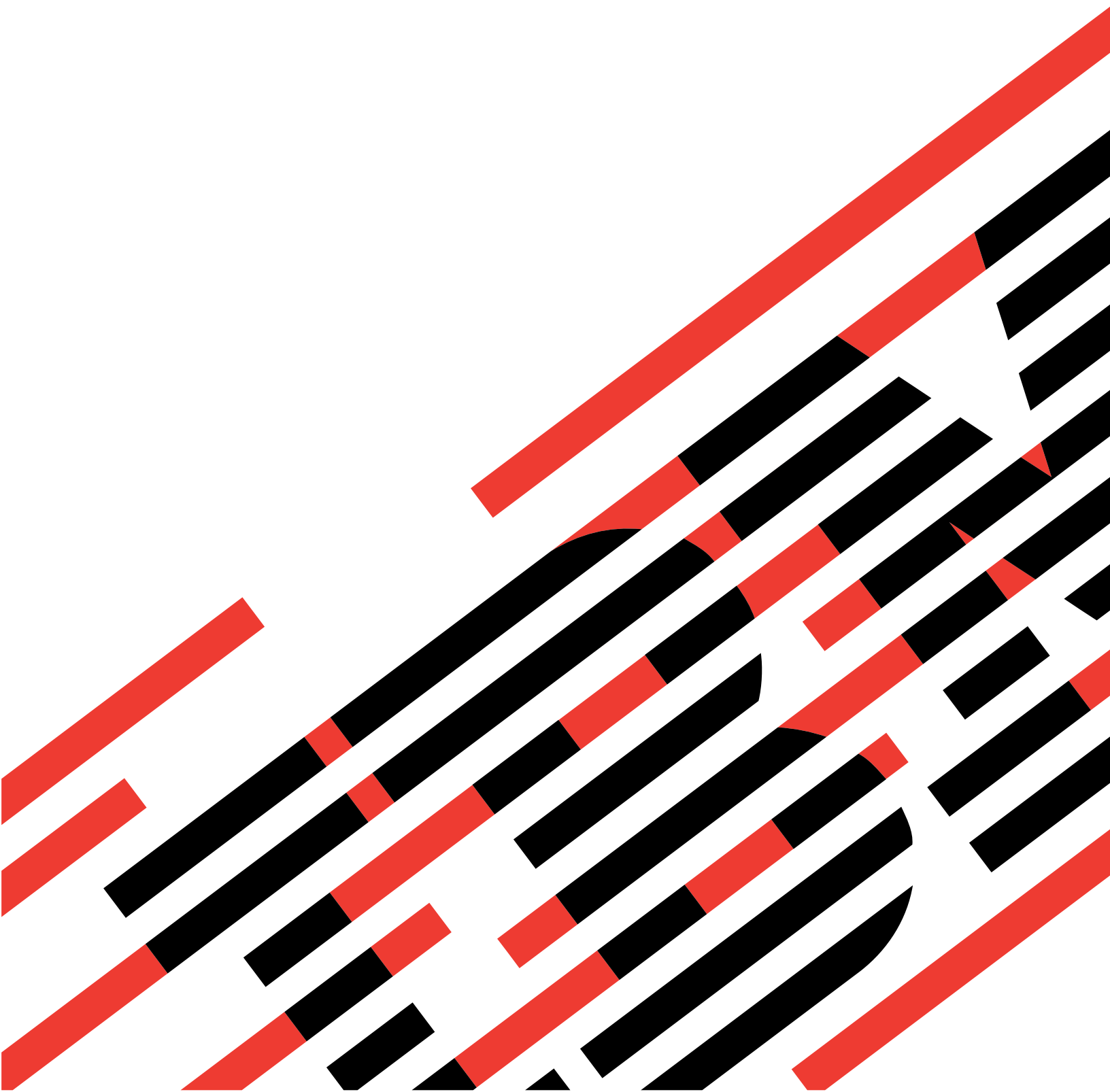


IBM

@server

iSeries

システム値





@server

iSeries

システム値

目次

第 1 章 OS/400 システム値	1
V5R2 の新機能	2
システム値カテゴリー	5
第 2 章 OS/400 システム値: 監査の概要	7
監査システム値: アクション監査を活動化する	7
監査システム値: QTEMP 内のオブジェクトを監査しない	10
監査システム値: オブジェクト監査の活動化	11
監査システム値: 監査ジャーナル・エラー・アクション	11
監査システム値: 補助記憶域に書き込む前のジャーナル項目の最大数	12
監査システム値: 新規作成オブジェクトのデフォルト監査	13
第 3 章 OS/400 システム値: 日時の概要	15
日時システム値: システム日付	15
日時システム値: うるう年の調整	16
日時システム値: 時刻	17
日時システム値: グリニッジ標準時 (GMT) からのオフセット	18
第 4 章 OS/400 システム値: 装置概要	19
装置システム値: ローカル制御装置と装置	19
装置システム値: 装置命名規則	20
装置システム値: 遠隔制御装置と装置	21
装置システム値: パススルー装置および Telnet	22
装置システム値: ワークステーションで装置エラーが起こった時に行なわれるアクション	23
第 5 章 OS/400 システム値: インターナショナル概要	25
インターナショナル・システム値: 日付と時刻	26
インターナショナル・システム値: 10 進数の形式	27
インターナショナル・システム値: 通貨記号	28
インターナショナル・システム値: 言語	29
インターナショナル・システム値: 国/地域	30
インターナショナル・システム値: デフォルト・システム・キーボード	30
インターナショナル・システム値: コード化文字セット ID	31
インターナショナル・システム値: 図形文字セット/コード・ページ	32
インターナショナル・システム値: 文字識別コード制御	33
インターナショナル・システム値: ソート順序	34
インターナショナル・システム値: コード化フォント名	35
インターナショナル・システム値: コード化フォント・ポイント・サイズ	35
インターナショナル・システム値: ロケール	36
インターナショナル・システム値: ロケールを基にしたジョブ属性の設定	37
第 6 章 OS/400 システム値: ジョブ概要	39
ジョブ・システム値: 再始動時の記憶域の割り振り	40
ジョブ・システム値: 必要な追加記憶域の割り振り	41
ジョブ・システム値: ジョブの最大数	42
ジョブ・システム値: プリンター出力ブロックの初期サイズ	43
ジョブ・システム値: プリンター出力ファイルの最大数	43
ジョブ・システム値: ジョブ・ログの最大サイズ	44
ジョブ・システム値: 最大サイズに達したとき	45
ジョブ・システム値: 非活動ジョブのタイムアウト・インターバル	46

ジョブ・システム値: ジョブがタイムアウトになったとき	47
ジョブ・システム値: 切断されたジョブのタイムアウト・インターバル	48
ジョブ・システム値: マルチスレッド・ジョブ内の機能がスレッドセーフでないとき	49
ジョブ・システム値: ジョブ終了後プリンター出力切り離し	50
第 7 章 OS/400 システム値: ライブラリー・リスト概要	51
ライブラリー・リスト・システム値: システム・ライブラリー・リスト	51
ライブラリー・リスト・システム値: ユーザー・ライブラリー・リスト	52
第 8 章 OS/400 システム値: メッセージおよびサービス概要	55
メッセージおよびサービス・システム値: 活動記録ログ内のレコードの最大数	56
メッセージおよびサービス・システム値: 状況メッセージの表示	56
メッセージおよびサービス・システム値: 回線、制御装置、および装置用のメッセージ待ち行列	57
メッセージおよびサービス・システム値: ジャーナル会計情報	58
メッセージおよびサービス・システム値: 問題ログ・フィルター	59
メッセージおよびサービス・システム値: 最短保持期間	60
メッセージおよびサービス・システム値: システムで検出されたソフトウェア問題のログ記録	61
メッセージおよびサービス・システム値: モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログ	61
メッセージおよびサービス・システム値: システムの遠隔保守の許可	62
第 9 章 OS/400 システム値: パスワード概要	65
パスワード・システム値: パスワード・レベル	66
パスワード・システム値: 最小パスワード長	69
パスワード・システム値: 最大パスワード長	70
パスワード・システム値: 最低 1 桁の数字が必要	70
パスワード・システム値: 連続する数字の制限	71
パスワード・システム値: 制限付き文字	72
パスワード・システム値: 反復文字の制限	72
パスワード・システム値: 各桁に新しい文字が必要	73
パスワード・システム値: パスワードの再使用サイクル	74
パスワード・システム値: パスワード有効期限	75
パスワード・システム値: パスワード妥当性検査プログラム	76
第 10 章 OS/400 システム値: パフォーマンス概要	79
パフォーマンス・システム値: 対話型ジョブのジョブ優先順位の動的調整	80
パフォーマンス・システム値: 優先順位バンド内でのジョブ優先順位の動的調整	81
パフォーマンス・システム値: 記憶域プールと活動レベルの自動調整	82
パフォーマンス・システム値: 有資格スレッドの最大数	83
パフォーマンス・システム値: マシン記憶域プール・サイズ	83
パフォーマンス・システム値: 基本記憶域プールの最小サイズ	84
パフォーマンス・システム値: 基本記憶域プール有資格スレッドの最大数	85
パフォーマンス・システム値: タイム・スライスでの対話型ジョブの基本プールへの移動	86
パフォーマンス・システム値: 通信構成の回復	86
パフォーマンス・システム値: 再始動での通信アービター・ジョブ	88
パフォーマンス・システム値: 使用可能な表示装置パススルー・サーバー・ジョブ	89
パフォーマンス・システム値: Query と索引の並列処理	90
パフォーマンス・システム値: データベース Query の時間制限	91
パフォーマンス・システム値: ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内でのライブラリーのロック	92
パフォーマンス・システム値: バックグラウンドでのデータベース統計収集許可	93
第 11 章 OS/400 システム値: 電源制御概要	95
電源制御システム値: 電源障害が発生したとき	95

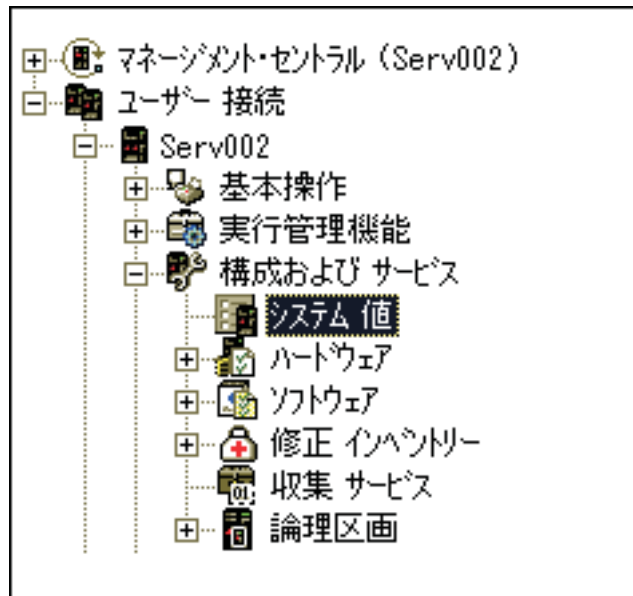
電源制御システム値: メッセージ待ち行列とライブラリー	96
第 12 章 OS/400 システム値: 印刷概要	99
印刷システム値: デフォルト・プリンター	99
印刷システム値: 印刷キーを使用するときの形式	100
印刷システム値: 印刷ページ・フッター	101
第 13 章 OS/400 システム値: 再始動概要	103
再始動システム値: 再始動のタイプ	104
再始動システム値: 電源障害後の自動再始動の許可	105
再始動システム値: 遠隔パワーオンおよび再始動の許可	105
再始動システム値: スケジュールされた再始動の許可	106
再始動システム値: 即時シャットダウンの時間制限	107
再始動システム値: システムをセットアップするための開始プログラム	108
再始動システム値: 制御サブシステム/ライブラリー	109
再始動システム値: コンソールの問題が起こった場合	110
再始動システム値: 再始動が完了する前のデータベース回復の待機	110
再始動システム値: 直前のシステム終了の状況	111
再始動システム値: 直前の再始動タイプ	112
再始動システム値: 直前の再始動 - 開始済みの印刷装置	113
第 14 章 OS/400 システム値: 復元概要	115
復元システム値: 復元中のオブジェクトの変換	115
復元システム値: 機密オブジェクトの復元の許可	117
復元システム値: 復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査	119
第 15 章 OS/400 システム値: 機密保護概要	123
機密保護システム値: 機密保護レベル	123
機密保護システム値: サーバー機密保護データの保存	125
機密保護システム値: 呼び出しプログラムからの借用権限をプログラムが使用できるようにするユーザー	125
機密保護システム値: サーバー認証インターバル	127
機密保護システム値: QSYS.LIB ファイル・システムの新規作成オブジェクトのデフォルト権限	127
機密保護システム値: 書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可	128
機密保護システム値: 監査可能でないオブジェクト	129
第 16 章 OS/400 システム値: サインオンの概要	131
サインオン・システム値: 正しくないサインオンの試み	132
サインオン・システム値: 最大回数に達したとき	133
サインオン・システム値: サインオン情報の表示	134
サインオン・システム値: 各ユーザーを 1 装置セッションに限定する	134
サインオン・システム値: 特権ユーザーを特定装置セッションに制限する	135
サインオン・システム値: 遠隔サインオンに Telnet またはパススルーを使用する	136
第 17 章 OS/400 システム値: 記憶域の概要	139
記憶域システム値: 未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップ	139
記憶域システム値: システム・ディスク・プールの最大使用量	140
記憶域システム値: 最大使用量に達したとき	141
第 18 章 OS/400 システム値: システム制御の概要	145
システム・コントロール・システム値: 型式番号	146
システム・コントロール・システム値: シリアル番号	146
システム・コントロール・システム値: プロセッサ・フィーチャー・コード	147

システム・コントロール・システム値: コンソール名	148
システム・コントロール・システム値: 操作援助レベル	148
システム・コントロール・システム値: アテンション・プログラム	149
システム・コントロール・システム値: デフォルト・ユーザー環境	150
システム・コントロール・システム値: 先行入力機能の使用	151
第 19 章 システム値の概念	153
機密保護関連システム値のロック機能	153
復元操作におけるシステム値設定の影響	155
第 20 章 システム値の管理	159
システム値を比較して更新	160
機密保護ウィザードの完了	160
機密保護関連システム値のロックおよびアンロック	161
復元操作システム値の準備	161
復元操作システム値の計画	161
復元操作システム値の構成	162
復元コマンドの実行	162
システム値の保管	163
システム・アクセス・レベルの保護	163
システム値インベントリーの処理	165

第 1 章 OS/400 システム値

システム値は、iSeries システム全体の操作環境に影響を与える情報です。システム値は、システム上のオブジェクトではありません。システム値には、システムの特定の部分の操作に関する制御情報が入っています。操作環境を定義する目的のために、システム値を使用してシステムを変更することができます。たとえば、システム日付、ライブラリー・リスト、インターナショナル特性、および特定の機密保護機能はすべてシステム値によってセットされます。

システム値は、iSeries ナビゲーターまたは文字ベースのインターフェースを使用して管理できます。表示されている図は、iSeries ナビゲーターの中のシステム値機能の位置を示します。強調表示されているパスにしたがって、システム値にアクセスしてください。システム値を選択した後で、システム値のカテゴリーのうちのいずれか 1 つを選択することができます。



システム値を変更するには、システム値の変更 (CHGSYSVAL) コマンドに対して使用 (*USE) 権限を持っていない限りなりません。さらに、特殊権限が必要なシステム値もあります。特殊権限が必要な場合は、以下のシステム値のトピックの中でその旨が記されています。システム値について詳しくは、以下のトピックを参照してください。

• OS/400 システム値ファインダー

OS/400 システム値ファインダーを使用して、特定のシステム値またはシステム値のカテゴリーについての情報がどこにあるかを見付けることができます。このツールを使用すると、特定のシステム値が iSeries ナビゲーターのどこにあるか、および、システム値の有効な使用方法がわかります。このツールは、文字ベースのインターフェース用語 (QAUDCTL、QPWDLVL など) に慣れているシステム管理者には非常に便利なツールです。ファインダーは、文字ベースのインターフェース用語と、iSeries ナビゲーターのグラフィカル・インターフェースで使用されている関連用語を識別します。さらに、システム値のそれぞれについての詳細な説明も提供されています。

• システム値カテゴリー

iSeries ナビゲーターは、システム値を、監査で始まりシステムで終了するカテゴリーにグループ化します。このトピックを選択して、各カテゴリー内に入っているシステム値の概要 (個々のシステム値に関する情報へのリンクも含む) を見つけてください。システム値トピック全体を印刷することもできます。

- システム値の概念

システム値を設定する前に、特定のシステム値の概念について学ぶことができます。このトピックを選択して、システム値をロックおよびアンロックする方法や、システム値が復元操作に対して与える影響の説明を検索します。

- システム値の管理

管理者として、システム値を管理するのに役立つ多くのタスクを行うことができます。システム値の保管、構成、およびロックする方法については、このトピックを選択してください。

V5R2 の新機能

V5R2 にはシステム値についての新機能があります。新規のカテゴリである復元が、既存のカテゴリに追加されました。また、機密保護システム値をさらに制御できるようになりました。この機能強化により、機密保護関連のシステム値を変更されないようにすることができます。最後に、iSeries ナビゲーターにさらにシステム値が追加され、iSeries サーバーをよりカスタマイズできるようになりました。

どのリリースにおいても、文字ベースのインターフェースよりも iSeries ナビゲーターを使用した方が、システム値の機能性を増大させることができます。さらに、マネージメント・セントラルを使用し、iSeries ナビゲーターを通じて管理システム値を複数システムで容易に能率よく使えるようになりました。

文字ベースのインターフェースでシステム値を処理した経験がある場合は、そのシステム値の名前 (QAUDCTL や QUSEADPAUT など) に慣れていることと思います。これらのシステム値の名前を iSeries ナビゲーターで見つけることが困難な場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用すると容易に見つけられます。

新しいカテゴリ

今後は、システム値を iSeries ナビゲーターで表示し編集して、サーバーの全体的な操作をコントロールし変更することができます。復元カテゴリは新規ですが、その個々のシステム値は既存のものです。

- 復元
- 復元中のシグニチャーの検査
- 復元中のオブジェクトの変換
- 機密オブジェクトの復元

新しい「復元カテゴリ」は、前のリリースに機能の追加および強化を行います。オブジェクトの復元時に、3 つの主要な変更があります。まず最初に、システム上に復元するための変換に失敗したオブジェクトが許可されなくなります。2 番目に、復元中の強制変換 (QFRCCVNRST) システム値がより多くのオプションを提供します。最後に、強制オブジェクト変換が最も厳格な状態である *YES *ALL に設定されていない限り、強制オブジェクト変換パラメーターが**復元中のオブジェクト変換**システム値を指定変更することはなくなりました。


機密保護関連システム値に対する新しいロック機能

ほとんどの機密保護システム値は、機密保護管理者 (*SECADM) 特殊権限とすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限とを合わせ持つユーザーのみが変更することができます。通常の運用中にこれらのユーザーさえも機密保護システム値を変更できないようにするために、「システム・サービス・ツール開始

(STRSST) (Start System Service Tools (STRSST)) および「専用保守ツール (DST) (Dedicated Service Tools (DST))」は、これらの機密保護値をロックしてユーザーが設定値を変更できないようにするオプションを提供します。

さらに、この機能により、借用権限を使用して実行されているプログラムが機密保護値を変更してまた元に戻すことも防ぎます。SST または DST を実行している、適切なサービス・ツール特権を有するサービス・ツール・ユーザー ID のみが、機密保護関連システム値をロックあるいはアンロックすることができます。

この新機能の影響を受ける機密保護関連の各システム値には、クイック・リファレンス・セクションに

 が入っています。この新機能の影響を受けるシステム値の完全なリストについては、機密保護関連システム値のロック機能を参照してください。

V5R2 の新規システム値および変更システム値

V5R2 には、多くの新規システム値または変更されたシステム値があります。V5R2 でのシステム値変更を識別するために、次の表を参照してください。

新規システム値		
バックグラウンドでのデータベース統計収集許可	QDBFSTCCOL	バックグラウンドで処理されることが許される、データベース・ファイル統計収集要求のタイプを指定します。
ジョブ終了後プリンター出力切り離し	QSPLFACN	スプール・ファイルをジョブと共に保持するか、それともジョブから切り離すか指定します。
変更されたシステム値		



機密保護関連システム値	QALWOBJRST QALWUSRDMN QAUDCTL QAUDENACN QAUDFRCLVL QAUDLVL QAUTOCFG QAUTORMT QAUTOVRT QCRTAUT QCRTOBJAUD QDEVRCYACN QDSPSGNINF QDSCJOBITV QINACTMSGQ QLMTDEVSSN QLMTSECOFR QMAXSGNACN QMAXSIGN QPWDEXPITV QPWDLMTAJC QPWDLMTCHR QPWDLMTREP QPWDLVL QPWDMAXLEN QPWDMINLEN QPWDPOSDIF QPWDRQDDGT QPWDRQDDIF QPWDVLDPGM QRETSVRSEC QRMTSIGN QRMTSRVATR QSECURITY QSHRMEMCTL QUSEADPAUT QVFYOBJRST	これらのシステム値が変更されないためのロック・オプションが追加されました。
パススルー装置と Telnet	QAUTOVRT	新しい値、登録済み出口プログラム実行が追加されました。
プリンター出力ブロックの初期サイズ	QJOBSPLA	「割り振り (Allocation)」タブからジョブ・カテゴリーの「プリンター出力 (Printer Output)」タブに移動しました。
プリンター出力ファイルの最大数	QMAXSPLF	「割り振り (Allocation)」タブからジョブ・カテゴリーの「プリンター出力 (Printer Output)」タブに移動しました。
復元中のシグニチャーの検査	QVFYOBJRST	機密保護カテゴリーから復元カテゴリーに移動しました。


復元における強制変換	QFRCCVNRST	オプションの数が増えるとともに、システム制御カテゴリから復元カテゴリに移動しました。
機密オブジェクトの復元の許可	QALWOBJRST	機密保護カテゴリから復元カテゴリに移動しました。
サーバー認証インターバル	QSVRAUTITV	iSeries ナビゲーターからは除去されました。

システム値の詳細については、Information Center の システム値 トピックをご覧ください。

新規または変更された内容を知る方法

技術変更が行われた部分を知るために、下記の情報を使用します。

-  イメージは、新規または変更された情報が始まる箇所を示します。
-  イメージは、新規または変更された情報が終わる箇所を示します。

当リリースにおけるその他の新規または変更機能に関する情報は、「最初にお読みください (Memo to Users)」  を参照してください。

システム値カテゴリ

iSeries ナビゲーターは、システム値をカテゴリにグループ化し、システム値の管理を能率化します。

iSeries ナビゲーターおよびマネージメント・セントラルを使用して、以下のカテゴリのシステム値を処理することができます。

監査

監査値を変更する。

日時

日付、時刻、およびタイムゾーンの構成を変更する。

装置

装置の自動構成および回復値を変更する。

インターナショナル

ロケールの設定、および、数値、通貨、日付、時刻の形式を変更する。

ジョブ

システム・レベルのジョブ限界およびデフォルトのジョブ優先順位を変更する。

ライブラリー・リスト

デフォルトのライブラリー・リストを変更する。

メッセージおよびサービス

メッセージ、ロギング、およびサービス情報を変更する。

パスワード

パスワードの有効期限と構成規則を変更する。

パフォーマンス

優先順位、パフォーマンスの調整、およびシステムの処理値を変更する。

電源制御

電源機構値を変更する。

印刷

基本印刷値およびプリンター出力の形式を変更する。

再始動

再始動に影響を与える初期セットアップ値と設定値を変更する。

復元

システムにどのオブジェクトを復元するかを判断する復元値を変更する。

機密保護

オブジェクト、ユーザー、およびシステムの機密保護値を変更する。

サインオン

サインオン値を変更する。

記憶域

システム記憶域の値を変更する。

システム制御

システム識別情報を表示し、システム・レベル値を変更する。

以上のシステム値を使用して、システムを制御することができます。特定のニーズに合わせて上記の値を設定することにより、以下のことをコントロールできます。

- システム・パフォーマンス。システムの作業効率を向上させることができます。
- 機密保護。さまざまなオブジェクトを使用する人、編集する人が誰であるかをコントロールできます。
- パスワード。プライバシーを保証できます。

適切な設定を行うことによる利点は多々あります。たとえば、特定のジョブに割り振る記憶域の量をコントロールできます。これにより、ジョブの優先順位付けが行えます。

システム値について詳しくは、『OS/400 システム値ファインダー』を参照してください。

第 2 章 OS/400 システム値: 監査の概要

OS/400 監査システム値を使用して、さまざまな監査およびその他のレコード保持イベントを制御します。システム値の監査カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス (Configuration and Services)」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な監査システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

監査システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
アクション監査を活動化する	アクション監査を設定し、特定機能の監査レベルを指定する。	QAUDCTL QAUDLVL
監査ジャーナル・エラー・アクション	ジャーナル項目を送る時に発生したエラーにより、監査レコードを監査ジャーナルに送れない場合のシステムの処置を指定する。	QAUDENDACN
補助記憶域内のジャーナル項目の最大数	ジャーナル項目データが補助記憶域に移される前に監査ジャーナルに書き込まれるジャーナル項目の数を設定する。	QAUDFRCLVL
新規作成オブジェクトのデフォルト監査	ライブラリーに新規オブジェクトが作成される時点で使用されるデフォルトのオブジェクト監査値を設定する。	QCRTOBJAUD

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

• OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときに特に便利です。


システム値カテゴリ

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

監査システム値: アクション監査を活動化する

(QAUDCTL、QAUDLVL)

アクション監査を活動化するは、QAUDCTL (*AUDLVL) を指定した QAUDLVL と呼ばれ、OS/400 システム値の監査カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、オブジェクト・レベルまたはユーザー・レベルの監査を活動化することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「監査」 → 「システム」
特殊権限	監査 (*AUDIT)
デフォルト値	非選択 - アクション監査は活動化されません
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

アクション監査を活動するにはいくつかの値を指定できます。オプションには以下のものがあります。

- 許可の失敗

このオプションを使用して、システムへのサインオンおよびオブジェクトへのアクセスの失敗した試行を監査します。「許可の失敗」を使用して、システムで未許可の機能を実行しようとしているユーザーを定期的にモニターします。また、「許可の失敗」を使用して、より高位の機密保護レベルへのマイグレーションを支援し、新規アプリケーション用の資源の機密保護をテストすることもできます。QAUDLVL システム値の *AUTFAIL オプションとも呼ばれます。

- 通信タスクおよびネットワーキング・タスク

APPN ファイアウォールによって検出された違反を監査します。またこの値は、secure ソケット接続、ディレクトリー検索、およびエンドポイント・フィルタ違反も監査します。QAUDLVL システム値の *NETCMN オプションとも呼ばれます。

- ジョブ・タスク

このオプションを使用して、ジョブに影響するアクション、たとえば、開始、停止、保留、保留解除、取り消し、または、ジョブの変更などを監査します。「ジョブ・タスク」を使用して、誰がバッチ・ジョブを実行しているかをモニターします。QAUDLVL システム値の *JOBDTA オプションとも呼ばれます。

- オブジェクト作成

このオプションを使用して、オブジェクトの作成または置換を監査します。「オブジェクト作成」を使用して、いつプログラムが作成されたか、再コンパイルされたかをモニターします。QAUDLVL システム値の *CREATE オプションとも呼ばれます。

- オブジェクト削除

このオプションを使用して、オブジェクトの削除を監査します。QAUDLVL システム値の *DELETE オプションとも呼ばれます。

- オブジェクト管理

このオプションを使用して、オブジェクトの名前変更操作または移動操作を監査します。「オブジェクト管理」を使用して、オブジェクトを別のライブラリーに移動することによる機密情報のコピーを検出します。QAUDLVL システム値の *OBJMGT オプションとも呼ばれます。

- **オブジェクト復元**
このオプションを使用して、オブジェクトの復元を監査します。「オブジェクト復元」を使用して、未許可オブジェクトを復元する試行を検出します。QAUDLVL システム値の *SAVRST オプションとも呼ばれます。
- **オフィス・タスク**
このオプションを使用して、システム配布ディレクトリの変更、およびメール・ログのオープンを監査します。メール・ログの特定の項目に実行されたアクションは記録されません。「オフィス・タスク」を使用して、メールの経路指定方法を変更する試行を検出し、別のユーザーのメール・ログのオープンをモニターします。QAUDLVL システム値の *OFCSRV オプションとも呼ばれます。
- **光ディスクのタスク**
このオプションを使用して、光ディスク・カートリッジの追加や取り外し、光ディスク・ボリュームを保護するために使用される許可リストの変更などの光ディスクの機能を監査します。その他の機能には、光ディスク・ファイルのコピー、移動、または名前変更、光ディスク・ファイルの保管または保留解除などが含まれます。QAUDLVL システム値の *OPTICAL 値とも呼ばれます。
- **印刷機能**
このオプションを使用して、スプール・ファイルの印刷、プログラムからの直接印刷、あるいは、スプール・ファイルのリモート・プリンターへの送信を監査します。「印刷機能」を使用して、機密情報の印刷を検出します。QAUDLVL システム値の *PRTDTA オプションとも呼ばれます。
- **プログラムの借用**
このオプションを使用して、オブジェクトにアクセスするための借用権限の使用を監査します。「プログラムの借用」を使用して、新規アプリケーションがどこでどのように借用権限を使用しているかをテストします。QAUDLVL システム値の *PGMADP オプションとも呼ばれます。
- **機密保護タスク**
このオプションを使用して、ユーザー・プロファイルまたはシステム値の変更などの機密保護に関連したイベントを監査します。権限や監査やプログラムの所有権を変更したり、所有者の権限を借用するようにプログラムを変更したり、あるいは機密保護担当者のパスワードをリセットすることによって、機密保護を回避しようとする試行を、「機密保護タスク」を使用して検出します。QAUDLVL システム値の *SECURITY オプションとも呼ばれます。
- **サービス・タスク**
このオプションを使用して、オブジェクトのダンプ (Dump Object) コマンドおよび トレース開始 (Start Trace) コマンドなどの保守ツールの使用を監査します。保守ツールの使用やトレース収集においては機密データが取り出されるため、これらを利用して機密保護を回避しようとする試行を、「サービス・タスク」を使用して検出します。QAUDLVL システム値の *SERVICE オプションとも呼ばれます。
- **スプール管理**
このオプションを使用して、作成、コピー、送信を含む、スプール・ファイルで実行されるアクションを監査します。「スプール管理」を使用して、機密データを印刷または送信する試みを検出します。QAUDLVL システム値の *SPLFDTA オプションとも呼ばれます。
- **システム保全性の違反**
このオプションを使用して、オブジェクト・ドメイン保全性違反を監査します。「システム保全性の違反」を使用して、より高位の機密保護レベルへのマイグレーションを支援し、新規アプリケーションをテストできます。QAUDLVL システム値の *PGMFAIL オプションとも呼ばれます。
- **システム管理**
このオプションを使用して、応答リスト、または、パワーオン/パワーオフ・スケジュールの変更などの、システム管理アクティビティを監査します。「システム管理」を使用して、機密保護管理を回避するためにシステム管理機能を使用する試みを検出します。QAUDLVL システム値の *SYSMGT オプションとも呼ばれます。

監査システム値についての詳細情報の入手

システム・レベル監査 (QAUDCTL) に関連した以下の監査システム値も参照してください。

- オブジェクト監査を活動化する (*OBJAUD)
- QTEMP 内のオブジェクトを監査しない (*NOQTEMP)

詳細については、監査システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または、特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

監査システム値: QTEMP 内のオブジェクトを監査しない

(QAUDCTL *NOQTEMP)

QTEMP 内のオブジェクトを監査しないは、QAUDCTL (*NOQTEMP) とも呼ばれ、OS/400 システム値の監査カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、オブジェクト・レベル監査またはユーザー・レベル監査を活動化するとき QTEMP 内のオブジェクトを除外することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 →「構成およびサービス」→「システム値」→「監査」→「システム」
特殊権限	監査 (*AUDIT)
デフォルト値	非選択 - QTEMP ライブラリー内のオブジェクトを監査しません
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

関連したチェック・ボックスを使用して、QTEMP 内のオブジェクトを監査するか否かを指定します。QTEMP ライブラリーはジョブの一時ライブラリーで、ジョブが終了するとクリアされます。

この値を選択して、多数の操作が QTEMP 内のオブジェクトに対して行われるために生じる監査ジャーナル内の混乱を避けてください。監査はアクティブであるが、このオプションが選択されていると、QTEMP ライブラリー内のオブジェクトに対する以下のアクションは監査されません。

- オブジェクトの作成
- オブジェクトの削除
- オブジェクトの変更または読み取り
- 権限、所有者、または 1 次グループのオブジェクトの変更

監査システム値についての詳細情報の入手

詳細については、監査システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または、特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

監査システム値: オブジェクト監査の活動化

(QAUDCTL *OBJAUD)

オブジェクト監査の活動化は、**QAUDCTL (*OBJAUD)** と呼ばれ、OS/400 システム値の監査カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、監査中のオブジェクトがユーザーによってアクセスされるたびに、システムによってレコードが監査ジャーナルに書き込まれるようにします。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 →「構成およびサービス」→「システム値」→「監査」→「システム」
特殊権限	監査 (*AUDIT)
デフォルト値	非選択 - オブジェクト監査は活動化されません
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

「オブジェクト監査の活動化」システム値を使用して、監査中のオブジェクトがユーザーによってアクセスされるたびにシステムがレコードを監査ジャーナルに書き込むか否かを指定します。

監査システム値についての詳細情報の入手


詳細については、監査システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または、特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

監査システム値: 監査ジャーナル・エラー・アクション

(QAUDENDACN)

監査ジャーナル・エラー・アクションは、**QAUDENDACN** と呼ばれ、OS/400 システム値の監査カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムが監査項目を書き込むことができない場合にとる処置を指定します。ジャーナル項目を送るときにエラーが発生したために監査レコードが監査ジャーナルに送られなかった場合、システムは指定された処置をとります。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「監査」 → 「ジャーナリング」
特殊権限	監査 (*AUDIT)
デフォルト値	通知して、継続する
変更が有効になるとき	即時

ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)
-------	--

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を使用して、監査はアクティブだが、システムが項目を監査ジャーナルに書き込むことができないときにとる処置を指定します。

システムの機密保護ポリシーとして、監査なしでは処理を行わないことが必要とされている場合は、この値を、システムをシャットダウンする (*PWRDWN SYS) に設定しなければなりません。ほとんどのシステムでは、通知して、継続する (*NOTIFY) が推奨値です。このシステム値は、オペレーティング・システムによって機密保護監査ジャーナル (QAUDJRN) に送られた監査項目にのみ適用されます。

有効な値は次の通りです。

通知して、継続する

監査が正常に活動化されるまで、1 時間に 1 回ずつ、システム操作員メッセージ待ち行列にメッセージが送られます。

システムをシャットダウンする

システムは、機密保護監査ジャーナルに監査データを送る試行が失敗した場合は、終了します。再びシステムがパワーオンされた時は、システムは制限状態になります。新規オブジェクトのデフォルト監査システム値は、監査をオフにするためになし (None) に設定されます。次の再始動では、システムにサインオンするユーザーは、少なくとも監査 (*AUDIT) 特殊権限とすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限を持っている必要があります。

監査システム値についての詳細情報の入手


詳細については、監査システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または、特定の Kategorii のシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

監査システム値: 補助記憶域に書き込む前のジャーナル項目の最大数

(QAUDFRCLVL)

補助記憶域に書き込む前のジャーナル入力の最大数は、QAUDFRCLVL と呼ばれ、OS/400 システム値の監査カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、ジャーナル項目データが補助記憶域に移動される前に機密保護監査ジャーナルに書き込まれるジャーナル項目の数を設定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「監査」 → 「ジャーナリング」
特殊権限	監査 (*AUDIT)
デフォルト値	システムによる最大項目数の決定

変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

システムによる最大項目数の決定 または 最大項目数 (1 ~ 100) を指定できます。

- システムによる最大項目数の決定

システムがジャーナル項目を補助記憶域に書き込むのは、ジャーナル項目を書き込む必要があると、内部処理に基づいて判断した場合だけです。このオプションを使用すると、監査のパフォーマンスは最高になりますが、システムが異常終了した場合、失われる監査データが一番多くなる可能性もあります。

- 最大項目数 (1 ~ 100)

監査データが補助記憶域に書き込まれる前に機密保護監査ジャーナルに書き込まれる監査ジャーナル項目の数。可能な値は、1 から 100 までです。この値が小さいと、システムのパフォーマンスは低下します。システムの要件として、オペレーティング・システムが異常終了したときに失われる項目があつてはならない場合は、1 を指定します。

監査システム値についての詳細情報の入手

詳細については、監査システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または、特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

監査システム値: 新規作成オブジェクトのデフォルト監査

(QCRTOBJAUD)

新規作成オブジェクトのデフォルト監査は、QCRTOBJAUD と呼ばれ、OS/400 システム値の監査カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、新規オブジェクトがライブラリーに作成されるときに使用されるデフォルト監査値を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「監査」 → 「新規オブジェクト」
特殊権限	監査 (*AUDIT)
デフォルト値	なし
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

新規に作成されたオブジェクトのデフォルト・オブジェクト監査値を指定します。オブジェクトのオブジェクト監査値によって、そのオブジェクトが使用または変更される時点で、監査項目がライブラリー QSYS

のシステム監査ジャーナルに送られるか否かが判別されます。 監査項目は、システムで監査が現在活動化されている場合にのみ、監査ジャーナルに送られます。 監査を開始するには、システム・ページ上の**アクション監査を活動化する**を選択します。

次のオプションを使用することができます。

- **なし**
オブジェクトの使用時または変更時に、そのオブジェクトについての監査項目は送られません。
- **ユーザー設定値**
現在監査されているユーザーによるオブジェクトの使用時または変更時に、そのオブジェクトについての監査項目が送られます。 該当のオブジェクトの使用または変更を行うユーザーが監査されていない場合は、監査項目は送られません。
- **オブジェクトの変更**
オブジェクトの変更時に、そのオブジェクトについての監査項目が送られます。
- **オブジェクトの全アクセス**
オブジェクトの使用時または変更時に、そのオブジェクトについての監査項目が送られます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、監査システム値概要を参照してください。 特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 3 章 OS/400 システム値: 日時の概要

OS/400 日時システム値を使用して、システムの日付、時刻、およびタイムゾーン情報を制御します。システム値の日時カテゴリーにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な日時システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

日時システム値: iSeries ナビゲーター での名前	システム値 の説明	文字ベース・インターフェース での名前
システム日付	システムの日付を設定する。	QDAYOFWEEK、QDATE、QDAY、 QMONTH、QYEAR
うるう年の調整	うるう年の調整を指定する。	QLEAPADJ
時刻	時刻を指定する。	QTIME、QHOUR、 QMINUTE、QSECOND
グリニッジ標準時からのオフセット 平均時間	グリニッジ標準時からのオフセットを 設定する。	QUTCOFFSET

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

日時システム値: システム日付

(QDATE、QDAY、QMONTH、QYEAR、QDAYOFWEEK)

システム日付は、**QDATE**、**QDAY**、**QMONTH**、**QYEAR**、 および **QDAYOFWEEK** と呼ばれ、OS/400 システム値の日時カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムの日付を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 →「構成およびサービス」→「システム値」→「日時」→「日付」
特殊権限	なし
デフォルト値	デフォルト値なし
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ
特別な考慮事項	システム日付は、時刻が真夜中の午前 12:00:00 になると自動的に更新されます。 QDAYOFWEEK を、ユーザーが設定することはできません。うるう年の調整システム値にグレゴリオ暦以外を使用している場合、QDAYOFWEEK は組み込まれません。

このシステム値を使用してユーザーができること。

システムで使用される日付を指定できます。日付には月および年を含みます。システムは、1928 年 8 月 24 日から 2053 年 7 月 6 日までをサポートします。ご使用のシステムがグレゴリオ暦を使用していない場合には、曜日が正しく設定されないことがあります。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、日時システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

日時システム値: うるう年の調整

(QLEAPADJ)

うるう年の調整は、**QLEAPADJ** と呼ばれ、OS/400 システム値の日時カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムのうるう年の調整を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 →「構成およびサービス」→「システム値」→「日時」→「日付」
特殊権限	なし
デフォルト値	暦年がグレゴリオ暦でない場合、国/地域によって異なる。グレゴリオ暦をご使用の場合、デフォルト値はグレゴリオうるう年の調整の使用。
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムのうるう年の調整を指定することができます。このシステム値を正しく設定することによって、システムは、毎年、正しい日付を持つことができます。

このシステム値は、異なる暦の間で、うるう年のシステム・カレンダーの調整を行います。ご使用の暦年がグレゴリオ暦であれば、「グレゴリオうるう年の調整の使用」を選択してください。ご使用の暦年がグレゴリオ暦のものでない場合は、ご使用の暦のうるう年に合わせてシステムのカレンダーを調整する必要があります。この調整を行うには、ご使用の暦でのうるう年の年数を 4 で割り、その余りの値にうるう年の調整を設定します。

たとえば、グレゴリオ暦の 1984 年は、タイ暦では 2527 年でした。2527はうるう年のため、2527を4で割ると、余りの値3が残ります。この場合、タイ暦のシステム・カレンダーを調整するためにうるう年の調整に3を指定してください。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、日時システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

日時システム値: 時刻

(QTIME, QHOUR, QMINUTE, QSECOND)

時刻は、**QTIME**、**QHOUR**、**QMINUTE**、および **QSECOND** とも呼ばれ、OS/400 システム値の日時カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムの時刻を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 構成およびサービス → システム値 → 日時 → 時刻
特殊権限	なし
デフォルト値	デフォルト値なし
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムで使用される時刻を指定できます。時刻は、時、分、秒を指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、日時システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

日時システム値: グリニッジ標準時 (GMT) からのオフセット

(QUTCOFFSET)

グリニッジ標準時からのオフセットは、**QUTCOFFSET** と呼ばれ、OS/400 システム値の日時カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、グリニッジ標準時 (協定世界時 (UTC) ともいう) と現行システム時刻との差を時間と分で指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 構成およびサービス → システム値 → 日時 → 時刻
特殊権限	なし
デフォルト値	+00:00
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

-24:00 から +24:00 の間の値で指定できます。値 -05:00 は、システム時刻が、GMT マイナス 5 時間に等しいことを表します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、日時システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 4 章 OS/400 システム値: 装置概要

OS/400「装置」システム値を使用して、システム装置の自動構成および回復値を制御します。システム値の装置カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの構成およびサービスを選択します。次に、「システム値」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な装置システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

装置システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
ローカル制御装置と装置	ローカル制御装置と装置の自動構成を設定する。	QAUTOCFG
装置命名規則	装置命名規則を指定する。	QDEVNAMING
遠隔制御装置と装置	遠隔制御装置と装置の自動構成を設定する。	QAUTORMT
パススルー装置と Telnet	パススルー装置と Telnet の自動構成を設定する。	QAUTOVRT
ワークステーションで装置エラーが起こった時に行なわれるアクション	エラーが発生したときにとる処置を設定する。	QDEVRCYACN

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。


システム値カテゴリ

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

装置システム値: ローカル制御装置と装置

(QAUTOCFG)

ローカル制御装置と装置は、QAUTOCFG と呼ばれ、OS/400 システム値の装置カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ローカル制御装置と装置の自動構成を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 構成およびサービス → システム値 → 装置 → 一般
特殊権限	なし
デフォルト値	選択済み - ローカル制御装置と装置は自動的に構成される
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

システムに追加される装置と制御装置を自動的に構成するか否かを指定できます。構成される特定の制御装置と装置についての詳細は、**Local Device Configuration, SC41-5121** の第 1 章を参照してください。

このオプションを選択しない場合は、システムに追加する新規のローカル制御装置または装置は、すべて手動で構成しなければなりません。

このオプションを選択すると、自動構成はオンになります。システムは、システムに追加される新しいローカル制御装置または装置を自動的に構成します。システム操作員は、システム構成の変更を示すメッセージを受け取ります。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、装置システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけた場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

装置システム値: 装置命名規則

(QDEVNAMING)

装置命名規則は、**QDEVNAMING** と呼ばれ、OS/400 システム値の装置カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、装置命名規則を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 構成およびサービス → システム値 → 装置 → 一般
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	OS/400 命名を使用する
変更が有効になるとき	次回装置が構成される時。構成済みの現存装置名は変更されません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムが自動的に装置記述を作成する場合に使用される命名規則を指定できます。これらの名前は、システムに追加されるローカル制御装置または装置の装置記述を作成するときに使用されます。

次のオプションを使用することができます。

- **OS/400 命名を使用する**
OS/400 標準にしたがった命名規則を使用する。
- **System/36 命名を使用する**
System/36 標準にしたがった命名規則を使用する。
- **装置アドレスを使用する**
装置アドレスから装置名を導き出します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、装置システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

装置システム値: 遠隔制御装置と装置

(QAUTORMT)

遠隔制御装置と装置は、**QAUTORMT** と呼ばれ、OS/400 システム値の装置カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、遠隔制御装置と装置の自動構成を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 構成およびサービス → システム値 → 装置 → 一般
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	選択済み - 遠隔制御装置と装置は自動的に構成される
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

システムに接続する遠隔制御装置と装置を自動的に構成するか否かを指定できます。このオプションを選択しない場合は、システムに接続する新規の遠隔制御装置または装置は、すべて手動で構成しなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、装置システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

装置システム値: パススルー装置および Telnet

(QAUTOVRT)

パススルー装置と Telnet は、QAUTOVRT とも呼ばれ、OS/400 システム値の装置カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、パススルー装置と Telnet の自動構成を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「装置」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - パススルー装置が自動的に構成されないようにします
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

自動構成する仮想装置の数を指定できます。

装置を自動構成したくない場合は、このオプションを選択しないでください。装置が自動的に削除されて、このシステム値に指定した制限値に合計数を下げることはありません。したがって、ユーザーが、高い値から低い値に変更しても、システムが仮想装置を削除することはありません。

Telnet セッション用またはパススルー用セッションの装置 (クライアントはこれらに対する要求の名前を指定しない) を作成する前に、このシステム値が検査され、新しい装置がこのシステム値に指定された数を超過しないことを確認します。さらに仮想装置記述を作成するとこのシステム値が指定する制限を超過してしまう場合は、装置は Telnet またはパススルー用に作成されません。ただし、パススルー用の装置に対する要求は、クライアントが受信要求 (開始レコード (Start Up Record)) で名前を指定した場合には、装置記述を作成する前にこのシステム値の制限を検査しません。

システムが仮想装置を削除するのは、仮想装置が損傷を受けたか、装置のタイプを変更するために再度作成する必要がある場合だけです。

パススルー装置と Telnet を選択する場合は、以下のオプションのどちらかを選択して、構成する装置の最大数を指定してください。

装置の最大数なし

自動的に構成される仮想装置の数は無制限です。

装置の最大数 (1 ~ 32500)

自動的に構成される装置の最大数で、可能な値は、1 から 32500 までです。

▶ 登録済み出口プログラムの実行

仮想装置選択 (QIBM_QPA_DEVSEL) 出口点が、仮想装置がシステムによって選択または自動的に作成される必要がある時に呼び出されます。出口点に登録済みのプログラムが存在しないか、あるいはエラーを戻した場合は、システムはこのシステム値が非選択であるものとして状態を処理します (仮想装置の自動構成は許可されません)。

値が登録済み出口プログラムの実行である場合、このプログラムは、仮想装置がパススルー・セッションまたは Telnet セッションによって要求される度に呼び出されます。◀

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、装置システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

装置システム値: ワークステーションで装置エラーが起こった時に行なわれるアクション

(QDEVRCYACN)

ワークステーションで装置エラーが発生したときにとる処置は、**QDEVRCYACN** とも呼ばれ、OS/400 システム値の装置カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、エラーが発生したときにとる処置を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「装置」 → 「リカバリー」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	ジョブを切断し、再接続後に、メッセージをユーザーのアプリケーションに送ります。
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

対話型ジョブのワークステーションで入出力エラーが発生したときにとる処置を指定できます。

そのジョブによって次の入出力操作が行われるまで、装置回復処置は、行われません。LAN 環境または WAN 環境においては、これによって、そのジョブに対する次の入出力操作が行われる前に 1 つの装置を切り離し、一方同じ装置記述を使用して別の装置を接続してしまうことが起こり得ます。該当のジョブは、入出力エラー・メッセージから回復し、2 番目の装置で実行を継続することがあり得ます。これを防

止するには、装置回復処置として、ジョブを切断し、再接続後に直前の要求レベルに戻るか、あるいはジョブを終了し、メッセージを QHST ログに送るを指定する必要があります。この装置回復処置は、電源遮断などの入出力エラーが発生するとただちに実行されます。

以下のオプションから選択します。

- **エラー・メッセージをユーザーのアプリケーションに送ります。**
入出力エラー・メッセージをそのユーザーのアプリケーション・プログラムに送ります。アプリケーション・プログラムはエラー回復手順を実行します。
- **ジョブを切断し、再接続後に、メッセージをユーザーのアプリケーションに送ります。**
ジョブを切り離します。ユーザーが再度サインオンすると、エラー・メッセージがアプリケーション・プログラムに送られます。
- **ジョブを切断し、再接続後に、直前の要求レベルに戻ります。**
ジョブを切り離します。ユーザーが再度サインオンすると、取り消し要求機能が行われ、そのジョブの制御を最後の要求レベルに戻します。
- **ジョブを終了し、メッセージを QHST ログに送ります。**
ジョブを終了します。装置エラーによりジョブが終了したことを示すメッセージが QHST ログに送られます。ジョブ終了によるパフォーマンスへの影響を最小限にするために、そのジョブの優先順位が 10 段階下げられ、タイム・スライスが 100 ミリ秒に設定され、除去 (ページ) 属性が YES に設定されます。
メッセージをジョブ・ログおよび QHST ログに送りたい場合は、**ジョブ・ログを作成する**を選択します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、装置システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけた場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 5 章 OS/400 システム値: インターナショナル概要

OS/400 インターナショナル・システム値を使用して、システムのロケール値、および、数値、通貨、日付、および時刻が表示される方法を表示/変更します。システム値のインターナショナル・カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なインターナショナル・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

インターナショナル・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
日時	日付を表示するときに使用される形式を設定する。日付値と時刻値を分離するのに使用する記号を指定することもできる。	QDATFMT、QTIMSEP、QDATSEP
10 進数の形式	数値を表示するときに使用される形式を指定する。	QDECFMT
通貨記号	通貨値を表示するときに使用される記号を設定する。	QCURSYM
言語	システムで使用される言語を設定する。	QLANGID
国/地域	システムによって使用される国/地域を指定します。	QCNTYID
デフォルト・システム・キーボード	システムで使用されるキーボード・タイプを設定する。	QKBDTYPE
コード化文字セット ID	コード化文字セット識別コードを指定する。	QCCSID
図形文字セット/コード・ページ	システムの図形文字セットとコード・ページを設定する。	QCHRID
文字識別コード制御	文字識別コード制御を設定する。	QCHRIDCTL
ソート順序	システムで使用されるソート順序を指定する。	QSRTSEQ
コード化フォント名	システムで使用されるコード化フォント名を指定する。	QIGCCDEFNT
コード化フォント・ポイント・サイズ	システムで使用されるコード化フォント・ポイント・サイズを指定する。	QIGCFNTSIZ

ロケール	システムで使用されるロケールを指定する。	QLOCALE
ロケールを基にしたジョブ属性の設定	ロケールを基にした特定のジョブ属性を設定する。	QSETJOBATR
DBCS 可能	システムの 2 バイト文字セット (DBCS) バージョンがインストールされているかどうかを指定する。	QIGC

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

インターナショナル・システム値: 日付と時刻

(QDATFMT, QDATSEP, QTIMSEP)

日時は、**QDATFMT**、**QDATSEP**、および **QTIMSEP** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。これらのシステム値を使用して、日付を表示するときに使用する形式を設定し、日付と時刻を分離するときに使用する記号を指定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「形式」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	その変更以降にシステムに入る新しいジョブに対して即時に有効になります。これには、この変更の時点で活動状態のジョブは含まれません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

日時関数を指定できます。 オプションには以下のものがあります。

- **日付形式**
日付の表示方法を指定します。以下の日付の形式のいずれも選択することができます (区切り文字にスラッシュを選択したものと想定しています)。
 - 年月日
たとえば、YY/MM/DD
 - 月日年
たとえば、MM/DD/YY
 - 日月年
たとえば、DD/MM/YY
 - ユリウス
たとえば、YY/DDD
- **日付区切り文字**
日付を分離するのに使用する文字を指定します。以下のいずれかの文字を使用できます。
 - スラッシュ (/)
 - ダッシュ (-)
 - ピリオド (.)
 - コンマ (,)
 - ブランク
- **時刻区切り文字**
時刻のパーツを分離する文字を指定します。以下のいずれかの文字を使用できます。
 - コンマ (,)
 - ピリオド (.)
 - コロン (:)
 - ブランク

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、 [インターナショナル・システム値概要](#)を参照してください。特定のシステム値、または、特定の 카테고리의システム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: 10 進数の形式

(QDECFMT)

10 進数の形式は、**QDECFMT** と呼ばれ、OS/400 システム値の **インターナショナル・カテゴリ**のメンバーです。このシステム値を使用して、数値を表示するときに使用する形式を設定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「形式」

特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	その変更以降にシステムに入る新しいジョブに対して即時に有効になります。これには、この変更の時点で活動状態のジョブは含まれません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

数値を表示するときに使用する形式を指定できます。このシステム値は、次の目的に使用されます。

DDS の編集コード 1 ~ 4 および A ~ M で使用するゼロ抑制のタイプおよび小数点文字の判別。

画面の 10 進数入力フィールドで使用する小数点文字の判別。

10 進数の形式として可能な値は次のとおりです。

- **1,000.04 .04**
小数点としてピリオド、3 桁の区切り記号にはコンマを使用し、小数点の左方のゼロを抑制します。
- **1.000,04 0,04**
小数点としてコンマ、3 桁の区切り記号にはピリオドを使用します。コンマの左方のゼロは、1 つだけ先行ゼロが書かれます (0,04)。この値を指定すると、先行ゼロを抑制する編集コードをオーバーライドします。
- **1.000,04 ,04**
小数点としてコンマ、3 桁の区切り記号にピリオドを使用し、小数点の左方のゼロを抑制します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、[インターナショナル・システム値概要](#)を参照してください。特定のシステム値、または、特定の категорияのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: 通貨記号

(QCURSYM)

通貨記号は、**QCURSYM** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、通貨に使用する記号を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、[以下](#)を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「形式」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	即時

ロック可能	いいえ
-------	-----

このシステム値を使用してユーザーができること

システムで使用される通貨記号を指定できます。ブランク、-、&、*、または 0 を除く任意の文字を入力できます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、 [インターナショナル・システム値概要](#)を参照してください。 特定のシステム値、または特定の 카테고리의システム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: 言語

(QLANGID)

言語は、**QLANGID** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用するデフォルト言語を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、[以下](#)を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「言語/文字」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	即時。ただし、すでに開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムのデフォルトとして使用される言語識別コードを指定します。 [ソート順序](#) ページに、言語に関連した [共用重みソート・テーブルの使用](#) または [言語に関連した固有の重みソート・テーブルの使用](#) を指定した場合、使用されるソート順序テーブルは、言語システム値に関連した固有の重みソート・テーブルまたは共用重みソート・テーブルです。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、 [インターナショナル・システム値概要](#)を参照してください。 特定のシステム値、または特定の カテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: 国/地域

(QCNTYID)

国/地域 は、**QCNTYID** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用するデフォルトの国/地域を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「言語/文字」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	即時。ただし、すでに開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムのデフォルト値として使用する国/地域識別コードを指定できます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または、特定のカテゴリーのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: デフォルト・システム・キーボード

(QKBDTYPE)

デフォルト・システム・キーボードは、**QKBDTYPE** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用するキーボード・タイプを設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「言語/文字」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

キーボードに別の言語文字セットを指定することができます。オペレーティング・システムがインストールされたときに、このシステム値は、その時点で指定された言語に基づいて、該当するキーボード値に設定されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: コード化文字セット ID

(QCCSID)

コード化文字セット ID は、**QCCSID** とも呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、デフォルトのコード化文字セット識別コードを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「言語/文字」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	即時。ただし、すでに開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

コード化文字セット識別コード (CCSID) は、以下のものを識別します。

- コード体系識別コードの特定のセット
- 文字セット識別コード
- コード・ページ識別コード
- システムが使用するコード化図形文字表記を固有に識別する、追加のコード化関連情報

システムにインストールされている 1 次言語に基づいて値を指定する必要があります。可能な値は、1 から 65535 までです。

2 バイト文字セット (DBCS) を使用できるシステムでは、このシステム値は、混合 CCSID (1 バイト文字セットおよび 2 バイト文字セットの両方とコード・ページを表す CCSID) に設定する必要があります。DBCS を使用できないシステムでは、図形文字セットは、1 バイト文字セット (SBCS) CCSID に設定しな

ければなりません。 **DBCS** ページの **2 バイト文字可能**フィールドは、DBCS バージョンのシステムがインストールされているかどうかを表します。コード化文字セットと図形文字セットのコード・ページは、必ず互換性がなければなりません。コード化文字セットが図形文字セットのコード・ページと互換性のない値に変更された場合は、図形文字セットが自動的に変更されます。

ご使用の言語のデフォルト値のリストについては、各国語バージョンのデフォルト・システム値を参照してください。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、 **インターナショナル・システム値概要**を参照してください。 特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: 図形文字セット/コード・ページ

(QCHRID)

図形文字セット/コード・ページは、**QCHRID** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリのメンバーです。 このシステム値を使用して、システムで使用する図形文字セットおよびコード・ページを指定します。 iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「言語/文字」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	変更以降に作成、変更、あるいはオーバーライドされる表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルに対して即時に。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

デフォルトの図形文字セットとコード・ページを指定できます。 このシステム値は、表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルを作成、変更、またはオーバーライドする CL コマンドに、CHRID (*SYSVAL) を指定した場合に使用される文字セットおよびコード・ページを指定します。

このシステム値は、**コード化文字セット ID** が変更されると、自動的に変更されます。 このシステム値ではなく、**コード化文字セット ID** システム値を変更することをお勧めします。**コード化文字セット ID** を変更すれば、**図形文字セット/コード・ページ**のシステム値は自動的に更新されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の 카테고리의システム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: 文字識別コード制御

(QCHRIDCTL)

文字識別コード制御は、**QCHRIDCTL** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループで生じるコード化文字セット識別コード (CCSID) 変換のタイプを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「言語/文字」
特殊権限	なし
デフォルト値	装置記述
変更が有効になるとき	変更以降に作成、変更、あるいはオーバーライドされる表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルに対して即時に。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対してジョブ内で生じるコード化文字セット識別コード (CCSID) の変換のタイプを指定します。この属性の使用に先立って、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループの作成、変更、あるいはオーバーライドのコマンドの文字識別コード (CHRID) コマンド・パラメーターに文字識別コード制御特殊値の指定が必要です。このシステム値は、文字識別コード制御ジョブ属性または文字識別コード制御ユーザー・プロファイル属性を設定するために参照することができます。

次のオプションを使用することができます。

- **装置記述**
変換は生じません。
- **ジョブ**
装置の文字識別コード (CHRID) とジョブの文字識別コード (CCSID) とが異なり、ジョブの文字識別コード (CCSID) が 65535 でない場合は、コード化文字セット識別コード (CCSID) の変換が生じます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の 카테고리의システム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: ソート順序

(QSRTSEQ)

ソート順序は、**QSRTSEQ** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用されるソート順序を指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「ソート順序」
特殊権限	なし
デフォルト値	文字の 16 進値を使用する
変更が有効になるとき	即時。ただし、開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムで使用するデフォルトのソート順序を指定します。ソート順序とは、データをソート、結合、比較するために、コンピューター内で文字を配列する順序のことです。ソート順序テーブルは、ユーザーの国別要件にしたがって、文字をより正確にソートします。国別あるいは使用中の単一バイト・コード化文字セットの言語に関係なく、ご使用の言語とアルファベットに一貫性のある順序で、リストをソートすることができます。

次のオプションを使用することができます。

- **文字の 16 進値を使用する**
ソート順序テーブルは使用されません。ソート順序の決定には、文字の 16 進値が使用されます。
- **言語に関連した共用重みソート・テーブルを使用する**
使用されるソート順序テーブルには、複数の文字について同じ重みを入れることができます。これは、「言語/文字 (Language/Characters)」ページで指定した言語に関連した、共用重みソート・テーブルです。
- **言語に関連した固有重みソート・テーブルを使用する**
使用されるソート順序テーブルには、コード・ページの中の各文字の固有の重みが入っていなければなりません。これは、「言語/文字 (Language/Characters)」ページで指定した言語に関連した、固有重みソート・テーブルです。
- **特定のソート・テーブルを使用する**
ソート順序テーブルの指定名とライブラリーが使用されます。ソート順序テーブルは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: コード化フォント名

(QIGCCDEFNT)

コード化フォント名は、**QIGCCDEFNT** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用されるコード化フォント名を指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「DBCS」
特殊権限	なし
デフォルト値	国/地域によって異なる
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

SNA 文字ストリング (SCS) データを、データ内にシフトイン/シフトアウト (SI/SO) 文字を含む、高機能印刷データ・ストリーム (AFPDS) スプール・ファイルに変換するときに使用される DBCS コード化フォントの名前を指定します。コード化フォントは、複数のペアのコード・ページとフォント文字セットを関連付けます。

次のオプションを使用することができます。

- なし
システムに対して示されるコード化フォントはありません。
- コード化フォント名
DBCS コード化フォントの名前。コード化フォント名は 8 文字以下でなければなりません。

IGC コード化フォントは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: コード化フォント・ポイント・サイズ

(QIGCFNTSIZ)

コード化フォント・ポイント・サイズは、**QIGCFNTSIZ** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用されるコード化フォント・ポイント・サイズを指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「インターナショナル」 → 「DBCS」
特殊権限	なし
デフォルト値	システムによって選択済み
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

2 バイト・コード化フォントのポイント・サイズを指定します。文字は、コンピューターの中では、コード・ポイントと呼ばれる 1 バイト以上の情報で表されます。コード・ポイントは、各図形文字に割り当てられた 16 進値です。コンピューターはコード・ポイントを使用して、文字を入力、保管、変更、表示、印刷、交換します。

この値は、SNA 文字ストリング (SCS) を高機能印刷用データ・ストリーム (AFPDS) に変換するときに、コード化フォント名と一緒に使用されます。これらの値は、データにシフトイン/シフトアウト (SI/SO) 文字を含む AFPDS スプール・ファイルを作成する場合にも使用されます。

次のオプションを使用することができます。

- システムによって選択済み
システムに対して示されるフォント・ポイント・サイズはありません (*NONE)。
- **000.1 ~ 999.9**
2 バイト・コード化フォントのポイント・サイズを指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: ロケール

(QLOCALE)

ロケールは、**QLOCALE** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムのロケール・パスを設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス

ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「イ ンターナショナル」 → 「ロケール」
特殊権限	なし
デフォルト値	なし
変更が有効になるとき	即時。ただし、開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ジョブのデフォルト・ロケール・パスを設定します。ロケール・パス名は、ロケール・オブジェクトを指定するパスでなければなりません。ロケールは、データをプロセス、印刷、表示する方法を決めるオブジェクトです。ロケールは、言語、国別データ、および文字セットを定義するカテゴリで構成されています。言語、国別データ、および文字セットの具体的な組み合わせがロケールを構成します。

次のオプションを使用することができます。

- なし
デフォルトのロケールがないことを指定します。
- **C** ロケール
C 標準ロケールを使用することを示します。
- **POSIX** ロケール
POSIX 標準ロケールを使用することを示します。POSIX ロケールは、C ロケールと同等です。
- システム指定ロケール
iSeries ナビゲーター内で表示されているリストからロケールを選択します。
- パス名
使用するロケールのパス名を指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

インターナショナル・システム値: ロケールを基にしたジョブ属性の設定

(QSETJOBATR)

ロケールを基にしたジョブ属性の設定は、**QSETJOBATR** と呼ばれ、OS/400 システム値のインターナショナル・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブが開始されるときに、特定のジョブ属性がロケールの中の値に設定されることを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス

ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「イ ンターナショナル」 → 「ロケール」
特殊権限	なし
デフォルト値	非選択 - ジョブ属性をロケールを基にして設定しない
変更が有効になるとき	即時。ただし、すでに開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ジョブが開始されるときに、特定のジョブ属性がロケールの中の値に設定されることを指定できます。このオプションを選択する場合は、以下のジョブ属性を指定することができます。

- 日付形式
- 日付区切り記号
- 時刻区切り文字
- 10 進形式
- コード化文字セット識別コード
- ソート順序

これらの値は、ロケールの中の値が、設定される属性の有効な値に合致する場合にのみ設定されます。値は、ジョブが開始されるときに設定されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、インターナショナル・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の 카테고리의システム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 6 章 OS/400 システム値: ジョブ概要

OS/400 ジョブ・システム値を使用して、システム・レベルのジョブ限度および他のジョブ・デフォルトを表示または変更します。システム値の記憶域カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なジョブ・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

ジョブ・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
再始動での記憶域の割り振り	活動ジョブおよびジョブ合計で、再始動時に使用される記憶域を指定する。	QACTJOB、QTOTJOB
必要な記憶域の追加割り振り	必要に応じて割り振られる記憶域を指定する。	QADLACTJ、QADLTOTJ
ジョブの最大数	ジョブの最大数を指定する。	QMAXJOB
プリンター出力ブロックの初期サイズ	内部制御ブロック (SCB) の初期サイズを制御する。	QJOBSPLA
プリンター出力ファイルの最大数	1 つのジョブに使用が許可されるプリンター出力ファイルの最大数を指定する。	QMAXSPLF
ジョブ・ログの最大サイズ	ジョブ・ログの最大サイズを指定する。	QJOBMSGQMX
最大サイズに達したとき	ジョブ・ログの最大サイズに達したときにとる処置を指定する。	QJOBMSGQFL
非活動ジョブのタイムアウト・インターバル	非活動ジョブのタイムアウト・インターバルを指定する。	QINACTITV
ジョブがタイムアウトになったとき	非活動ジョブがタイムアウトになったときにとる処置を指定する。	QINACTMSGQ
切断されたジョブのタイムアウト・インターバル	切断されたジョブのタイムアウト・インターバルを指定する。	QDSCJOBITV
マルチスレッド・ジョブ内の機能がスレッドセーフでないとき	機能がスレッドセーフでないときにとる処置を指定する。	QMLTTHDACN
▶ ジョブ終了後プリンター出力切り離し	スプール・ファイルをジョブと共に保持するか、それともジョブから切り離すか指定する。	QSPLFACN ◀

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

ジョブ・システム値: 再始動時の記憶域の割り振り

(QACTJOB, QTOTJOB)

再始動時の記憶域の割り振りは、**QACTJOB** および **QTOTJOB** と呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、活動ジョブおよびジョブ合計の、再始動時に使用される記憶域の量を設定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「割り振り」
特殊権限	なし
デフォルト値	活動ジョブの場合 — 20。ジョブ合計の場合 — 30。
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

上記の 2 つのシステム値によって、再始動時に記憶域を割り振る活動ジョブとジョブ合計の数を指定します。

活動ジョブ

システムを再始動するときに補助記憶域が割り振られる活動ジョブの初期数を指定します。活動ジョブは、実行が開始され、まだ終了していないジョブです。この記憶域は、ジョブ合計システム値を使用して割り振られる記憶域に追加して割り振られる記憶域です。


活動ジョブに割り振る新しい値を決めることができます。この値は、典型的な使用負荷の高い日に基づいて予測される活動状態のジョブの数でなければなりません。「**実行管理機能**」を選択し、次に「**活動ジョブ**」を選択することにより、システム上でアクティブなジョブの数を、iSeries ナビゲーターで表示することができます。活動ジョブの合計数は、iSeries ナビゲーターのウィンドウの下部にあるステータス・バーに示されます。活動ジョブのリストにはユーザー・ジョブとシステム・ジョブの両方が含まれていますが、再始動時の活動ジョブに値を割り当てるときには、ユーザー・ジョブだけを考慮します。

合計ジョブ

記憶域が割り振られるジョブの最小数を表します。この数はシステムが任意の一時点で同時にサポートするジョブ数であり、これには、ジョブ待ち行列上のジョブ、活動ジョブ (システム・ジョブを含む)、および、出力待ち行列に出力を持つジョブが含まれます。

設定した値により、必要な記憶域の量が現在使用可能な量を超える場合には、追加の記憶域が割り振られません。この値が、必要な記憶域の量が現在使用可能な量より少なくなるように設定されると、どのような処置も行われません。

システム内の合計ジョブ数を知るには、iSeries ナビゲーターで右マウス・ボタン・クリックし、「システム状況」を選択します。この数は、再始動とある種の内部検索の実行に要する時間に影響するので、常に妥当な範囲を維持する必要があります。そのためには、システムにジョブ・ログのみを持つ

ジョブを定期的に除去する必要があります。CL プログラミング  には、ジョブ・ログ、および、正常に完了したジョブのジョブ・ログを除去する方法についての説明があります。ジョブが、システムが認識するスプール出力ファイルを 1 つでも持っているかぎり、そのジョブに対する認識はシステムに残り、システム状況表示の値にカウントされます。

ジョブ構造の再利用には、ジョブ終了後プリンター出力切り離しシステム値も使用できます。これにより、処理されるべきジョブの数をさらに制御できます。

この値は、通常は合計のジョブ数を超えないように高く設定すべきです。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: 必要な追加記憶域の割り振り

(QADLACTJ、QADLTOTJ)

合計ジョブおよび活動ジョブに対する必要な追加記憶域の割り振りは、**QADLACTJ** と呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、必要に応じて割り振る追加記憶域の量を設定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「割り振り」
特殊権限	なし
デフォルト値	活動ジョブの場合 — 10。ジョブ合計の場合 — 10。
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

上記の 2 つのシステム値は、再始動時の活動ジョブと合計ジョブの初期数に達したときに補助記憶域が割り振られる活動ジョブと合計ジョブの追加数を指定します。

活動ジョブ

再始動時の活動ジョブの初期数に達したときに補助記憶域が割り振られる活動ジョブの追加数を指定します。活動ジョブは、実行が開始され、まだ終了していないジョブです。活動ジョブの数が、すでに割り振られている記憶域を超過すると、この補助記憶域が割り振られます。

このシステム値には、値 100 を使用することをお勧めします。1 に近い値を設定すると、多くの追加ジョブが必要になった場合に割り込みが頻繁に生じる可能性があります。記憶域の追加に要する時間を最小限にするために、この値を過度に大きくしてはなりません。

合計ジョブ

再始動時のジョブの初期数に達したときに、補助記憶域を割り振る追加のジョブの数を指定します。ジョブの数が、すでに割り振られている記憶域を超過すると、この補助記憶域が割り振られます。

このシステム値には、値 100 を使用することをお勧めします。1 に近い値を設定すると、多くの追加ジョブが必要になった場合に割り込みが頻繁に生じる可能性があります。記憶域の追加に要する時間を最小限にするために、この値を過度に大きくしてはなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: ジョブの最大数

(QMAXJOB)

ジョブの最大数は、**QMAXJOB** と呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システム上で許可されるジョブの最大数を指定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「割り振り」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	163520
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システム上で許可されるジョブの最大数を指定できます。ジョブの数がこの最大値に達すると、システムで、さらにジョブを実行依頼したり開始することはできません。このシステム値を使用して、ジョブ・テーブルに使用される記憶域を制限します。可能な値は、32000 から 485000 までです。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: プリンター出力ブロックの初期サイズ

(QJOBSPLA)

プリンター出力ブロックの初期サイズは、**QJOBSPLA** と呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブのスプーリング制御ブロックの初期サイズを指定します。(システムの各ジョブごとに、1 つのスプーリング制御ブロックがあります。) iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「プリンター出力」
特殊権限	なし
デフォルト値	3516
変更が有効になるとき	iSeries サーバーの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ジョブのスプーリング制御ブロックの初期サイズを指定できます。(システムの各ジョブごとに、1 つのスプーリング制御ブロックがあります。) スプーリング制御ブロックには、インライン・スプール・ファイルおよび出力スプール・ファイルに関する情報が保管されます。この値は、主として、補助記憶域の必要量に影響するだけで、パフォーマンスにはほとんど影響しません。システムが認識するすべてのジョブに対して、補助記憶域が確保されます。

割り振られる区域には、標準の制御情報と、各インライン・スプール・ファイル固有の制御情報が入ります。デフォルトは 3516 バイトで、これで、ジョブごとにほぼ 8 つのインライン・スプール・ファイルを入れることができます。通常のユーザー・ジョブが 8 つ以上のインライン・ファイルを使用し、しかもジョブごとの 4KB の追加の割り振りに支障がない場合は、8192 バイトを選択するのが賢明です。これによって、ジョブごとにほぼ 59 個のインライン・スプール・ファイルに対応することができます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: プリンター出力ファイルの最大数

(QMAXSPLF)

プリンター出力ファイルの最大数は、**QMAXSPLF** とも呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブごとに作成できるプリンター出力ファイルの最大数を指定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「プリンター出力」
特殊権限	なし
デフォルト値	9999
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ジョブごとに作成できるプリンター出力ファイル (スプール・ファイルともいう) の最大数を指定することができます。プリンター出力ファイルは、この値をより小さい数に変更しても削除されることはありません。したがって、このシステム値を小さい数に設定する前にプリンター出力ファイルが存在していた場合は、ジョブは、プリンター出力ファイルのこの最大数より大きな数を持つことができます。9999 から 999999 の間の値を指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: ジョブ・ログの最大サイズ

(QJOBMSGQMX)

ジョブ・ログの最大サイズは、**QJOBMSGQMX** とも呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブ・ログ (ジョブ・メッセージ待ち行列ともいう) の最大サイズを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「ジョブ・ログ」
特殊権限	なし
デフォルト値	16
変更が有効になるとき	即時。ただし、すでに開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ジョブ・ログの最大サイズをメガバイト単位で指定します。どのジョブ・ログに対してであれ、この最大サイズに達すると、そのジョブ・ログはフルになったと見なされ、**最大サイズに達したときに**指定されている処置がとられます。可能な値は、8 から 64 までです。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: 最大サイズに達したとき

(QJOBMSGQFL)

最大サイズに達したときは、**QJOBMSGQFL** と呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブ・ログ (ジョブ・メッセージ待ち行列ともいう) がフルになったと見なされたときにシステムがジョブ・ログを処理する方法を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「ジョブ・ログ」
特殊権限	なし
デフォルト値	ジョブ・ログを折り返ししない。ジョブを終了する。
変更が有効になるとき	即時。ただし、すでに開始済みのジョブには影響しない。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ジョブ・メッセージ待ち行列がフルになったときのシステム処置を指定します。ジョブ・メッセージ待ち行列がフルになったと見なされる時点は、**ジョブ・ログの最大サイズ**・フィールドに指定された値によって示されます。

次のオプションを使用することができます。

- **ジョブ・ログを折り返ししない。ジョブを終了する。**
ジョブ・ログを折り返ししない。ジョブ・ログの最大サイズに達したときにジョブは終了します。
- **ジョブ・ログを折り返しする。**
ジョブ・ログを折り返しする。折り返しのためにオーバーレイされるメッセージを、**オーバーレイされるメッセージの印刷**を選択することによって、印刷することができます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: 非活動ジョブのタイムアウト・インターバル

(QINACTITV)

非活動ジョブのタイムアウト・インターバルは、**QINACTITV** とも呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブがタイムアウトになったときに指定した処置をとるまでシステムが待つ時間間隔を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 →「構成およびサービス」→「システム値」→「ジョブ」→「対話型ジョブ」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	タイムアウトにならない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

タイムアウト・インターバルオプションおよびジョブがタイムアウトになったときオプションを使用して、それぞれ、ジョブが非活動状態とマーク付けされる前にアクティビティを実行できるチャンスを分数で指定し、非活動ジョブが時間制限になったときにとる処置を指定します。

タイムアウト・インターバルは、非活動ジョブがタイムアウトになる時間間隔を分で指定します。この時間制限が過ぎると、システムは、非活動な対話型ジョブに処置をとります。このシステム値は、非活動ジョブに対して処置をいつとるのかを決定します。遠隔システムにサインオンしているローカル・ジョブはこの対象になりません。たとえば、ワークステーションがシステム A に直接接続されており、システム A でこのシステム値がオンに設定されているとします。パススルーまたは Telnet を使用してシステム B にサインオンする場合は、システム A で設定されているタイムアウト値によってこのワークステーションが影響を受けることはありません。

次のオプションを使用することができます。

- **タイムアウトにならない**
システムは非活動な対話型ジョブについての検査を行いません。
- **5 ~ 300**
処置がとられるまでにジョブが非活動状態を継続できる時間 (分)。


このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: ジョブがタイムアウトになったとき

(QINACTMSGQ)

ジョブがタイムアウトになったときは、**QINACTMSGQ** とも呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブが指定されたタイムアウト・インターバルになったときにシステムがとる処置を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 →「構成およびサービス」→「システム値」→「ジョブ」→「対話型ジョブ」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	ジョブの終了
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

対話型ジョブが指定した一定の時間非活動であった場合にシステムがとる処置を指定します。選択できる処置は、該当の対話型ジョブを終了するか、または切り離すか、あるいは指定したメッセージ待ち行列にメッセージを送るかのいずれかです。

次のオプションを使用することができます。

- **ジョブの終了**

該当の対話型ジョブを終了し、さらにそのジョブに関連する 2 次ジョブまたはグループ・ジョブがあればそれも終了します。同時に終了すべき多くの対話型ジョブが 1 つのサブシステムにある場合は、そのサブシステムの対話応答時間が遅くなることがあります。この影響を最小限にするために、システムは終了する各ジョブのいくつかのジョブ属性を変更します。ジョブ優先順位が 10 段階低くなり、タイム・スライスが 100 ミリ秒に設定され、除去属性が YES に設定されます。

- **ジョブの切断**

該当の対話型ジョブが切断されるほか、それに関連した 2 次ジョブまたはグループ・ジョブがあればそれも切断されます。この処置が指定されても、ジョブが切断できない場合は、**ジョブの終了**が使用されます。

- **メッセージの送信**

メッセージ CPI 1126 が、指定したメッセージ待ち行列に送られます。指定したメッセージ待ち行列が存在しないか損傷を受けている場合は、メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列に送られません。

このシステム値によって指定されたメッセージ待ち行列の中のメッセージはすべて、再始動のときに、クリアされます。あるユーザーのメッセージ待ち行列をこのシステム値に割り当てると、そのユーザーは自分のメッセージ待ち行列のすべてのメッセージを、システムの再始動のたびに失うこととなります。

メッセージ待ち行列は、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。


このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: 切断されたジョブのタイムアウト・インターバル

(QDSCJOBITV)

切断されたジョブのタイムアウト・インターバルは、**QDSCJOBITV** とも呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブが終了せずに切断されたままになっていられる時間の長さを指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 →「構成およびサービス」→「システム値」→「ジョブ」→「対話型ジョブ」
特殊権限	なし
デフォルト値	240
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

対話型ジョブを終了せずに切断した状態のままにしておける時間 (分単位) を指定できます。対話型ジョブは、以下のいずれの方法でも切断された状態になります。

- ジョブに対してジョブの切断 (DSCJOB) コマンドが実行されたとき。
- ジョブが、非活動ジョブのタイムアウト・インターバルで指定された時間非活動であって、ジョブがタイムアウトになるときに**ジョブを切断する**が指定されていた場合。
- 対話型ジョブのワークステーションで入出力エラーが発生し、ワークステーションで装置エラーが発生したときにとる処置に、**ジョブを切断する**オプションのいずれかが指定されていた場合。

ジョブは、どの方法で切断された状態になった場合でも、**切断されたジョブのタイムアウト・インターバル**に指定された時間が経過すると終了します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: マルチスレッド・ジョブ内の機能がスレッドセーフでないとき

(QMLTTHDACN)

マルチスレッド・ジョブ内の機能がスレッドセーフでないときは、**QMLTTHDACN** とも呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、機能がスレッドセーフでないときにとる処置を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「スレッド」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	スレッドセーフでない機能を実行し、ジョブ・ログに通知メッセージを送る
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

マルチスレッドを実行しているジョブで、スレッドセーフでない可能性がある機能が呼び出されたときにとるべきアクションを指定します。このシステム値をサポートする機能の例として、CL コマンドおよび出口プログラム登録機能によって登録されるユーザー出口プログラムを実行する出口点があります。

次のオプションを使用することができます。

- **機能を実行しない**

機能がスレッドセーフでない場合は、その機能は実行されません。この値は、実動モードでマルチスレッド・ジョブを実行中のシステム、またはデータ保全性が重要なすべてのシステムで使用する必要があります。

- **スレッドセーフでない機能を実行する**

機能がスレッドセーフでない場合に、その機能は実行されます。この値を、実動モードでマルチスレッド・ジョブを実行中のシステム、またはどのシステムでもデータ保全性が重要な場合は使用してはなりません。このオプションを選択することにより、以下のオプションを選択して、メッセージをジョブ・ログに送るか否かを指定することができます。

- **メッセージをジョブ・ログに送る**

このオプションを選択して、スレッドセーフでない機能を実行し、ジョブ・ログに通知メッセージを送ります。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ジョブ・システム値: ジョブ終了後プリンター出力切り離し

(QSPLFACN)

▶ ジョブ終了後プリンター出力切り離しは、QSPLFACN と呼ばれ、OS/400 システム値のジョブ・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、プリンター出力をジョブとともに保持するか、ジョブから切り離すかを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ジョブ」 → 「プリンター出力」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - プリンター出力の保持
変更が有効になるとき	即時。ただし、開始済みのジョブは除く。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

関連するチェック・ボックスを使用して、プリンター出力 (スプール・ファイル) をジョブとともに保持するか、ジョブから切り離すかを指定します。

プリンター出力をジョブとともに保持することにより、終了したジョブに関する「プリンター出力」を選択してプリンター出力を表示することができます。終了したジョブは、**最大ジョブ数**システム値に定義されるジョブ数の制限にカウントされたままになります。ジョブ状況は、ジョブが終了すると「完了 (Completed...) (OUTQ)」になります。

ジョブ終了後にプリンター出力を切り離すということは、ジョブが終了するとそのジョブがシステムから除去されるということを意味します。これにより、ジョブが終了するとジョブ構造をリサイクルすることができます。システム・リソースの使用を削減することができます。ジョブはシステムから除去されるため、そのジョブのプリンター出力の処理にジョブ・インターフェースを使用することはもはやできません。ただし、このオプションはプリンター出力を削除するわけではありません。システムから除去されたジョブのプリンター出力を表示するには、iSeries ナビゲーターをオープンして「基本操作 (Basic Operations)」を選択します。次に、「プリンター出力 (Printer Output)」を選択します。待ち行列が出力をリストします。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ジョブ・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。◀

第 7 章 OS/400 システム値: ライブラリー・リスト概要

OS/400 ライブラリー・リスト・システム値を使用して、システム・レベルのジョブ限度および他のジョブ・デフォルトを表示または変更します。システム値のライブラリー・リスト・カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なライブラリー・リスト・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

ライブラリー・リスト・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
システム・ライブラリー・リスト	ジョブのライブラリー・リストのシステム部分の初期値を指定する。	QSYSLIBL
ユーザー・ライブラリー・リスト	ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分の初期値を指定する。	QUSRLIBL

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

ライブラリー・リスト・システム値: システム・ライブラリー・リスト

(QSYSLIBL)

システム・ライブラリー・リストは、**QSYSLIBL** と呼ばれ、OS/400 システム値のライブラリー・リスト・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分の初期値を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ライブラリー・リスト」 → 「システム」

特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	QSYS、QSYS2、QHLPSYS、QUSRSYS
変更が有効になるとき	次のジョブの開始時点
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を使用して、ライブラリー・リストのシステム部分を表示したり変更できます。リストには 15 までの名前を含めることができます。ライブラリー・リストを検索してオブジェクトを見つける場合、システム・ライブラリーが、ユーザー・ライブラリーよりも先に検索されます。ライブラリー・リストの一部として指定されたライブラリーは、システムが完全に作動状態になったときには、削除や名前の変更を行うことはできません。

ライブラリーは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ライブラリー・リスト・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

ライブラリー・リスト・システム値: ユーザー・ライブラリー・リスト

(QUSRLIBL)

ユーザー・ライブラリー・リストは、**QUSRLIBL** と呼ばれ、OS/400 システム値のライブラリー・リスト・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分の初期値を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「ライブラリー・リスト」 → 「ユーザー」
特殊権限	なし
デフォルト値	QGPL、QTEMP
変更が有効になるとき	次のジョブの開始時点
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を使用して、ライブラリー・リストのユーザー部分を表示したり変更できます。ユーザー・ライブラリー・リストには、ユーザーが現在作業中の情報が入っています。このリストには 25 までの

名前を含めることができます。ライブラリー・リストからオブジェクトを検索する場合、システム・ライブラリー、プロダクト・ライブラリー、および、現行ライブラリーの項目が検索された後で、ユーザー・ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストの一部として指定されたライブラリーは、システムが完全に作動状態になったときには、削除や名前の変更を行うことはできません。

ライブラリーは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、ライブラリー・リスト・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の 카테고리의システム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 8 章 OS/400 システム値: メッセージおよびサービス概要

OS/400 メッセージおよびサービス・システム値を使用して、システムのメッセージ、ロギング、およびサービス情報を変更し、表示します。システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なメッセージおよびサービス・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

メッセージおよびサービス・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
活動記録ログ内のレコードの最大数	活動記録ログ内の最大レコード数を指定する。	QHSTLOGSIZ
状況メッセージの表示	状況メッセージを文字ベース・インターフェースの 24 行目に表示するか否かを指定する。	QSTSMMSG
メッセージ待ち行列	回線、制御装置、および装置用のメッセージ待ち行列を指定する。	QCFGMSGQ
ジャーナル会計情報	ジョブ使用量、プリンター出力、およびプリンター使用量をジャーナル処理するか否かを指定する。	QACGLVL
問題ログ・フィルター	問題ログをフィルターに掛けるか否かを指定する。	QPRBFTR
最短保持期間	ログ項目の最短保持期間を設定する。	QPRBHLDTV
システムで検出されたソフトウェア問題のログ記録	システムで検出されたソフトウェア問題をログに記録するか否かを指定する。	QSFWERRLOG
モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログ	モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログを作成するか否かを指定する。	QSRVDMP
システムの遠隔保守の許可	システムの遠隔保守を指定する。	QRMTSRVATR

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値フ

ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

メッセージおよびサービス・システム値: 活動記録ログ内のレコードの最大数

(QHSTLOGSIZ)

活動記録ログ内のレコードの最大数は、QHSTLOGSIZ とも呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、活動記録ログ内のレコードの最大数を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メッセージおよびサービス」 → 「一般」
特殊権限	なし
デフォルト値	5000
変更が有効になるとき	次回活動記録ログが作成される時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

活動記録ログの各バージョンの最大レコード数を指定します。1 つのバージョンがいっぱいになると (つまり、最大レコード数に達すると)、新しいバージョンが作成されます。ユーザーは、いっぱいになった (古い) バージョンを保管し、その後でそのバージョンを削除することができます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: 状況メッセージの表示

(QSTSMMSG)

状況メッセージの表示は、**QSTSMMSG** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、状況メッセージを表示するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メッセージおよびサービス」 → 「一般」
特殊権限	なし
デフォルト値	選択 - 状況メッセージを表示する
変更が有効になるとき	次回ユーザーがシステムにサインオンするとき
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

文字ベースのインターフェース (5250 エミュレーター・セッション) の 24 行目に状況メッセージを表示するか否かを指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: 回線、制御装置、および装置用のメッセージ待ち行列

(QCFGMSGQ)

回線、制御装置、および装置用のメッセージ待ち行列は、**QCFGMSGQ** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、回線、制御装置、および装置にメッセージを送信する際にシステムが使用するメッセージ待ち行列を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メッセージおよびサービス」 → 「一般」
特殊権限	システム構成 (*IOSYSCFG)
デフォルト値	メッセージ待ち行列 - QSYSOPR。ライブラリー - QSYS。

変更が有効になるとき	回線、制御装置、または装置記述をオンに変更したとき。したがって、回線、制御装置、または装置記述をオンに構成変更した後でこのシステム値を変更した場合は、オフに構成変更してから、新しいシステム値を使用するために構成オブジェクトをオンに構成変更する必要があります。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

回線、制御装置、および装置にメッセージを送信する際にシステムが使用するメッセージ待ち行列を指定します。

このシステム値により、回線、制御装置、および装置に関するメッセージを送信する際にシステムが使用する、デフォルトのメッセージ待ち行列を指定することができます。

このシステム値で指定されるメッセージ待ち行列は、システム全体の動作がベストになるように、以下の属性で作成する必要があります。

Force (FORCE) - *NO
 Allow Alerts (ALWALR) - *NO
 Size (SIZE) - (8,32,*NOMAX)
 Wrap (MSGQFULL) - *WRAP

メッセージ待ち行列 QSYS/QCFGMSGQ は、上記の特性付きで、システムによって提供されています。

次の回線記述タイプ、すなわち、トークンリング、イーサネット、DDI、X.25、フレーム・リレーは、このシステム値をサポートします。

次の制御装置記述タイプ、すなわち、APPC、SNA ホスト、Async (非同期)、ローカル・ワークステーション、遠隔ワークステーション、仮想ワークステーションは、このシステム値をサポートします。

次の装置記述タイプ、すなわち、APPC、プリンター、および、暗号は、このシステム値をサポートします。

出荷されたときの値は QSYS/QSYSOPR で、これにより、通信メッセージがシステム操作員メッセージ待ち行列に送信されます。

メッセージ待ち行列は、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: ジャーナル会計情報

(QACGLVL)

ジャーナル会計情報は、**QACGLVL** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、ジョブ使用量、プリンター出力、およびプリンター使用量をジャーナル処理するか否かを指定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メッセージおよびサービス」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - 会計情報はジャーナルに送られない
変更が有効になるとき	次のジョブの開始時点
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムからジャーナルに書き込ませたい使用量情報のタイプを指定します。どちらのチェック・ボックスも選択されていない場合は、会計情報はジャーナルに書き込まれません。ジョブ使用量情報をジャーナルに書き込むことも、プリンター出力およびプリンター使用量情報をジャーナルに書き込むこともできます。どちらかのチェック・ボックスが選択されている場合は、システム会計ジャーナル (QACGJRN) が QSYS ライブラリーになければなりません。ない場合は、変更内容は拒否されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: 問題ログ・フィルター

(QPRBFTR)

問題フィルターは、**QPRBFTR** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、問題ログをフィルターに掛けるか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メッセージおよびサービス」 → 「問題」
特殊権限	なし
デフォルト値	フィルターに掛けない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

使用したい問題ログ・フィルターの名前を指定できます。フィルター名を指定する場合は、そのフィルターがあるライブラリー名を組み込む必要があります。問題ログ・フィルターの名前を入力するか、問題ログ・フィルターを使用しない場合はフィルターに掛けないを選択します。

フィルターは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: 最短保持期間

(QPRBHLDITV)

最短保持期間は、**QPRBHLDITV** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、問題を問題ログに保持しておく最短の日数を設定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メッセージおよびサービス」 → 「問題」
特殊権限	なし
デフォルト値	30 日間
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

問題ログ項目を問題ログに保持しておく最短の日数を指定することができます。この期間は、問題がログに記録された時点から始まります。このシステム値の範囲は、0 から 999 日です。この期間が過ぎると、問題削除 (DLTPRB) コマンドを実行して、その問題ログ項目を削除することができます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: システムで検出されたソフトウェア問題のログ記録

(QSFWERRLOG)

システムで検出されたソフトウェア問題のログ記録は、**QSFWERRLOG** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで検出されたソフトウェア問題をログに記録するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メッセージおよびサービス」 → 「問題」
特殊権限	なし
デフォルト値	選択 - システムで検出されたソフトウェア問題はログ記録される
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ソフトウェア・エラーを、システムでログに記録するか否かを指定することができます。ソフトウェア・エラー・ログは、ご使用のシステムのソフトウェアで発生したエラーの保管場所です。ソフトウェア・エラーが、プロダクト・アクティビティ・ログに記録されると、メッセージがシステム操作員メッセージ待ち行列に送られ、問題ログに READY 状況の項目が作成されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログ

(QSRVDMP)

モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログは、**QSRVDMP** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログ (保守ダンプともいう) を作成するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス

ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メ ッセージおよびサービス」 → 「問題」
特殊権限	なし
デフォルト値	選択 - ユーザー・ジョブを含める
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログを作成するか否かを指定します。 これらの保守ログを作成する場合は、ユーザー・ジョブまたはシステム・ジョブ (あるいはその両方) を含むように指定できます。ユーザーが、モニターされないエスケープ・メッセージを含む、異常障害の保守ログを作成し保持している場合は、IBM は、異常障害が発生したときの問題の診断の際の支援を提供することができます。システム・ジョブの例には以下のものがあります。

- システム・アービター
- サブシステム・モニター
- 論理装置 (LU) のサービス
- スプール読み取り機能および書き込み機能
- 開始制御プログラム機能 (SCPF) ジョブ

このシステム値についての詳細情報の入手


詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。 特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

メッセージおよびサービス・システム値: システムの遠隔保守の許可

(QRMTSRVATR)

システムの遠隔保守の許可は、**QRMTSRVATR** と呼ばれ、OS/400 システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムの遠隔問題分析を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「メ ッセージおよびサービス」 → 「遠隔」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理 者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - システムの遠隔保守は許可されない
変更が有効になるとき	即時

ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)
-------	--

このシステム値を使用してユーザーができること

システムがリモート側で分析されることを許可するか否かを指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、メッセージおよびサービス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 9 章 OS/400 システム値: パスワード概要

OS/400 パスワード・システム値を使用して、パスワード値およびパスワード制約事項を制御します。システム値のパスワード・カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なパスワード・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

パスワード・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
パスワード・レベル	システムのパスワード・レベルを設定する。	QPWDLVL
パスワードの最小長	パスワードの最小長を設定する。	QPWDMINLEN
パスワードの最大長	パスワードの最大長を設定する。	QPWDMAXLEN
数字が少なくとも 1 つ必要	システムで使用されるパスワードが数字を少なくとも 1 つ使用するように設定する。	QPWDRQDDGT
連続数字の制限	システムで使用されるパスワードが連続した数字の使用を制限するように設定する。	QPWDLMTAJC
制限される文字	制限される文字を指定する。	QPWDLMTCHR
反復文字の制限	反復文字を制限するか否かを指定する。	QPWDLMTREP
各位置に異なる文字が必要	システムで使用されるパスワードが、各位置に異なる文字を使用するように設定する。	QPWDPOSDIF
パスワードの再利用サイクル	同じパスワードが再利用できる時期を指定する。	QPWDRQDDIF
パスワード有効期限	パスワードが失効する時期を指定する。	QPWDEXPITV
iSeries ナビゲーターにはない	ユーザー作成のプログラムがパスワードに対して追加の妥当性検査を行うか否かを指定する。	QPWDVLDPGM

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

▶ システム・アクセス・レベルの保護

サインオン・アクセスを制限するためにパスワード・システム値の設定値をどう構成すればよいか、説明します。これは、ユーザーのセキュリティー・ポリシーを強化し保護するもう 1 つの方法です。



OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

パスワード・システム値: パスワード・レベル

QPWDLVL

パスワード・レベルは、QPWDLVL と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムのパスワード・レベルを設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	限定された文字セットを使用した短いパスワード (0)
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

<p>特別な考慮事項</p>	<p>パスワード・レベル・システム値を 3 から値 0 または 1 に変更することはできません。パスワード・レベル・システム値は、3 から 2 に変更してから、次に 0 または 1 に変更しなければなりません。この制限の理由は、パスワード・レベル 3 に変更する時に、パスワード・レベル 0 または 1 で使用されていたすべてのパスワードがシステムから除去されるためです。</p> <p>システムがパスワード・レベル 2 にあるときは、ユーザーは、パスワード・レベル 2 から 0 または 1 に変更する前に、ユーザー・プロファイルを変更してパスワード・レベル 0 または 1 で作動するパスワードを与える (パスワードは 10 文字以下) ことを確実に行う必要があります。そうしないと、ユーザーはシステムにサインオンできなくなります。</p> <p>変更したいパスワード・レベルにおいてユーザー・プロファイルのパスワードが有効かどうか確認するためにユーザー・プロファイルを検査する方法の詳細については、「パスワード・レベルの変更する時にパスワードを検査する」を参照してください。</p>
----------------	--


このシステム値を使用してユーザーができること

システムで使用されるパスワード・レベルを指定できます。

システムのパスワード・レベルは、1 から 10 文字までのユーザー・プロファイル・パスワードを使用するように設定するか、1 から 128 文字までのユーザー・プロファイル・パスワードを使用するように設定できます。

パスワード・レベルは、パスワード値としてパスフレーズを使用するように設定できます。パスフレーズという用語は、使用する文字に制約が少なく非常に長いパスワード値を記述するために、コンピューター業界で使用されている用語です。パスフレーズでは文字間に空白が使用でき、これによって、パスワード値にセンテンスまたはフレーズが使用できます。パスフレーズの唯一の制約事項は、アスタリスク (*) で始められないことと末尾空白が除去されることです。

パスワード・レベルを、1 ～ 10 文字パスワードから 1 ～ 128 文字パスワードに変更するには、慎重な考慮事項を要します。ご使用のシステムがネットワーク内の他のシステムと通信する場合は、すべてのシステムが長いパスワードを処理できなければなりません。

このシステム値を変更する前に、「機密保護解説書」 中の『パスワード・レベル変更の計画』を参照してください。

使用できるオプションは次のとおりです。

- **限定された文字セットを使用した短いパスワード。(0)**
1 ～ 10 文字の長さを持つユーザー・プロファイル・パスワードをサポートします。使用できる文字は、A ～ Z、0 ～ 9、および、ドル記号 (\$)、アットマーク (@)、番号記号 (#)、および下線 (_) の特殊

文字です。ご使用のサーバーがネットワーク内の他のサーバーと通信し、これらのサーバーが、パスワード・レベル 0 あるいは V5R1M0 より前のリリースのオペレーティング・システムで実行されている場合は、この値を使用しなければなりません。

ご使用のサーバーが、パスワードの長さを 1 ~ 10 文字に制限する他のサーバーと通信する場合は、この値を使用しなければなりません。

ご使用のサーバーが、Windows Network Neighborhood (iSeries NetServer) プロダクトの Windows 95/98/ME OS/400 Client Support と通信し、1 ~ 10 文字のパスワードを使用する他のサーバーと通信する場合は、この値を使用しなければなりません。

システムのパスワード・レベルがこの値に設定されると、オペレーティング・システムは、パスワード・レベル 2 および 3 で使用するために、暗号化されたパスワードを作成します。レベル 0 で使用されたパスワード文字は、レベル 2 および 3 でも使用されます。

- **限定された文字セットを使用した短いパスワード。 Windows 95/98/ME 上の iSeries NetServer を使用不可にします。(1)**

この値は、以下の例外を除いて、パスワード・レベル 0 に対するサポートと同等です。 Windows 95/98/ME 版クライアントに対する iSeries NetServer パスワードは、システムから除去されます。 iSeries NetServer プロダクトのクライアント・サポートを使用する場合は、パスワード・レベル 1 を使用することはできません。 Windows 95/98/ME 版 Netserver プロダクトは、パスワード・レベルが 1 または 3 に設定されたシステムには接続できません。 NetServer パスワードで使用されている暗号化では機密保護上の問題があるので、これらのパスワード・レベルの NetServer パスワードはシステムから除去されます。

- **限定されていない文字セットを使用した長いパスワード。(2)**

この値は、1 ~ 128 文字を使用したユーザー・プロファイル・パスワードをサポートします。英大文字と小文字が使用できます。パスワードはどの文字でも使用できます。パスワードは大文字小文字の区別をします。このレベルは、互換性レベルと見なされます。システムにサインオンするとき、ユーザーが使用したパスワードが、サインオンの認証および他のパスワード・テストに使用されます。このレベルでは、パスワードがパスワード・レベル 0 または 1 の長さで構文要件を満たしている限り、パスワード・レベル 0 または 1 に戻ることができます。


ご使用のシステムが、Windows Network Neighborhood (iSeries NetServer) プロダクトの Windows 95/98/ME OS/400 Client Support と通信し、パスワードの長さが 1 ~ 14 文字である限り、このレベルを使用することができます。

ご使用のシステムが以下のシステムと通信する場合は、レベル 2 を使用することはできません。

- ネットワーク内の他のシステムが、パスワード・レベル 0 または 1、あるいは、V5R1M0 より前のリリースのオペレーティング・システムで実行されている場合。
- 他のシステムがパスワードの長さを 1 ~ 10 文字に制限している場合。

- **限定されていない文字セットを使用した長いパスワード。 Windows 95/98/ME 上の iSeries NetServer を使用不可にします。(3)**

このレベルは、1 ~ 128 文字を使用したユーザー・プロファイル・パスワードをサポートします。英大文字と小文字が使用できます。パスワードはどの文字でも使用できますが、大文字小文字の区別をします。

パスワード・レベルを 3 に変更する前に、「機密保護解説書」  の中の、『パスワード・レベル変更の計画』を参照してください。

パスワード・レベルを 3 から 0 または 1 に戻すことは、まず、パスワード・レベル 2 に変更してからでなければ行うことはできません。パスワード・レベル 2 では、パスワード・レベル 0 または 1 の長さで構文の規則を満たしている限り、パスワード・レベル 0 または 1 で使用できるパスワードを作成することができます。

ご使用のシステムが以下のシステムと通信する場合は、レベル 3 を使用することはできません。

- ネットワーク内の他のシステムが、パスワード・レベル 0 または 1、あるいは、V5R1M0 より前のリリースのオペレーティング・システムで実行されている場合。
- 他のシステムがパスワードの長さを 1 ~ 10 文字に制限している場合。
- Windows Network Neighborhood (iSeries NetServer) プロダクトの Windows 95/98/ME OS/400 Client Support と通信する場合。Windows 95/98/ME 版 Netserver プロダクトは、パスワード・レベルが 1 または 3 に設定されたシステムには接続できません。NetServer パスワードで使用されている暗号化では機密保護上の問題があるので、これらのパスワード・レベルの NetServer パスワードはシステムから除去されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: 最小パスワード長

(QPWDMINLEN)

パスワードの最小長は、QPWDMINLEN と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、パスワードの最小の長さを設定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	6
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

パスワードの最小文字数を指定できます。可能な値は、システムで使用するパスワード・レベルによって異なります。パスワード・レベルが 0 または 1 の場合は、最小長として可能な値は、1 から 10 までです。パスワード・レベルが 2 または 3 の場合は、最小長として可能な値は、1 から 128 までです。パスワードの最小長は、最大長より大きくてはなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: 最大パスワード長

(QPWDMAXLEN)

パスワードの最大長は、**QPWDMAXLEN** と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、パスワードの最大の長さを設定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	8
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

パスワードの最大文字数を指定できます。可能な値は、システムで使用するパスワード・レベルによって異なります。パスワード・レベルが 0 または 1 の場合は、最大長として可能な値は、1 から 10 までです。パスワード・レベルが 2 または 3 の場合は、最大長として可能な値は、1 から 128 までです。パスワードの最大長は、最小長より大きくなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手


詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: 最低 1 桁の数字が必要

(QPWDRQDDGT)

数字が少なくとも 1 つ必要は、**QPWDRQDDGT** と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用されるパスワードが、少なくとも 1 つの数字を使用するように設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)

デフォルト値	非選択 - 数字は不要
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

新しいパスワードに数字が必須であるかどうかを指定します。このオプションによって、ユーザーが英字だけをを使用するのを防ぐことにより、追加の機密保護になります。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: 連続する数字の制限

(QPWDLMTAJC)

連続数字の制限は、QPWDLMTAJC と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用されるパスワードが、連続数字の使用を制限するように設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - 連続数字が許される
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

パスワードの中で、隣接する数字の使用を許可するか否かを指定できます。このオプションによって、誕生日や電話番号などの連続した番号をパスワードとして使用しないことによって、さらに機密保護が向上します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: 制限付き文字

(QPWDLMTCHR)

制限付き文字は、**QPWDLMTCHR** と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、制限する文字を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	制限付き文字はない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

パスワードの中で使用できないいくつかの文字を指定できます。有効な文字は、A ~ Z、0 ~ 9、および、番号記号 (#)、ドル記号 (\$)、アットマーク (@)、および下線 (_) の特殊文字です。

このオプションを使用して、ユーザーが、パスワードに、母音などの特定の文字を使用しないようにして、追加の機密保護を提供できます。母音を制限することにより、ユーザーがパスワードに実際の語を形成するのを防止します。最大 10 文字の制限された文字を指定することができます。

このシステム値は、パスワード・レベルが 2 または 3 の場合は実行されません。このシステム値は、パスワード・レベルが 2 または 3 でも変更できますが、パスワード・レベルが 0 または 1 に変更されるまでは実行されません。

お勧めできる設定値は A、E、I、O、および U です。また、他のシステムとの互換性のために、特殊文字 (#、\$、および @) を制限する必要がある場合があります。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: 反復文字の制限

(QPWDLMTREP)

反復文字の制限は、**QPWDLMTREP** と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、反復文字を制限するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	文字は複数回使用できる
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

パスワードに反復文字の使用を許可するか否かを指定します。このオプションによって、同じ文字を複数回使用するなどの、推定しやすいパスワードを指定するのを防ぐことにより、追加の機密保護になります。

パスワード・レベルが 2 または 3 の場合は、反復文字のテストは大文字小文字の区別をして行われます。これは、小文字は大文字と同じではないことを意味します。

有効な値は次の通りです。

- **文字は複数回使用できる**
パスワードに同じ文字を複数回使用できます。
- **文字を複数回使用できない**
パスワードに同じ文字を複数回使用することはできません
- **文字は続けて使用できない**
同じ文字をパスワードの中で複数回使用できますが、続けて使用できません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: 各桁に新しい文字が必要

(QPWDPOSDIF)

各位置に異なる文字が必要は、**QPWDPOSDIF** と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用されるパスワードが、各位置に異なる文字を使用するように設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」

特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - 各位置に新しい文字が必要ではない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

ユーザーが新規パスワードの同じ位置に同じ文字を使用できないことを指定します。これによって、ユーザーが新規パスワードで、前のパスワードと同じ位置に同じ文字を使用するのを防止することができます。たとえば、直前のパスワードが DJS1 であった場合は新規パスワードとして DJS2 は使用できません (D、J、および S が同じ位置にあるため)。

パスワード・レベルが 2 または 3 の場合は、新規文字のテストは大文字小文字の区別をして行われます。これは、小文字は大文字と同じではないことを意味します。


このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: パスワードの再使用サイクル

(QPWDRQDDIF)

パスワードの再利用サイクルは、QPWDRQDDIF と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、パスワードが再び使用できる時期を指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「妥当性検査」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	1 個のパスワードの後
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

直前のパスワードのうちのいくつのパスワードを重複パスワードの検査対象とするかを指定できます。このオプションによって、ユーザーが前に使用したパスワードを指定するのを防ぐことにより、追加の機密保護になります。また、このオプションにより、パスワードの有効期限が切れたユーザーが、パスワードを変更し、そのすぐ後で前のパスワードに変更し直すことも防げます。

お勧めできる設定値は 10 です。10 以上の値を選択して、パスワードの反復使用を防ぐようにします。あるパスワードを少なくとも 6 か月は再使用することがないように、パスワード満了値とパスワード再利用サイクル値の組み合わせを使用することをお勧めします。たとえば、パスワード有効期限として 30 日（直前の変更からの日数）を選択し、パスワード再利用サイクルとして 10 パスワードの後でを選択します。これは、システムから警告が出されたときにパスワードを変更する典型的なユーザーは、約 9 か月間は、パスワードを反復使用できないことを意味します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: パスワード有効期限

(QPWDEXPITV)

パスワード有効期限は、QPWDEXPITV と呼ばれ、OS/400 システム値のパスワード・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、パスワードの有効期限を指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パスワード」 → 「有効期限」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	失効しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

ユーザー・パスワードの有効期限を設けるか否かを指定できます。パスワードを変更するまでに許容される日数を制御することができます。パスワードの有効期限が切れた後でユーザーがサインオンしようとした場合は、システムはユーザーにパスワードを変更する機会を与え、ユーザーはサインオンすることを許可されます。

お勧めできる設定値は 30 日から 90 日です。

次のオプションを使用することができます。

- **失効しない**
ユーザーはパスワードを変更する必要がありません。
- **前回の変更後の日数 (1 ~ 366)**
パスワード変更日までの日数を指定します。1 ~ 366 の値を選択してください。


このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パスワード・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パスワード・システム値: パスワード妥当性検査プログラム

(QPWDVLDPGM)

パスワード妥当性検査プログラムは、iSeries ナビゲーターにないシステム値です。このシステム値によって、ユーザー作成のプログラムでパスワードに対する追加の妥当性検査を行う機能が提供されます。

クイック・リファレンス	
ロケーション	文字ベース・インターフェース
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
変更が有効になるとき	次回パスワードが変更されたとき
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値によって、ユーザー作成のプログラムでパスワードに対する追加の妥当性検査を行う機能が提供されます。現行パスワードおよび新規パスワードは、暗号化せずに妥当性検査プログラムに渡されます。妥当性検査プログラムはデータベース・ファイル内にパスワードを格納し、システムの機密保護における妥協を行います。このシステム値の設定値としてお勧めするのは *NONE です。

以下のオプションを指定することができます。

- ***NONE**
妥当性検査プログラムを使用しません。
- ***REGFAC**
妥当性検査プログラム名が登録ファシリティからリトリブされます。
- **プログラム仕様**
妥当性検査プログラムの名前。このオプションは、システムが QPWDLVL 0 または 1 で実行されている場合のみ有効です。
可能なライブラリー値は、次のとおりです。
- ***LIBL**
妥当性検査プログラムを探すために、ライブラリー・リストが使用されます。
- ***CURLIB**
妥当性検査プログラムを探すために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてどのライブラリーも指定されない場合は、QGPL が使用されます。

- **ライブラリー名**

妥当性検査プログラムが入っているライブラリーの名前を指定します。

プログラムは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

特定のシステム値、または、特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 10 章 OS/400 システム値: パフォーマンス概要

OS/400 パフォーマンス・システム値を使用して、優先順位、パフォーマンスの調整、およびシステムの処理値を表示し、変更します。システム値のパフォーマンス・カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なパフォーマンス・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

パフォーマンス・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
対話型ジョブのジョブ優先順位の動的調整	対話型ジョブのジョブ優先順位を設定する。	QDYNPTYADJ
優先順位バンド内でのジョブ優先順位の動的調整	優先順位バンド内のジョブ優先順位が動的に調整されるように設定する。	QDYNPTYSCD
記憶域プールと活動レベルの自動調整	記憶域プールと活動レベルの自動調整をいつ行うかを指定する。	QPFRADJ
有資格スレッドの最大数	有資格スレッドの最大数を指定する。	QMAXACTLVL
マシン記憶域プール・サイズ	マシン記憶域プールのサイズを指定する。	QMCHPOOL
基本記憶域プールの最小サイズ	最小の基本記憶域プールを指定する。	QBASPOOL
基本記憶域プール有資格スレッドの最大数	有資格スレッドの最大数を指定する。	QBASACTLVL
タイム・スライスの終わりでの対話型ジョブの基本プールへの移動	タイム・スライスの終わりでの対話型ジョブを基本プールに移動するか否かを指定する。	QTSEPOOL
通信構成の回復	回復の試行を行うか否か、何回試行を行うかを指定する。	QCMNRCYLMT
再始動での通信アービター・ジョブ	制御装置および装置のための作業を処理するのに使用可能な通信アービター・システム・ジョブの数を指定します。	QCMNARB

使用可能な表示装置パススルー・サーバー・ジョブ	OS/400 表示装置パススルー、iSeries アクセス・ワークステーション機能 (WSF)、およびプログラマブル・ワークステーション上の他の 5250 エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能な、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数を指定します。	QPASTHRSVR
Query と索引の並列処理	並列処理を使用するか否か、何のために使用するかを指定する。	QQRVDEGREE
データベース Query の時間制限	データベース Query の時間制限を設定する。	QQRVTIME
ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内でのライブラリーのロック	検索リスト内のライブラリーを他のジョブが削除または名前変更しないようにする。	QLIBLCKLVL
🔗 バックグラウンドでのデータベース統計収集許可	どんな要求がシステム・ジョブ QDBFSTCCOL によって処理されることを許されるかを指定する。	QDBFSTCCOL 🔗

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値については、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

パフォーマンス・システム値: 対話型ジョブのジョブ優先順位の動的調整

(QDYNPTYADJ)

対話型ジョブのジョブ優先順位の動的調整は、**QDYNPTYADJ** と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、対話型ジョブのジョブ優先順位を設定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「通信」

特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	選択 - 対話型ジョブのジョブ優先順位の動的調整がオン
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

サーバーにおけるバッチ・ジョブ処理のハイパフォーマンスを維持するために、対話型ジョブの優先順位を動的に調整するか否かを指定できます。この調整機能は、さまざまな対話型および非対話型スループット能力があり、優先順位バンド内の優先順位を動的に調整するようにシステム値をオンにしているシステムでのみ有効です。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 優先順位バンド内でのジョブ優先順位の動的調整

(QDYNPTYSCD)

優先順位バンド内でのジョブ優先順位の動的調整は、**QDYNPTYSCD** と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、優先順位バンド内のジョブ優先順位を動的に調整するように設定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「通信」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	選択 - 優先順位バンド内でのジョブ優先順位の動的調整がオン
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値により、動的優先順位スケジューラーをオンまたはオフにすることができます。タスク・スケジューラーは、このシステム値を使用して、プロセッサのジョブのスケジューリングを決定します。使用可能な場合、動的優先順位スケジューラーは、システム資源の各ジョブの使用量によって、優先順位バンド内のジョブ優先順位を調整します。これによって、一般にシステムのスループットはより大きくなります。

すが、バンド内のジョブ間の優先順位の関係が多少変わる場合があります。たとえば、優先順位 10 ～ 16 がバンド 1、17 ～ 22 がバンド 2、23 ～ 35 がバンド 3、36 ～ 46 がバンド 4、47 ～ 51 がバンド 5、および 52 ～ 89 がバンド 6 になります。

このシステム値に割り当てられた値に関係なく、優先順位 0 ～ 9 を与えられているジョブは高優先順位のバンド 0 に配置されます。タスク・ディスパッチャーは他の動的優先順位バンドをチェックする前に、このバンドを常に最初にチェックします。このバンドの中のジョブが CPU 制約 (ループしている) になると、そのジョブはシステムをロックする可能性があります。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の категорияのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 記憶域プールと活動レベルの自動調整

(QPFRADJ)

記憶域プールと活動レベルの自動調整は、QPFRADJ とも呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、記憶域プールと活動レベルの自動調整をいつ行うかを指定します。活動レベルは、記憶域資源およびプロセッサ資源を競合できるスレッドの最大数 (一時点での有資格スレッドの最大数) を指します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「記憶域プール」
特殊権限	なし
デフォルト値	システム再始動時および再始動後定期的
変更が有効になるとき	即時。(ただし、システム再始動時が選択されている場合は、システムを再始動する必要があります。)
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

記憶域プールと活動レベルの自動調整をいつ行うかを指定します。記憶域プール・サイズと活動レベルをシステムに調整させる場合は、ユーザーは、この調整が、システム再始動時または再始動後定期的 (あるいはその両方) に行われるよう指定できます。システム再始動時も再始動後定期的にも選択しない場合は、自動調整は行われません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の категорияのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 有資格スレッドの最大数

(QMAXACTLVL)

有資格スレッドの最大数は、**QMAXACTLVL** とも呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、有資格スレッドの最大数を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「記憶域プール」
特殊権限	なし
デフォルト値	制限なし
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

記憶域資源およびプロセッサ資源を同時に競合できるスレッドの数を指定できます。活動状態のすべてのサブシステムについて、すべての記憶域プールで実行されているすべてのスレッドの合計数は、ユーザーが指定した値を超えることはできません。活動レベルに達したためにスレッドが処理できない場合は、そのスレッドは、他のスレッドがタイム・スライスに達するか長期の待ち状態になるまで、待機します。

推奨する設定値は制限なしです。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: マシン記憶域プール・サイズ

(QMCHPOOL)

マシン記憶域プール・サイズは、**QMCHPOOL** とも呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、マシン記憶域プールのサイズを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「記憶域プール」
特殊権限	なし

デフォルト値	20
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

マシン記憶域プールのサイズを MB 単位で指定します。記憶域プールは、ジョブまたはジョブ・グループを処理するために予約されている記憶域を論理分割したものです。マシン記憶域プールには、共用度の高いマシン・プログラムおよびオペレーティング・システム・プログラムが入ります。この記憶域プールが小さすぎると、システムのパフォーマンスが低下することがあるので、記憶域プールの変更には注意が必要です。

マシンの制約による最小値は、そのマシンの記憶域サイズによって異なります。マシンの制約による最小値よりも小さい値を指定した場合は、システムは、実際のマシン記憶域プール・サイズをマシンの制約による最小値まで自動的に増加させます。

システムがマシン記憶域プールの実際のサイズを増やした場合は、ユーザーは、iSeries ナビゲーターで以下のことを行って、マシン記憶域プール (プール 1) の実際のマシンの制約による最小値を判別できます。

1. iSeries サーバーを展開する。
2. 実行管理機能を展開する。
3. 記憶域プールを展開する。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の категорияのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 基本記憶域プールの最小サイズ

(QBASPOOL)

基本記憶域プールの最小サイズは、QBASPOOL と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、基本記憶域プールの最小サイズを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「記憶域プール」
特殊権限	なし
デフォルト値	主記憶域の 5% で、最小値 2000 KB
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

基本記憶域プールの最小サイズを MB 単位で指定できます。記憶域プールは、ジョブまたはジョブ・グループを処理するために予約されている記憶域を論理分割したものです。基本記憶域プールには、他のプールによって割り振られていないすべての記憶域が含まれます。このプールは、サブシステム記述において、*BASE として指定されます。

場合によっては、基本プールに割り振られている記憶域をマシン機能が使用していることがあります。そのような場合で、このシステム値の変更の結果、記憶域の割り振り量が、マシンが必要とする量に 256KB を加えた量より小さくなる場合は、このシステム値はただちに変更されます。ただし、マシンが必要とする量に 256KB を加えた量以下に基本プールが実際に変更されるのは、使用中の記憶域をマシンが解放してからです。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の категорияのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 基本記憶域プール有資格スレッドの最大数

(QBASACTLVL)

基本記憶域プール有資格スレッドの最大数は、QBASACTLVL と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、基本記憶域プールの有資格スレッドの最大数を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「記憶域プール」
特殊権限	なし
デフォルト値	6
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を使用して、基本記憶域プールの有資格スレッドの最大数を指定できます。記憶域プールは、ジョブまたはジョブ・グループを処理するために予約されている記憶域を論理分割したものです。

有資格スレッドの最大数は、基本記憶域プールの中の記憶域に対して同時に競合できるスレッドの数を指定します。このプールは、アクティブ・プールおよび共用プールのリストの中で**基本**としてリストされています。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の
の категорииのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: タイム・スライスの終わりでの対話型ジョブ の基本プールへの移動

(QTSEPOOL)

タイム・スライスの終わりでの対話型ジョブの基本プールへの移動は、**QTSEPOOL** とも呼ばれ、OS/400
システム値のパフォーマンス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、タイム・スライスの
の終わりに対話型ジョブを基本プールに移動するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべての
システム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パ フォーマンス」 → 「記憶域プール」
特殊権限	なし
デフォルト値	非選択 - タイム・スライスの終わりでの対話型ジョブを基 本プールへ移動しない
変更が有効になるとき	次のジョブが開始される時点。活動状態のジョブは影響を 受けません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

対話型ジョブがタイム・スライスの終わりに達したときに別の記憶域プールに移動するべきか否かを指定し
ます。そのようなジョブは、長時間待機が生じた時点で実行されていた当初のプールに戻されます。この指
定により、ある対話型ジョブが長時間を要する機能を実行している場合に、他の対話型ジョブの対話応答時
間に対する影響を最小限にすることができます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定
の カテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 通信構成の回復

(QCMNRCYLMT)

通信構成の回復は、**QCMNRCYLMT** とも呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリのメ
ンバーです。このシステム値を使用して、回復の試行を行うか否か、何回試行を行うかを指定します。
iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照して
ください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「通信」
特殊権限	なし
デフォルト値	回復を試行しない
変更が有効になるとき	次回、通信構成回復オブジェクトがオンに変更された時点。このシステム値に対する変更は、すでにオンに変更された通信構成オブジェクトに影響を与えません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

通信の失敗からの回復を試みるか否かを指定することができます。回復を試みることを選択する場合は、回復試行回数と、回復試行の時間間隔を指定する必要があります。

指定した時間間隔内の回復試行回数を超えた場合は、照会メッセージが送られます。照会メッセージは構成済みのメッセージ待ち行列に送られます。これは、システム操作員メッセージ待ち行列の場合も、または他のメッセージ待ち行列の場合もあります。試行回数の値は、0 から 99 までです。

回復試行が行われたが、指定時間間隔内の試行回数を超えない場合は、時間間隔が再始動するときに回復試行のカウンタも再始動されます。

サーバーが ROLM デジタル電子交換機に接続されている場合は、回復試行回数の値はゼロではありません。回復試行は、サーバーが、ROLM CBX のインバウンド・モデム・プールを使用して接続を確立するために必要です。

回復試行が行える時間枠を指定できます。時間間隔内で回復試行回数を超えていなければ、時間間隔が再始動するときに回復試行のカウンタもリセットされます。メッセージが構成済みメッセージ待ち行列に送られます。これは、システム操作員メッセージ待ち行列の場合も、構成オブジェクトに指定されたメッセージ待ち行列の場合もあります。可能な値は、0 から 120 分までです。

通信構成の回復を使用するときは、以下を検討してください。

- 試行回数が 1 以上で、時間間隔がゼロに等しい場合は、回復試行が限りなく行われます。これは、システム資源とパフォーマンスの面から、お勧めできません。
- iSeries とパーソナル・コンピューター間の APPC を使用した接続にローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 上で障害があり、サーバーがその接続を回復しようと試行する場合、不必要な作業がシステムに置かれます。

注: 自動通信エラー回復が使用されない場合は手動による回復が必要になりますが、これには操作員介入が必要です。妥当な妥協点として、自動回復による試行を 1 回だけに設定することをお勧めします。

- 回数カウンタを 0 (ゼロ)、時間間隔を 1 以上に設定して、2 次レベルのエラー回復をオフにします。2 次レベル回復をオフにすると、装置と制御装置が回復保留 (RCYPND) 状態になります。操作員介入が必要であることを示すメッセージが QSYSOPR または構成済みメッセージ待ち行列に送られます。手動回復を使用して QSYSOPR または構成済みメッセージ待ち行列にあるメッセージに回答するか、オブジェクトをオフに変更して再びオンに変更します。

注: 第 1 レベルのエラー回復は依然として行えます。LAN では、非活動タイマーを使用して、遠

隔システムがまだ使用可能かどうか判別されます。指定した非活動時間が経過すると、LANFRMRTY パラメーターと LANRSPTMR パラメーターによって、第 1 レベルのエラー回復が実行されます。

- 障害が発生したかを判別し、エラーを処理できるアプリケーションを作成します。
 - QSYSOPR または構成済みメッセージ待ち行列内のエラー・メッセージをモニターし、条件を処理する。
 - 「構成状況のリトリブ (Retrieve Configuration Status)」 (QDCRCFGS) および「構成記述のリスト (List Configuration Descriptions)」 (QDCLCFGD) アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) を使用して、構成オブジェクトの状況をモニターする。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の категорияのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 再始動での通信アービター・ジョブ

(QCMNARB)

再始動での通信アービター・ジョブは、**QCMNARB** とも呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、制御装置および装置のための作業を処理するのに使用可能な通信アービター・システム・ジョブの数を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「通信」
特殊権限	ジョブ制御 (*JOBCTL)
デフォルト値	システムが計算した値
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

制御装置および装置のための作業を処理するのに使用可能な通信アービター・システム・ジョブの数を指定します。制御装置および装置のための作業には、装置に送られる入出力要求、および、装置を実際の使用に使用可能にすることに関連するイベントが含まれます。

次のオプションを使用することができます。

- **0**
通信アービター・ジョブは実行されません。通常は通信アービター・ジョブが行う作業を、システム・アービター (QSYSARB) および QLUZ システム・ジョブが実行します。この設定は、IBM サービス技術員がお勧めしたときだけ使用してください。

- 1 ~ 99

開始される通信アービター・システム・ジョブの数を示します。

- システムが計算した値

システムが通信アービター・システム・ジョブの数を計算します。 これがお勧めする設定です。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、 パフォーマンス・システム値概要を参照してください。 特定のシステム値、または特定の カテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: 使用可能な表示装置パススルー・サーバー・ジョブ

(QPASTHRSVR)

使用可能な表示装置パススルー・サーバー・ジョブは、QPASTHRSVR と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、OS/400 表示装置パススルー、クライアント・アクセス・ワークステーション機能 (WSF)、および、プログラマブル・ワークステーション上の他の 5250 エミュレーション・プログラムを処理するのに使用可能な、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数を指定します。 iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。 詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「通信」
特殊権限	ジョブ制御 (*JOBCTL)
デフォルト値	システムが計算した値
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

OS/400 表示装置パススルー、クライアント・アクセス・ワークステーション機能 (WSF)、および APPC/APPN を使用して iSeries に接続するプログラマブル・ワークステーション上の他の 5250 エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能な、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数を指定します。

サーバー・ジョブは、Telnet API および 仮想端末 (VTM) API の場合は必要ありません。 したがって、Telnet および VTM だけを使用する場合は、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数として指定した値を減らす必要があります。

次のオプションを使用することができます。

- システムが計算した値

オペレーティング・システムが、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数を計算します。 これが推奨する設定です。

• 0 ~ 100

OS/400 表示装置パススルー、クライアント・アクセス・ワークステーション機能 (WSF)、および、APPC/APPN を使用して iSeries に接続するプログラマブル・ワークステーション上の他の 5250 エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能な、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数を指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: Query と索引の並列処理

(QQRVDEGREE)

Query と索引の並列処理は、QQRVDEGREE と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、並列処理を使用するか否か、何の目的で使用するかを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「データベース」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	並列処理を許可しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

並列処理を許可するかどうか、および並列処理のタイプが入出力並列処理かシンメトリック・マルチプロセッシング (SMP) であるかを指定します。入出力並列処理の場合は、データベース・マネージャーは、それぞれの Query の入出力補助記憶域処理に複数のタスクを使用できます。中央演算処理装置 (CPU) にとって、処理は従来通り逐次に行われます。シンメトリック・マルチプロセッシングの場合は、CPU および入出力の処理は、Query を並列的に実行するタスクに割り当てられます。実際の CPU の並列化のためには、マルチプロセッサを備えたシステムが必要となります。SMP 並列化は、DB2 マルチプロセス (OS/400 用) というシステム機構が導入されている場合にのみ使用されます。

例: 会社のために買う必要があるパーツを決定するために、データベースにある在庫の Query を実行します。Query を実行することにより、どのパーツが在庫切れで新規パーツで補充する必要があるかを判別できます。複数のプロセッサは同時に実行できないので、Query は完了までに長い時間がかかります。システム・パフォーマンスを上げるには、並列処理を使用するべきです。これによって、さまざまなプロセッサが同時に実行でき、Query が速く行えます。

次のオプションを使用することができます。

- **並列処理を許可しない**
データベース Query 処理に並列処理は使用されません。
- **入出力にマルチプロセスを使用する**
データベース Query 最適化プログラムは、Query のための入出力並列処理に任意の数のタスクを使用できます。SMP 並列処理は認められません。
- **入出力、Query、および索引にマルチプロセスを使用する**
Query 最適化プログラムは、Query に対して、入出力並列処理あるいは SMP 並列処理のどちらの場合でも、任意の数のタスクを使用できます。入出力、Query、および索引にマルチプロセスを使用することを選択した場合は、**記憶域プール内のすべてのアクティブな記憶域を使用することも選択できます**。すべてのアクティブな記憶域を使用することは、最適化プログラムが、より多くのシステム資源を使用するアクセス・プランを選択することになりますが、Query の実行は速くなります。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の категорияのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: データベース Query の時間制限

(QQRITIMLMT)

データベース Query の時間制限は、QQRITIMLMT と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、データベース Query の時間制限を設定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「データベース」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	制限なし
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

Query が実行される経過秒数の見積値と比較される Query 処理時間制限を指定します。この時間制限によって、データベース Query が開始できるかどうかが決まります。

次のオプションを使用することができます。

- **制限なし**
見積もられる経過秒数に最大数の制限はありません。

• 0 ~ 2147352578

ある Query を実行するために必要な経過秒数として見積もられた数値と比較される秒数を指定します。見積もられた経過秒数がこの値より大きい場合には、その Query は開始されません。2147352578 秒とは、約 68 年です。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内でのライブラリーのロック

(QLIBLCKLVL)

ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内でのライブラリーのロックは、**QLIBLCKLVL** とも呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、検索リスト内のライブラリーを他のジョブが削除または名前変更しないようにできます。システム・ジョブ、サブシステム・モニター・ジョブ、および 2 次スレッドは、それぞれのライブラリー検索リストの中のライブラリーをロックすることはありません。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「ライブラリー・リスト」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	選択 - ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内でのライブラリーのロックを許可する
変更が有効になるとき	次のジョブが開始される時点。活動状態のジョブは影響を受けません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内でのライブラリーのロックを選択して、検索リスト内のライブラリーを他のジョブが削除または名前変更しないようにできます。システム・ジョブ、サブシステム・モニター・ジョブ、および 2 次スレッドは、それぞれのライブラリー検索リストの中のライブラリーをロックすることはありません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

パフォーマンス・システム値: バックグラウンドでのデータベース統計収集許可

(QDBFSTCCOL)

▶ バックグラウンドでのデータベース統計収集許可は、**QDBFSTCCOL** と呼ばれ、OS/400 システム値のパフォーマンス・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システム・ジョブ QDBFSTCCOL によって処理されることが許される、データベース・ファイル統計収集要求のタイプを指定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「パフォーマンス」 → 「データベース」
特殊権限	なし
デフォルト値	ユーザー作成のデータベース統計およびシステム生成のデータベース統計を許可する
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システム・ジョブ QDBFSTCCOL によって処理されることが許される、データベース・ファイル統計収集要求のタイプを指定します。ユーザーが、あるいはデータベース・マネージャーが自動的に、いずれかによってフォアグラウンドで処理するよう要求される統計収集は、このシステム値の影響は受けません。

データベース・ファイル統計収集要求の作成者は、即時処理またはバックグラウンド処理のどちらかを指定することができます。即時が指定された場合は、統計収集は要求者のプロセスによって実行され、統計収集が完了するまで制御は戻されません。即時統計収集要求の処理は、このシステム値の影響は受けません。しかし、バックグラウンドが指定された場合には、要求はシステム・ジョブ QDBFSTCCOL に対して待ち行列に入れられ、要求を出しているプロセスに制御が即時に戻されます。

システム・ジョブ QDBFSTCCOL は、ユーザー作成要求とシステム生成要求のいずれかあるいはその両方からの要求を、このシステム値に基づいて、処理するために選択できます。選択されない要求は、システム・ジョブがその要求を処理する準備ができたか、あるいはシステム値が変更されてそのタイプの要求が処理できるようになるか、いずれかまで待ち行列に入れられたままになります。

このシステム値がより制限された値に変更される時は、統計システム・ジョブ内で進行中の統計収集要求の処理で新たな値においては許されない処理は、終了します。それらは、このシステム値が変更されてそれらの処理を許可する値に戻された時に再始動されます。

以下の要求のタイプから選択します。

ユーザー作成要求

ユーザー要求データベース・ファイル統計収集が、データベース統計システム・ジョブによって処理されることが許可されることを示します。

システム生成要求

システム作成データベース・ファイル統計収集が、データベース統計システム・ジョブによって処理されることが許可されることを示します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、パフォーマンス・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定の категорияのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。



第 11 章 OS/400 システム値: 電源制御概要

OS/400 電源制御システム値を使用して、システムの電源機構値を制御します。システム値の電源制御カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な電源制御システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

電源制御システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
電源障害が発生したとき	電源障害が発生したときにとる処置を指定する。	QUPSDLYTIM
メッセージ待ち行列とライブラリー	メッセージ待ち行列とライブラリーを指定する。	QUPSMMSGQ

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリ

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

電源制御システム値: 電源障害が発生したとき

(QUPSDLYTIM)

電源障害が発生したときは、**QUPSDLYTIM** と呼ばれ、OS/400 システム値の電源制御カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、電源障害が発生したときにとる処置を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「電源制御」 → 「一般」
特殊権限	なし

デフォルト値	システムが遅延時間を計算し、システムの電源を遮断する
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

電源障害が発生したときに、無停電電源装置を使用してとる処置を選択することができます。次のオプションを使用することができます。

- **システム全体を自動的に電源遮断する**
システム・ユーティリティー電源の障害が発生したときに、システムの電源が自動的に遮断されます。
- **時間間隔後にシステムの電源を遮断する**
ユーティリティー電源が遮断されるまでの遅延時間を秒数で指定します。
- **システムの電源は遮断するが、メイン・タワーの電源はオンにしておく**
プロセッサ、入出力処理機構カード、および、ロード・ソース記憶装置の電源だけを遮断します。適切な待機時間 (秒数) が計算されます。(この値は、バッテリー電源装置、または、すべてのラックが接続されているわけではない無停電電源装置を備えている場合に限り、使用してください。)
- **システムが遅延時間を計算し、システムの電源を遮断する**
適切な待機時間 (秒数) が計算されます。この値は、バッテリー電源装置をもつ 9402 システムまたは 9404 システムを備えている場合にのみ使用してください。
- **システムの電源を自動的に遮断しない**
システムは自分自身ではどのような処置も開始しません。

電源制御システム値についての詳細情報の入手

詳細については、電源制御システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

電源制御システム値: メッセージ待ち行列とライブラリー

(QUPSMMSGQ)

メッセージ待ち行列とライブラリーは、**QUPSMMSGQ** と呼ばれ、OS/400 システム値の電源制御カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、無停電電源装置メッセージを受け取るメッセージ待ち行列、および、指定したメッセージ待ち行列が入るライブラリーを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「電源制御」 → 「一般」
特殊権限	なし
デフォルト値	メッセージ待ち行列 - QSYSOPR。ライブラリー Library - QSYS。
変更が有効になるとき	即時

ロック可能	いいえ
-------	-----

このシステム値を使用してユーザーができること

無停電電源装置メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定することができます。

このメッセージ待ち行列がシステム操作員メッセージ待ち行列でない場合は、無停電電源装置メッセージはすべて、システム操作員メッセージ待ち行列にも送られます。このシステム値が意味をもつのは、システムにバッテリー電源装置と無停電電源装置が搭載されている場合だけです。

電源異常によって無停電電源装置が作動すると、このメッセージ待ち行列は、無停電電源装置活動化メッセージ (CPF1816) を受け取ります。電源障害が発生したときにとられる処置が、システムの電源を自動的に遮断しないように設定されている場合は、以下の条件を満たさなければならず、満たされない場合はシステムは即時に電源遮断を始めます。

- このシステム値で指定されたメッセージ待ち行列が存在しなければなりません。
- メッセージ待ち行列がワークステーション・メッセージ待ち行列 (またはシステム操作員メッセージ待ち行列) である場合は、そのメッセージ待ち行列は、割り込みモードまたは通知モードになっていなければなりません。
- このメッセージ待ち行列がワークステーション・メッセージ待ち行列でない場合は、そのメッセージ待ち行列はジョブによって割り振られていなければなりません。

他のすべての無停電電源装置メッセージについては、このようなメッセージ待ち行列が割り振られている必要はなく、割り込みモードまたは通知モードになっている必要もありません。このシステム値が有効なメッセージ待ち行列の名前を指定していない場合は、通知障害を示すメッセージがシステム操作員に送られ、システムは処理を継続します。

指定されたメッセージ待ち行列は再始動中にクリアされます。この値に、あるユーザーのメッセージ待ち行列を割り当てると、そのユーザーは、指定されたメッセージ待ち行列の中のすべてのメッセージを、再始動のたびに失うことになります。

メッセージ待ち行列は、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、電源制御システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 12 章 OS/400 システム値: 印刷概要

OS/400 印刷システム値を使用して、システムのプリンター出力がフォーマット設定される方法、および、デフォルトの装置記述を制御します。システム値の印刷カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な印刷システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

印刷システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
デフォルト印刷装置	システムのデフォルト印刷装置を設定する。	QPRTDEV
印刷キーを使用するときの形式	印刷キーを使用するときにはボーダー情報またはヘッダー情報を組み込むか否かを指定する。	QPRTKEYFMT
印刷ページ・フッター	システムのページ・フッターを指定する。	QPRTTXT

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値については、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリ

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

印刷システム値: デフォルト・プリンター

(QPRTDEV)

デフォルト・プリンターは、**QPRTDEV** と呼ばれ、OS/400 システム値の印刷カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムのデフォルト・プリンターを指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス

ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「印刷」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	PRT01
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムのデフォルト・プリンターを指定できます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、印刷システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

印刷システム値: 印刷キーを使用するときの形式

(QPRTKEYFMT)

印刷キーを使用するときの形式は、QPRTKEYFMT と呼ばれ、OS/400 システム値の印刷カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、印刷キーを押すときにボーダー情報およびヘッダー情報を組み込むか否かを選択します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「印刷」 → 「一般」
特殊権限	なし
デフォルト値	ヘッダー情報を組み込む
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

印刷キーを押すときにボーダー情報およびヘッダー情報を組み込むか否かを選択します。

たとえば、印刷キーを押したときにボーダー情報とヘッダー情報を表示することを選択した場合は、識別目的のために、装置名とユーザー名が入ったヘッダーが表示画面の上部に書き込まれます。また、アスタリスクで構成されたボーダーも表示画面印刷の周囲に書き込まれます。表示画面印刷の両サイドのマージンには、行番号も印刷されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、印刷システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

印刷システム値: 印刷ページ・フッター

(QPRTTXT)

印刷ページ・フッターは、QPRTTXT と呼ばれ、OS/400 システム値の印刷カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、リストおよび区切りページの下部にテキストを印刷するか否かを指定します。指定できるテキストの長さは 30 文字までです。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「印刷」 → 「一般」
特殊権限	なし
デフォルト値	非選択 - リストおよび区切りページの下部にテキストを印刷しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

リストおよび区切りページの下部にテキストを印刷するか否かを指定します。このシステム値で指定できるテキストの長さは 30 文字までです。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、印刷システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 13 章 OS/400 システム値: 再始動概要

OS/400 再始動システム値を使用して、システムを再始動する時期を変更し、システムが再始動したときに何が発生したかを表示できます。これらのシステム値には、再始動 (初期プログラム・ロード) に適用される値が含まれます。システム値の再始動カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な再始動システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

再始動システム値: iSeries ナビゲーター での名前	システム値 の説明	コマンド・インターフェース での名前
再始動のタイプ	システムの再始動のタイプを指定する。	QIPLTYPE
電源障害後の自動再始動の許可	電源障害が発生したときに自動再始動を許可するか否かを指定する。	QPWRRSTIPL
遠隔パワーオンおよび再始動の許可	遠隔パワーオンおよび再始動を許可するか否かを指定する。	QRMTIPL
スケジュール再始動の許可	スケジュールされた再始動の日付を設定する。	QIPLDATTIM
即時シャットダウンの時間制限	即時シャットダウンを実行するまでの時間制限を指定する。	QPWRDWNLMT
システムをセットアップするための開始プログラム	システムをセットアップするために使用するプログラムを指定する。	QSTRUPPGM
制御サブシステム/ライブラリー	制御サブシステムとライブラリーを指定する。	QCTLSBSD
コンソール問題が発生した場合	コンソール問題が発生したときにとる処置を指定する。	QSCPFCONS
再始動が完了する前のデータベース回復の待機	再始動が完了する前にデータベース回復を待機するか否かを指定する。	QDBRCVYWT
直前のシステム終了の状況	直前のシステム終了の状況を示す。	QABNORMSW
直前の再始動のタイプ	直前の再始動が行われた方法を指定する。	QIPLSTS
開始済みの印刷装置	直前の再始動時に印刷装置が開始されたか否かを指定する。	QSTRPRTWTR

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

再始動システム値: 再始動のタイプ

(QIPLTYPE)

再始動のタイプは、QIPLTYPE と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムの再始動のタイプを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「前回」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	不在
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を使用して、次回の再始動をどのように処理するかを指定します。次のオプションを使用することができます。

- **不在**
再始動中は、ユーザーとの相互作用を必要とする画面は表示されません。再始動が完了すると、通常のサインオン画面が表示されます。システムが手動モードにあるときは、**不在再始動**は、専用保守ツールが使用できる**在席再始動**に変わります。
- **在席**
すべての専用保守ツール機能が、すべての再始動画面と一緒に使用可能です。
- **在席、デバッグ・モードのコンソール**
システムを再始動し、制御装置 QCTL と装置 QCONSOLE をオンに変更されたままにします。これを使用すると、ワークステーション制御装置の他の装置は使用できなくなるので、問題分析の場合にのみ、この値を選択してください。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 電源障害後の自動再始動の許可

(QPWRRSTIPL)

電源障害後の自動再始動の許可は、QPWRRSTIPL と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、電源障害が発生したときに自動再始動を許可するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「前回」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - 電源障害後の自動再始動を許可しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

電源障害後に電源が回復した時点で、システムに自動再始動を行わせるように指定できます。

区画システムでは、このシステム値を 1 次区画からのみ変更してください。このシステム値は、1 次区画のみをコントロールします。区画を使用することによって、ユーザーは、1 つの物理システム内の資源を分散し、複数の独立したシステムのように機能させることができます。

2 次区画の再始動アクション構成値は、1 次区画と同時に 2 次区画の再始動を行うか否かを決定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 遠隔パワーオンおよび再始動の許可

(QRMTIPL)

遠隔パワーオンおよび再始動の許可は、QRMTIPL と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、遠隔パワーオンおよび再始動を許可するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「前回」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - 遠隔パワーオンおよび再始動を許可しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

遠隔パワーオンおよび再始動を電話回線を使用して開始できるか否かを指定します。これは、どのような電話がかかってきても、システムが再始動されることを意味します。

区画に分割されたシステムでは、2 次区画に対してこのオプションを選択すると、1 次区画と同時に 2 次区画が再始動することになります。区画を使用することによって、ユーザーは、1 つの物理システム内の資源を分散し、複数の独立したシステムのように機能させることができます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: スケジュールされた再始動の許可

(QIPLDATTIM)

スケジュールされた再始動の許可は、**QIPLDATTIM** とも呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、スケジュールされた再始動の日付を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「前回」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - スケジュールされた再始動を許可しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

自動再始動を行う日時を指定します。

このシステム値は、各区画に別個に設定することができます。区画を使用することによって、ユーザーは、1 つの物理システム内の資源を分散し、複数の独立したシステムのように機能させることができます。2 次区画で自動再始動が行われるべきときに 1 次区画の電源が遮断されると、その再始動は行われません。1 次区画が再始動を行ったときに、2 次区画の再始動の日時が期限を過ぎていれば、2 次区画は再始動されません。

2 次区画が再始動アクションに「保留」を指定して構成されていた場合は、2 次区画の再始動は行われません。

このシステム値には、日付と時刻の 2 つの部分があります。

- **日付**

システムで再始動が自動的に行われる日付を指定します。日付における月の値は、1 ~ 12 です (1 年以上先の日付は指定できません)。

- **時刻**

システムで再始動が自動的に行われる指定された日付の時刻を指定します。この時刻は、現在時刻よりも少なくとも 5 分後でなければなりません。

システムの電源が落ちている間に指定の日時が過ぎてしまった場合、またはその日時になった時点でシステムが稼働している場合は、再始動は行われません。スケジュールされた再始動が一回行われると、さらに再始動がスケジュールされることはありません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 即時シャットダウンの時間制限

(QPWRDWNLMT)

即時シャットダウンの時間制限は、QPWRDWNLMT と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、即時シャットダウンを実行するまでの時間制限を指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「前回」
特殊権限	なし
デフォルト値	600 秒
変更が有効になるとき	即時

このシステム値を使用してユーザーができること

ユーザーが即時電源遮断を要求した後で、あるいは、ユーザーがコントロール電源遮断を要求し遅延パラメーターに指定した時間が切れた後で、システムが正常に電源遮断を実行するまで待機する最大時間を秒数で指定します。無停電電源装置を導入しているシステムで電源障害が起きた後で、ユーザーが電源遮断を要求しても、この時間制限の値は無視されます。

この値が 0 (またはきわめて小さい値) に設定されている場合は、電源遮断タイムアウト状態が発生し、システム処理が終了しても、システムは電源遮断操作を完了しません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: システムをセットアップするための開始プログラム

(QSTRUPPGM)

システムをセットアップするための開始プログラムは、**QSTRUPPGM** と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムをセットアップするのに使用するプログラムを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「セットアップ」
特殊権限	なし
デフォルト値	ライブラリー - QSYS。開始プログラム - QSTRUP。
変更が有効になるとき	次回、制御サブシステムが開始されるとき
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

制御サブシステムの開始時に自動開始ジョブから呼び出されるプログラムの名前を指定します。このプログラムは、サブシステムや印刷装置の開始などのセットアップ機能を行います。プログラムの名前を指定しない場合は、自動開始ジョブは、プログラムを呼び出さずに、正常に終了します。

デフォルトの始動プログラムは、以下のことを行います。

- スプール処理用に QSPL サブシステムを開始する。
- QS36MRT および QS36EVOKE ジョブ待ち行列が保留の状態にある場合は、それらのジョブ待ち行列を解放する (これらはシステム/36 環境で使用されます)。
- 許可されている場合には、操作援助機能の終結処置を開始する。
- すべてのプリンターを開始する (ユーザーが再始動プロパティーでそのように指定していない場合を除く)。
- QSERVER および QUSRWRK サブシステムを開始する。制御サブシステムが QCTL である場合には、デフォルトの始動プログラムが QINTER、QBATCH、および QCMN サブシステムを開始する。

プログラムは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。システムが制限状態で開始されたときは、開始プログラムは呼び出されません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 制御サブシステム/ライブラリー

(QCTLSBSD)

制御サブシステム/ライブラリーは、**QCTLSBSD** と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、制御サブシステムおよびライブラリーを指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「セットアップ」
特殊権限	なし
デフォルト値	制御サブシステム - QBASE。ライブラリー - QSYS です。
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムを再始動したあとに開始する最初のサブシステムを指定します。システムの稼働時には、1 つのサブシステムが活動状態になっている必要があります。これが制御サブシステムです。他のサブシステムは随時、開始や停止を行うことができます。

指定のサブシステム記述が使用できない場合 (たとえば、損傷がある場合など) は、ライブラリー QSYS のバックアップ・サブシステム記述 QSYSSBSD が使用されます。制御サブシステムとして指定したサブシステム記述は、システムが完全な作動状態になった後は、削除や、名前の変更を行うことはできません。

サブシステム記述は、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: コンソールの問題が起こった場合

(QSCPFCONS)

コンソール問題が発生した場合は、**QSCPFCONS** と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、コンソール問題が発生した場合にとる処置を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「回復」
特殊権限	なし
デフォルト値	不在再始動を続行
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

在席再始動中にコンソール問題が発生したときにシステムがとる処置を指定します。

次のオプションを使用することができます。

- **不在時再始動を続行**

在席モードではなく不在モードで再始動を続行する。このオプションを選択することにより、コンソールに問題が発生した場合にも再始動が続行されます。

- **再始動を終了する**

在席再始動中に、コンソールが操作可能でなくなったときに再始動を終了する。

システムにコンソール以外のワークステーションがない場合、または、制御サブシステムがサポートするのがコンソールだけで、他のワークステーションをサポートするその他のサブシステムを開始しない場合は、**再始動を終了する**を選択してください。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 再始動が完了する前のデータベース回復の待機

(QDBRCVYWT)

再始動が完了する前のデータベース回復の待機は、**QDBRCVYWT** と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、再始動が完了する前にデータベース回復を待機するか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「回復」
特殊権限	なし
デフォルト値	非選択 - 再始動が完了するまでデータベース回復を待機しない
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

不在時再始動中のどの時点でデータベース・ファイルの回復を行うかを指定します。システムの異常終了の後のデータベースの回復にはかなりの時間を要する場合があります。このような回復の完了を待たずにシステムを使用可能にしたい場合には、このオプションを選択しないでください。

データベース・ファイルの回復には、再始動操作の終了時点でのアクセス・パスの再作成を含むことができます。データベース・ファイルを作成したときにこのオプションが指定されていた場合は、データベースの回復にはかなりの時間を要します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 直前のシステム終了の状況

(QABNORMSW)

直前のシステム終了の状況は、**QABNORMSW** と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、直前の終了の状況がどのように処理されたかを表示することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「前回」
デフォルト値	デフォルト値なし
変更が有効になるとき	このシステム値は読み取り専用です。この値を変更することはできません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムの直前の終了が正常終了か異常終了かを表示できます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 直前の再始動タイプ

(QIPLSTS)

直前の再始動タイプは、**QIPLSTS** と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、直前の再始動がどのように処理されたかを表示することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「直前」
デフォルト値	デフォルト値なし
変更が有効になるとき	このシステム値は読み取り専用です。この値を変更することはできません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

直前の再始動で以下のどのタイプの再始動が行われたかを表示することができます。

- **オペレーター・パネルによる再始動**
再始動は、オペレーター・パネルから要求されて行われたか、2 次区画の専用保守ツール (DST) からの要求によって行われた。
- **電源復元後の自動再始動**
電源障害の後で電源が復元されたときに、再始動が自動的に行われた。このタイプの再始動は、「一般」ページの「再始動」オプションで指定することができます。
- **再始動**
ユーザーがシステムの電源遮断とシステムの再始動を要求したときに、再始動が行われた。
- **時刻による再始動**
「一般」ページの「スケジュールされた再始動」に指定された日時に再始動が自動的に行われた。
- **遠隔再始動**
遠隔再始動が行われた。このタイプの再始動は、「一般」ページの「再始動」オプションで指定することができます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

再始動システム値: 直前の再始動 - 開始済みの印刷装置

(QSTRPRTWTR)

直前の再始動 - 開始済みの印刷装置は、**QSTRPRTWTR** と呼ばれ、OS/400 システム値の再始動カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、直前の再始動時に印刷装置が開始されたか否かを表示することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「再始動」 → 「前回」
デフォルト値	デフォルト値なし
変更が有効になるとき	このシステム値は読み取り専用です。この値を変更することはできません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

直前の再始動時に印刷装置が開始されたか否かを表示することができます。このシステム値は、印刷装置が開始されたか否かによって、「はい」または「いいえ」を応答します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、再始動システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 14 章 OS/400 システム値: 復元概要

➤ 特定の復元プロパティを制御するために、OS/400 の復元のシステム値を使用します。システム値の復元カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な復元システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

復元システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	コマンド・インターフェースでの名前
復元中のオブジェクトの変換	復元する前に変換すべきオブジェクトを指定する。	QFRCCVNRST
機密オブジェクトの復元の許可	復元するオブジェクト、および、ソフトウェア修正をインストール中に復元できるか否かを指定する。	QALWOBJRST
復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査	シグニチャーなし、またはシグニチャー付きだが無効なオブジェクトを、復元するかどうかを指定する。	QVIFYOJBRS

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

復元操作におけるシステム値設定の影響

復元操作が正しく実行されるようにするために、別のシステム値の設定値を調べる方法についての情報があります。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリ

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。 ⏪

復元システム値: 復元中のオブジェクトの変換

(QFRCCVNRST)

復元中のプログラム変換の実行は、**QFRCCVNRST** とも呼ばれ、OS/400 システム値の復元カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、復元中のプログラム変換を強制することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「復元」 → 「変換」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	レベル 1
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

実行したい変換のレベルを指定できます。それぞれのレベルごとに、復元前に変換されるオブジェクトのリストを示します。次のオブジェクト・タイプは、ユーザーの選択する変換のレベルの要件に合致するか否かによって、復元中に変換される場合があります。

- プログラム (*PGM)
- サービス・プログラム (*SRVPGM)
- SQL パッケージ (*SQLPKG)
- モジュール (*MODULE)

このシステム値の設定値により、一部のオブジェクトが復元されないようにすることもできます。変換の条件に合致するが変換に失敗したオブジェクトは、復元されません。しかし、システム・トラステッド・ソースからの有効なシグニチャーを持つすべてのオブジェクトは、変換なしに復元されます。

このシステム値の設定値は、復元コマンド (RST、RSTLIB、RSTOBJ、RSTLICPGM) における強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN) パラメーターにシステム値 (*SYSVAL) を指定する時に使用されます。*SYSVAL を指定することにより、ユーザーは、このシステム値を変更することでシステム全体の変換をオンまたはオフにすることができます。FRCOBJCVN (*YES *ALL) を指定することにより、**復元中のオブジェクト変換**システム値の値がどうであってもオーバーライドすることになります。

オブジェクトが、このシステム値で指定された条件の少なくとも 1 つに合致すれば、そのオブジェクトは変換されます。

たとえば、**レベル 3** を指定した場合、変換されるオブジェクトには以下が組み込まれます。

- 妥当性検査エラーがあるオブジェクト
- 使用するために変換が必要なオブジェクト
- 改ざんされた可能性のあるオブジェクト

次の値を使用することができます：

- **レベル 0 (0)**
すべてのオブジェクトを変換なしに復元します。

- **レベル 1 (1)**
妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。
- **レベル 2 (2)**
オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するには変換する必要があるオブジェクト、および妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。
- **レベル 3 (3)**
改ざんされた疑いのあるオブジェクト、オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するには変換する必要があるオブジェクト、および妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。
- **レベル 4 (4)**
妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、あるいは改ざんされた疑いのあるオブジェクトが変換されます。十分な作成データを含み、有効なデジタル・シグニチャーを持たないオブジェクトも、変換されます。
- **レベル 5 (5)**
妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、改ざんされた疑いがあるか、あるいは十分な作成データを含むオブジェクトが、変換されます。
- **レベル 6 (6)**
妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、改ざんされた疑いがあるか、あるいは有効なデジタル・シグニチャーを持たないオブジェクトが、変換されます。
- **レベル 7 (7)**
すべてのオブジェクトが変換されます。

すべてのレベルにおいて、変換の条件に合致するが変換に失敗したオブジェクトは、復元されません。変換する必要がないオブジェクトは、変換なしに復元されます。あるオブジェクトが変換されるときは、そのオブジェクトのデジタル・シグニチャーが除去されます。また、変換されるオブジェクトはユーザー状態に変更され、妥当性検査が訂正され、改ざんされた疑いをかけられることがなくなります。

復元システム値は、オブジェクトの復元時にともに作用します。これらのシステム値がどのように一緒に作用するか、詳細は復元操作におけるシステム値設定の影響を参照してください。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、復元システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

復元システム値: 機密オブジェクトの復元の許可

(QALWOBJRST)

機密オブジェクトの復元は、**QALWOBJRST** と呼ばれ、OS/400 システム値の復元カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、復元するオブジェクト、および、ソフトウェア修正をインストール中に復元できるか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス

ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「復元」 → 「オブジェクト」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	選択されたすべてのオブジェクト
変更が有効になるとき	次の復元操作の開始時点
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

機密属性を持ったオブジェクトを復元できるか否かを指定することができます。

システムはこのシステム値をチェックしてから、機密属性を持ったオブジェクトを復元します。このチェックは、プログラム一時修正 (PTF) のインストールおよびライセンス・プログラムの復元中に行われます。ただし、オペレーティング・システムのインストール中は、システムはこの値をチェックしません。このシステム値によって、システムの保全性の保護がさらに強化されます。これによって、他のユーザーが、システム状態のオブジェクト、または、借用権限を持つオブジェクトを復元できなくなります。

以下のタイプのオブジェクトは、選択された場合に復元することができます。

- **システム状態プログラム**
システム状態属性または継承状態属性を持つプログラム、サービス・プログラム、およびモジュールの復元を許可する。
- **借用権限を持つプログラム**
所有者の権限を借用するプログラム、サービス・プログラム、およびモジュールの復元を許可する。
- **S_ISUID (set-user-id) 属性が使用可能になっているプログラム**
S_ISUID (set-user-ID) 属性が使用可能になっているファイルの復元を許可する。
- **S_ISGID (set-group-id) 属性が使用可能になっているプログラム**
S_ISGID (set-group-ID) 属性が使用可能になっているファイルの復元を許可する。
- **妥当性検査エラーがあるプログラム**
妥当性検査エラーがあるかまた改ざんされた、プログラム、サービス・プログラム、およびモジュールの復元を許可する。

復元システム値は、オブジェクトの復元時とともに作用します。これらのシステム値がどのように一緒に作用するか、詳細は復元操作におけるシステム値設定の影響を参照してください。

ソフトウェア修正をインストール中の機密オブジェクトの復元を指定することもできます。このオプションは、QALWOBJRST の *ALWPTF オプションとしても示されています。この値を選択してから、ソフトウェア一時修正 (PTF) をインストールするようにしてください。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、復元システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

復元システム値: 復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査

(QVFYOBJRST)

復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査は、**QVFYOBJRST** と呼ばれ、OS/400 システム値の復元カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、シグニチャーなしまたはシグニチャー付きの、無効なオブジェクトのオブジェクトを復元するかどうか指定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「復元」 → 「シグニチャー」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	復元でオブジェクト・シグニチャーを検査する。シグニチャーなしのオブジェクトの復元を許可する
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

復元操作中のオブジェクト・シグニチャー検査に使用するポリシーを指定します。この値は、プログラム (*PGM)、サービス・プログラム (*SRVPGM)、SQL パッケージ (*SQLPKG)、および、モジュール (*MODULE) の各オブジェクト・タイプに適用されます。この値は、また、Java プログラムが入るストリーム・ファイル (*STMF) オブジェクトにも適用されます。

デジタル証明書マネージャーがシステムにインストールされていない場合は、復元操作中にこれらのオブジェクトに関するこのシステム値の影響を判別するとき、すべてのオブジェクトがサインなしとして扱われます。

次のオプションを使用することができます。

- **復元でオブジェクト・シグニチャーを検査しない**

復元でシグニチャーを検査しません。シグニチャーに関係なく、すべてのオブジェクトを復元します。(このオプションは、QVFYOBJRST のオプション 1 に等しいです。)

シグニチャー付きの、復元対象の大量のオブジェクトを持っているのでない限り、この値は使用してはなりません。そのような場合にこの値を使用すると、受け入れ可能な理由で、シグニチャー検査が失敗します。一般的には、ご使用のシステムで、無効な、シグニチャー付きのオブジェクトを復元するのは危険です。

- **復元でオブジェクト・シグニチャーを検査する。シグニチャーなしまたはシグニチャー付きの無効なオブジェクトの復元を許可する**

復元でシグニチャーを検査します。サインなしのコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元します。シグニチャーが無効でも、サイン付きのコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元します。(このオプションは、QVFYOBJRST のオプション 2 に等しいです。)

シグニチャー付きの、復元したい、無効な特定のオブジェクトがある場合にのみ、この値を使用してください。一般的には、ご使用のシステムで、無効な、シグニチャー付きのオブジェクトを復元するのは危険です。

- **復元でオブジェクト・シグニチャーを検査する。シグニチャーなしのオブジェクトの復元を許可する**
復元でシグニチャーを検査します。サインなしのコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元します。サイン付きのコマンドおよびユーザー状態オブジェクトは、シグニチャーが有効である場合にのみ、復元します。(このオプションは、QVIFYOBJRST のオプション 3 に等しいです。)

この値は、通常の操作、つまり、ロードしようとしているオブジェクトの一部はサインがないと予期できるが、サインがあるオブジェクトはすべて有効なシグニチャーを持っていると考えられる場合に使用できます。これがデフォルト値です。

- **復元でオブジェクト・シグニチャーを検査する。無効なシグニチャーを持つオブジェクトの復元を許可する**
サインなしのユーザー状態オブジェクトを復元しません。シグニチャーが無効でも、サイン付きのユーザー状態オブジェクトを復元します。(このオプションは、QVIFYOBJRST のオプション 4 に等しいです。)

シグニチャー付きの、復元したい、無効な特定のオブジェクトがあるが、サインなしのオブジェクトが復元されることを望まない場合にのみ、この値を使用してください。一般的には、ご使用のシステムで、無効な、シグニチャー付きのオブジェクトを復元するのは危険です。

- **復元でオブジェクト・シグニチャーを検査する。シグニチャーなしまたはシグニチャー付きの無効なオブジェクトの復元を許可しない**
サインなしのユーザー状態オブジェクトを復元しません。シグニチャーが有効な場合にのみ、サイン付きのユーザー状態オブジェクトを復元します。(このオプションは、QVIFYOBJRST のオプション 5 に等しいです。)

この値は最も制限が厳しい値であるので、復元を許可したい唯一のオブジェクトが、信頼できるソースによってサインされたものである場合に使用してください。

システム状態属性を持つオブジェクト、および継承状態属性を持つオブジェクトは、システムが信頼できるソースからの有効なシグニチャーが必要です。有効なシグニチャーなしにシステム状態または継承状態のオブジェクトが復元を許可される唯一の値は、**復元でシグニチャーを検査しない**です。このようなコマンドまたはプログラムを許可することは、ご使用のシステムに保全性上のリスクを与えることになります。このシステム値を**復元でシグニチャーを検査しない**に変更してこれらのオブジェクトをご使用のシステムに復元することを許可する場合は、オブジェクトが復元されたらこのシステム値を元の値に必ず戻してください。

コマンド (*CMD) オブジェクトの一部は、そのオブジェクトのすべての部分をカバーしてはいないシグニチャーを持つ場合があります。コマンドのある部分はサインなしですが、非デフォルト値を含んでいる時は他の部分だけがサイン付きです。このタイプのシグニチャーでは、コマンドに対するいくつかの変更を、シグニチャーを無効にすることなしに行うことができます。これらのタイプのシグニチャーを無効にしない変更の例には以下があります。

- コマンドのデフォルトの変更
- 妥当性検査プログラムを持たないコマンドへの、妥当性検査プログラムの追加
- 実行できる場所 (where allowed to run) パラメーターの変更
- 限定ユーザーの許可 (allow limited users) パラメーターの変更

ユーザーは、コマンド・オブジェクトにこれらのエリアを含むコマンドに対し、必要であれば自分のシグニチャーを追加することができます。

詳細については、オブジェクトのサインとシグニチャー検査を参照してください。

復元システム値は、オブジェクトの復元時にともに作用します。これらのシステム値がどのように一緒に作用するか、詳細は復元操作におけるシステム値設定の影響を参照してください。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、復元システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 15 章 OS/400 システム値: 機密保護概要

OS/400 機密保護システム値を使用して、オブジェクト、ユーザー、および機密保護システム値をコントロールします。システム値の機密保護カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な機密保護システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

機密保護システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
機密保護レベル	システムの機密保護のレベルを設定する。	QSECURITY
サーバー機密保護情報が保存されるようにする	保存するサーバー機密保護情報を設定する。	QRETSVRSEC
呼び出しプログラムからの借用権限をプログラムが使用できるようにするユーザー	借用権限を持つプログラムを処理できるユーザーを指定する。	QUSEADPAUT
iSeries ナビゲーターにはない	権限を持ったユーザーが、サーバーにアクセスできる時間の長さを指定する。	QSVRAUTITV
QSYS.LIB ファイル・システムに新規に作成されたオブジェクトのデフォルト権限	権限を指定しないオブジェクトのデフォルト権限を指定する。	QCRTAUT
書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可	共用記憶域またはマップされた記憶域のストリーム・ファイルをユーザーが使用してよいか否かを指定する。	QSHRMEMCTL
監査対象外オブジェクト...	権限検査をう回し、監査対象外とするユーザー・ドメイン・オブジェクトをどこで許可するかを指定する。	QALWUSRDMN

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

機密保護システム値: 機密保護レベル

(QSECURITY)

機密保護レベルは、**QSECURITY** とも呼ばれ、OS/400 システム値の機密保護カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムの機密保護のレベルを設定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「機密保護」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	文書化されていないシステム・インターフェースからの保護 (40)
変更が有効になるとき	システムの次の再始動時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

システムの機密保護のレベルを指定できます。次のオプションを使用することができます。

- **パスワードは不要で、ユーザーはすべての資源に権限を持っている (10)**
 システムは、サインオンのためのパスワードを必要としません。
 ユーザーはすべてのシステム資源にアクセスできます。
 機密保護レベル 10 は、システムがすでにこのレベルで実行されていない限り利用不能です。
 機密保護レベル 10 から、20、30、40、または 50 に変更すると、レベル 10 に戻ることはできません。
- **パスワードは必要で、ユーザーはすべての資源に権限を持っている (20)**
 システムは、サインオンのための、ユーザー名とパスワードを必要とします。
 ユーザーはすべてのシステム資源にアクセスできます。
 機密保護担当者または機密保護管理者 (*SECADM) 権限を持った担当者だけがユーザー・プロファイルを作成することができます。
- **パスワードは必要で、ユーザーのアクセス権は、ユーザーの権限に基づく (30)**
 機密保護レベル 20 の要件はすべて満たします。
 すべてのシステム資源にアクセスするには、ユーザーは、必要な特定権限を持っていない限りなりません。
 *SECOFR 機密保護クラスを使用して作成されたユーザー・プロファイルだけが、すべてのオブジェクト (*ALLOBJ) 権限を自動的に付与されます。
- **文書化されていないシステム・インターフェースからの保護 (40)**
 機密保護レベル 30 の要件はすべて満たします。
 サポートされていないインターフェースを使用してオブジェクトにアクセスしようとする、プログラムは失敗します。
 ジョブがユーザー・プロファイルを指定している場合は、ユーザーは、使用したいジョブへの使用権限属性に加えて、プロファイルへの使用権限属性を持っていない限りなりません。
- **システム・インターフェースの拡張保護 (50)**
 機密保護レベル 40 の要件はすべて満たします。

サポートされていないパラメーター値をサポートされているインターフェースに渡そうとしたり、サポートされていないインターフェースを使用してオブジェクトにアクセスしようとすると、そのプログラムは失敗します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、機密保護システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

機密保護システム値: サーバー機密保護データの保存

(QRETSVRSEC)

サーバー機密保護データの保存は、**QRETSVRSEC** と呼ばれ、OS/400 システム値の機密保護カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、保存されるサーバー機密保護情報を設定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「機密保護」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - サーバー機密保護情報は保存されない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

クライアント・サーバー・インターフェースを使用してターゲット・システム上のユーザーを確認するためにサーバーが必要とする機密保護データを、ホスト・システム上に保存しておくことができるかどうかを決定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、機密保護システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

機密保護システム値: 呼び出しプログラムからの借用権限をプログラムが使用できるようにするユーザー

(QUSEADPAUT)

呼び出しプログラムからの借用権限をプログラムが使用できるようにするユーザーは、**QUSEADPAUT** とも呼ばれ、OS/400 システム値の機密保護カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、借用権限を持つプログラムを処理できるユーザーを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「機密保護」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	すべてのユーザー
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

呼び出し元のプログラムの権限を使用するプログラムを作成、変更、および更新できるユーザーを定義できます。指定されたユーザーは、借用権限属性を「はい」に設定した (USEADPAUT(*YES)) プログラムを処理できます。

ユーザーは、別のプログラム (プログラム B) に呼び出されたときにその呼び出し元のプログラムの権限を使用するプログラム (プログラム A) を作成することができます。

使用できるオプションは次のとおりです。

すべてのユーザー

ユーザーがプログラムまたはサービス・プログラムに対して必要な権限を持っている場合は、すべてのユーザーが、呼び出し元のプログラムの権限を使用するプログラムおよびサービス・プログラムを作成、変更、更新できます。

権限リスト

権限リストは、同様の機密保護が必要なオブジェクトを保護するために使用されます。権限は、個々のオブジェクトに対してではなく、リストに与えることができます。

ユーザーの権限は、指定した権限リストと照合してチェックされます。この権限が借用権限に由来することはありえません。ユーザーが、指定された権限リストの中に少なくとも使用 (USE) 権限属性を持っている場合は、そのユーザーは、呼び出し元のプログラムの権限を使用するプログラムまたはサービス・プログラムを作成、変更、更新することができます。

指定した権限リストがない場合は、試行中の操作は完了しません。このことを示すメッセージが送られます。複数の操作がコマンドまたは API で要求されていて、権限リストが存在しない場合は、操作は実行されません。権限リストが見つからなかったときに試行されていたコマンドが Pascal プログラムの作成 (CRTPASPGM) コマンド、または、Basic プログラムの作成 (CRTBASPGM) コマンドであった場合は、結果は機能チェックになります。これは、エラーの 1 つのタイプで、機密保護検査ではありません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、機密保護システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

機密保護システム値: サーバー認証インターバル

(QSVRAUTITV)

サーバー認証インターバルは、**QSVRAUTITV** とも呼ばれ、iSeries ナビゲーターにはないシステム値です。このシステム値は、借用権限を持ったユーザーが借用プログラムにアクセスできる時間の長さを指定します。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	文字ベース・インターフェース
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	2880 分 (48 時間)
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値は、単に借用権限を持ったユーザーが借用プログラムを利用できる時間の長さを指定するだけです。このインターバルは、認証を行うためのサーバー認証項目の使用後の、認証が有効な時間の長さを示します。1 から 108000 までの値を指定できます。認証の有効期限は、指定したインターバルの終わりで切れます。認証の有効期限が切れた後は、オブジェクトにアクセスすることはできません。値 108000 は 7 1/2 日を示します。

ユーザーがこの値をどのように設定しようと、オペレーティング・システムには影響しません。オペレーティング・システムはもはやこの値を使用しません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、機密保護システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

機密保護システム値: QSYS.LIB ファイル・システムの新規作成オブジェクトのデフォルト権限

(QCRTAUT)

QSYS.LIB ファイル・システムに新規に作成されたオブジェクトのデフォルト権限は、**QCRTAUT** とも呼ばれ、OS/400 システム値の機密保護カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、権限を指定しないオブジェクトのデフォルト権限を指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「機密保護」 → 「共通権限」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	変更
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

新規作成オブジェクトの共通認可を指定できます。ユーザーが新規オブジェクトを作成したが、そのオブジェクトの権限レベルを指定しなかった場合、このシステム値で指定された権限レベルが使用されます。

次のオプションを使用することができます。

- **変更**
PUBLIC が新規作成オブジェクトを変更することを許可します。
- **使用**
PUBLIC は、新規作成オブジェクトを表示できますが、変更することはできません。
- **すべて**
システムの全ユーザー (すべて以下の権限を持つユーザーを除く) が、新規オブジェクトを完全にコントロールすることを許可します。このようなユーザーは、それらのオブジェクトの読み取り、変更、削除、および機密保護の管理を行うことができます。
- **除外**
PUBLIC が新規作成オブジェクトを使用することは許可されません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、機密保護システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つきたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

機密保護システム値: 書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可

(QSHRMEMCTL)

書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可は、**QSHRMEMCTL** とも呼ばれ、OS/400 システム値の機密保護カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域を使用できるか否かを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス

ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「機 密保護」 → 「共用メモリー」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理 者 (*SECADM)
デフォルト値	選択 - 書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされ た記憶域の使用が許可される
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

共用記憶域またはマップされた記憶域のストリーム・ファイルを、ユーザーが使用してよいか否かを指定します。共用記憶域へのアクセスを許可するか否か、またはマップされた記憶域のストリーム・ファイルの使用を許可するか否かを選択することができます。このオプションを許可することにより、ユーザーは、共用記憶域 API (たとえば、shmat() - Shared Memory Attach API)、および、ストリーム・ファイルを持ったマップされた記憶域オブジェクト (たとえば、mmap() - Memory Map a File API) を使用できるようになります。共用記憶域およびマップされた記憶域のストリーム・ファイルにアクセスを許可することは、プログラムがさまざまなジョブで実行され、それらのプログラムでポインターが共用されている環境では、お勧めできることです。ただし、より高い機密保護要件がある環境では、この設定値はお勧めできません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、機密保護システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

機密保護システム値: 監査可能でないオブジェクト . . .

(QALWUSRDMN)

監査可能でないオブジェクトは、**QALWUSRDMN** と呼ばれ、OS/400 システム値の機密保護カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、権限検査をう回し、監査可能でないユーザー・ドメイン・オブジェクトをどこで許可するかを指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「セ キュリティー」 → 「監査可能でないオブジェクト」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理 者 (*SECADM)
デフォルト値	すべてのライブラリーおよびディレクトリー
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

監査対象外のユーザー・ドメイン・オブジェクトをどこで許可するかを選択できます。システムの機密保護要件が高い場合は、タイプが QTEMP 内にある *USRSPC、*USRIDX、および *USRQ のユーザー・ドメイン・オブジェクトだけを許可します。これらのオブジェクトは、監査できないユーザー・ドメイン・オブジェクト・タイプです。機密レベル 50 では、QTEMP ライブラリーは、ジョブ間でデータを渡すのに使用できない一時オブジェクトです。次のオプションを使用することができます。

すべてのライブラリーとディレクトリー

すべてのライブラリーとディレクトリーで、監査対象外のオブジェクトを許可します。サーバーには複数のファイル・システムがあります。ライブラリーは QSYS ファイル・システムの一部で、ディレクトリーは POSIX ファイル・システムの一部です。ディレクトリーは、“ルート”または“QOpenSys”ファイル・システムの一部として参照されます。

QTEMP ライブラリーと以下の場所

QTEMP ライブラリーに加え、監査対象外オブジェクトを許可する場所として、**すべてのディレクトリー**と **選択されたライブラリー**を指定することができます。

すべてのディレクトリーは、QTEMP ライブラリーに加え、監査対象外オブジェクトをすべてのディレクトリーで許可します。

選択されたライブラリーでは、監査対象外オブジェクトが許可されるライブラリーを指定することができます。このシステム値は、ユーザー・オブジェクトのユーザー・ドメイン・バージョンが入る特定のライブラリーを示します。最大 50 までのライブラリーをリストできます。ライブラリー名のリストを指定する場合、ユーザー・ドメイン・ユーザー・オブジェクトを現在処理しているアプリケーションは、リストに指定されていないライブラリーの中のオブジェクトを使用すると失敗します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、機密保護システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 16 章 OS/400 システム値: サインオンの概要

OS/400 サインオン・システム値を使用して、全ユーザーのためのサインオン値およびその他の初期値をコントロールします。システム値のサインオン・カテゴリーにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なサインオン・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

サインオン・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	コマンド・インターフェースでの名前
正しくないサインオンの試み	正しくないサインオンの試みをユーザーが何回試みることができるかを指定する。	QMAXSIGN
最大値に達したとき	サインオン試行の最大許容回数に達したときにとる処置を指定する。	QMAXSGNACN
サインオン情報の表示	ユーザーがシステムにサインオンするときにサインオン情報を表示するか否かを指定する。	QDPSGNINF
特権ユーザーを特定の装置セッションに制限する	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ) およびサービス (*SERVICE) 特殊権限を持つユーザーが、特定のワークステーションに対する明示的な権限を持つ必要があるか否かを指定します。	QLMTSECOFR
各ユーザーを 1 つの装置セッションに制限する	装置セッションの限度を設定する。	QLMTDEVSSN
遠隔サインオンに Telnet またはパススルーを使用する	Telnet およびパススルーによる遠隔サインオンに関する情報を指定する。	QRMTSIGN

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

サインオン・システム値: 正しくないサインオンの試み

(QMAXSIGN)

正しくないサインオンの試みは、**QMAXSIGN** と呼ばれ、OS/400 システム値のサインオン・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、正しくないサインオンの試みをユーザーが何回試みることができるか (0 から 25) を指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「サインオン」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	3
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

正しくないサインオンの試みをユーザーが何回試みることができるかを指定できます。システム・メッセージ待ち行列がある場合は、そこにメッセージが送られます。システム・メッセージ待ち行列がない場合は、システム操作員に送られます。以下のいずれかが起こった場合は、正しくないサインオンの試みが行われています。

- ユーザー ID が無効である。
- パスワードが無効である。
- ユーザー ID を入力した装置に対する権限がそのユーザー・プロファイルにない。

以下のいずれかが起こった場合は、そのサインオンの試みは正しくない試みとしてはカウントされません。

- パスワードが必須であるにもかかわらず、ユーザー・プロファイルでは、パスワードが不要と指定されている。そのユーザー・プロファイルにパスワードが対応付けられていないことを示すメッセージがユーザーに出されます。
- プログラム名またはメニュー名が無効である。
- ユーザー・プロファイルが存在せず、システムが機密保護レベル 10 で構成されている。
- 指定されている現行ライブラリーが存在しない。

このシステム値に指定可能な値は次のとおりです。

- **制限なし**
サインオンの最大許容試行回数の制限はありません。
- **最大数**
サインオンの最大許容試行回数が制限されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、サインオン・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

サインオン・システム値: 最大回数に達したとき

(QMAXSGNACN)

最大回数に達したときは、**QMAXSGNACN** とも呼ばれ、OS/400 システム値のサインオン・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、サインオン試行の最大許容回数に達したときにとる処置を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「サインオン」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	ユーザーと装置を使用不可にする
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

サインオン試行の最大許容回数を指定する場合は、連続して行われた正しくないサインオン試行の最大回数に達したときにシステムがとる処置を指定することもできます。

次のオプションを使用することができます。

- **装置を使用不可にする**
制限に達した場合に装置をオフに変更します。制御サブシステムが制限状態 (つまり、装置が 1 つしか使用できない) の場合に、その装置がオフに変更されると、システムは終了し、制御パネルのライトがオンになり、システムの再始動が必要であることを示します。
- **ユーザーを使用不可にする**
制限に達した場合にユーザー・プロファイルを使用不可にします。プロファイルが使用不可になると、それを再度使用可能にしないと、そのユーザーはサインオンできません。
- **ユーザーおよび装置を使用不可にする**
制限に達した場合に、装置をオフに変更し、ユーザー・プロファイルを使用不可にします。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、サインオン・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

サインオン・システム値: サインオン情報の表示

(QDSPSGNINF)

サインオン情報の表示は、**QDSPSGNINF** と呼ばれ、OS/400 システム値のサインオン・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、ユーザーがシステムにサインオンするときにサインオン情報を表示するか否かを指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「サインオン」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - サインオン情報を表示しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

前回のサインオンの日時および前回のサインオン以降に行われた無効なサインオンの試行回数を示す通知画面を、ユーザーがサインオンするときに表示するか否かを指定できます。

このシステム値についての詳細情報の入手


詳細については、サインオン・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

サインオン・システム値: 各ユーザーを 1 装置セッションに限定する

(QLMTDEVSSN)

各ユーザーを 1 つの装置セッションに制限するは、**QLMTDEVSSN** と呼ばれ、OS/400 システム値のサインオン・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、装置セッションの制限を設定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「サインオン」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - ユーザーを 1 装置セッションに限定しない

変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

ユーザーが複数のワークステーションにサインオンできるか否かを指定します。これは、ワークステーションで、ユーザーがグループ・ジョブを使用することや、システム要求を行うことを妨げるものではありません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、サインオン・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

サインオン・システム値: 特権ユーザーを特定装置セッションに制限する

(QLMTSECOFR)

特権ユーザーを特定装置セッションに制限するは、**QLMTSECOFR** とも呼ばれ、OS/400 システム値のサインオン・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、特権ユーザーを特定装置に制限するかどうかを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「サインオン」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	非選択 - ユーザーを特定装置セッションに制限しない
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

すべてのオブジェクト (*ALLOBJ) およびサービス (*SERVICE) 特殊権限を持つユーザーが、特定のワークステーションに対する明示的な権限を持つ必要があるか否かを指定できます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、サインオン・システム値の概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

サインオン・システム値: 遠隔サインオンに Telnet またはパススルーを使用する

(QRMTSIGN)

遠隔サインオンに **Telnet** またはパススルーを使用するは、**QRMTSIGN** と呼ばれ、OS/400 システム値のサインオン・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、Telnet およびパススルーの仕様を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「サインオン」 → 「遠隔」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	毎回サインオンを表示する
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	はい  (詳細はクリックしてください)

このシステム値を使用してユーザーができること

遠隔サインオンに Telnet またはパススルーを選択できます。ただし、依然として、遠隔サインオンの両タイプを使用できます。

Telnet

Telnet を使用するときには、遠隔サインオン・オプションを指定できます。遠隔サインオンにパススルーを使用するを選択した場合は、遠隔サインオンにパススルーを使用するに指定した設定値に基づいて、以下のオプションが自動的に選択されます。パススルーを選択した場合でも、Telnet は依然として遠隔サインオンに使用可能です。Telnet に可能なオプションは次のとおりです。

- **毎回サインオンを表示する**
すべての遠隔サインオン・セッションは通常のサインオン処理を必要とします。
- **サインオンをバイパスする**
システムは、ユーザーがサインオン・パネルをバイパスすることを許可します。ユーザーはシステムにサインオンされていますが、サインオン・パネルは表示されません。

パススルー

パススルーを指定する場合は、遠隔サインオンにパススルーを使用するときに、追加のオプションを使用可能にします。

このオプションが選択されない場合でも、遠隔サインオンにパススルーは依然として使用可能です。ただし、「遠隔サインオンに Telnet を使用する」で指定した設定値に基づいて、以下のオプションのいくつかが自動的に選択されます。

次のオプションを使用することができます。

- **毎回サインオンを表示する**

すべての遠隔サインオン・セッションは通常のサインオン処理を必要とします。

- **サインオンをバイパスする**

システムは、ユーザーがサインオンをバイパスすることを許可します。 また、ソースとターゲットの両方のユーザー ID を検査するか、受動システムのユーザー ID だけを検査するかを指定できます。

- **ソースのユーザー ID とターゲットのユーザー ID は一致しなければならない**

5250 表示装置のパススルーまたはワークステーション機能では、ソースのユーザー・プロファイル名とターゲットのユーザー・プロファイル名が同じである場合、遠隔サインオン・パネルをバイパスできます。

- **受動システム上のユーザー ID を検査する**

システムは、ユーザーにシステムへのアクセス権があることを確認してから、サインオン・パネルをバイパスすることを認めます。

- **遠隔サインオンをリジェクトする**

5250 表示装置のパススルーまたはワークステーション機能の場合、遠隔サインオンは許されません。

このオプションが選択されていても、Telnet を使用すれば、ユーザーはまだシステムにサインオンすることができます。 これらのセッションは、通常のサインオン処理を全部実行します。 システムに対する Telnet の要求をすべてリジェクトしたい場合は、Telnet サーバーを終了してください。

- **ユーザー作成出口プログラムを起動する**

どのような遠隔セッションが許されるか、およびどのロケーションからどのユーザー・プロファイルが自動的にサインオンできるかを定めるプログラムおよびライブラリーを指定できます。 プログラムは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

ライブラリー・リストの使用を指定すると、システムは、このライブラリーの値を、プログラム名がある場所の値に自動的に設定します。 ユーザーが、次回に、iSeries ナビゲーターをオープンすると、**ライブラリー・リストの使用**ではなく、**ライブラリー名**が表示されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、サインオン・システム値の概要を参照してください。

第 17 章 OS/400 システム値: 記憶域の概要

OS/400 記憶域システム値を使用して、システムの記憶域動作値を変更します。システム値の記憶域カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能な記憶域システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

記憶域システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
システム・ディスク・プールの最大使用量	使用できる記憶域スペースの最大量を指定する。	QSTGLOWLMT
最大使用量に達したとき	記憶域プールが最大サイズに達したときにとる処置を指定する。	QSTGLOWACN
未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップ	未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップを設定し、保存期間を指定する。	QRCLSPLSTG

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリ

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

記憶域システム値: 未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップ

(QRCLSPLSTG)

未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップは、**QRCLSPLSTG** と呼ばれ、OS/400 システム値の記憶域カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップを設定し、保存期間を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「記憶域」 → 「一般」
特殊権限	なし
デフォルト値	選択 - 未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップ、保持期間 8 日間
変更が有効になるとき	即時
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

この値によって、空のスプール・データベース・メンバーの自動的な除去が可能になります。最大の保持期間レベルが必要な場合は、このオプションを選択します。

次のオプションを使用することができます。

- **0**
空のメンバーはすべて削除されます。この値を指定すると、スプール・ファイルの作成時に追加のシステム・オーバーヘッドが生じます。重大なシステム・パフォーマンス低下が生じる場合があります。
- **1 ~ 366**
空のスプール・データベース・メンバーを新しいスプール・ファイル用として保持する日数を指定します。指定の日数が経過してもまだ空のままであるメンバーは、システムから削除されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、記憶域システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

記憶域システム値: システム・ディスク・プールの最大使用量

(QSTGLOWLMT)

システム・ディスク・プールの最大使用量は、**QSTGLOWLMT** と呼ばれ、OS/400 システム値の記憶域カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システム・ディスク・プール (ASPI ともいう) で許可される使用済み記憶域の最大パーセントを指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「記憶域」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	95%
変更が有効になるとき	即時

ロック可能	いいえ
-------	-----

このシステム値を使用してユーザーができること

システム・ディスク・プール (ASPI ともいう) で許可される使用済み記憶域の最大パーセントを指定します。

iSeries ナビゲーターで、使用済み記憶域の**最大許容パーセント**を指定します。文字ベースのインターフェースを使用している場合は、使用可能として残る記憶域のパーセント (下限) を指定します。たとえば、iSeries ナビゲーターで、**システム・ディスク・プールの最大使用量**に 95% と指定した場合は、文字ベース・インターフェースの QSTGLOWLMT システム値に示す値は 5.00 になります。

システム・ディスク・プールの使用可能な記憶域が、このシステム値に指定した限界に達すると、最大使用量に達したときに指定されている処置がとられます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、記憶域システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

記憶域システム値: 最大使用量に達したとき

(QSTGLOWACN)

最大使用量に達したときは、**QSTGLOWACN** と呼ばれ、OS/400 システム値の記憶域カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システム・ディスク・プールが最大使用率に達したときにとる処置を指定します。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「記憶域」 → 「一般」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	システム操作員およびメッセージ待ち行列にメッセージを送る
変更が有効になるとき	即時。ただし、使用可能な記憶域がすでに最大サイズになっている場合は、記憶域が最大以下にいったん下がりを再び最大値に達するまでは、変更は有効になりません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システム・ディスク・プール (ASPI ともいう) の使用可能な記憶域がシステム・ディスク・プールの最大使用量で指定した最大値に達したときにとる処置を指定します。

以下のオプションから選択します。

- **システム操作員待ち行列およびシステム・メッセージ待ち行列にメッセージを送る**
メッセージ CPI099C がシステム・メッセージ待ち行列およびシステム操作員待ち行列に送られます。このメッセージは、他の処置の場合にも送信されます。
- **メッセージをサービス利用者に送る**
メッセージ CPI099B が、サービス属性の中で重大メッセージを受け取るように指定されたユーザーに送られます。ワークステーションにサインオンしているユーザーに対してのみ、通知します。
- **登録済み出口プログラムを実行する**
(QIBM_QWC_QSTGLOWACN) 出口点に対して登録されている出口プログラムを呼び出すジョブが、実行依頼されます。
システムが制限状態にある場合は、処置はとられません。
ユーザーがこの処置を選択し、使用可能な記憶域が最大限度に達しても、システムが制限状態にある間は、サブシステムを開始することはできません。
- **システムを終了して制限状態にする**
システムが終了して、制限状態になります。
システムがすでに制限状態にある場合は、処置はとられません。
ユーザーがこの処置を選択し、使用可能な記憶域が最大限度に達しても、システムが制限状態にある間は、サブシステムを開始することはできません。
- **即時に電源を遮断し、システムを再始動する**
システムは即時に電源を遮断して、再始動します。
システムが制限状態にある場合は、処置はとられません。
ユーザーがこの処置を選択し、使用可能な記憶域が最大限度に達しても、システムが制限状態にある間は、サブシステムを開始することはできません。

使用可能な記憶域が再始動中に最大限度に達し、指定された処置が**システム・オペレーター待ち行列およびシステム・メッセージ待ち行列にメッセージを送る** でない場合は、システムは制限状態で立ち上がりません。

以下の条件が存在する場合、

- 使用可能な記憶域が限界を下回っている。
- 処置が、**登録済み出口プログラムを実行する、システムを終了して制限状態にする、または即時に電源を遮断し、システムを再始動する** である。
- システムが制限状態にある。

次のようになるまでサブシステムを開始することはできません。

- 使用可能な記憶域が削減される。
- 処置が上記の第 1 または第 2 のオプションに変更される。

下記が生じた場合には、処置はとられません。

- 使用可能な記憶域限界を下回るまで減っている。
- システムが制限状態にある。
- 処置が上記に示した最後の 3 つのいずれかである。

使用可能な記憶域が最大レベルになったままの場合は、この処置は 30 分ごとに繰り返されます。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、記憶域システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 18 章 OS/400 システム値: システム制御の概要

OS/400 システム・コントロール・システム値を使用して、システム・レベル値をコントロールします。システム値のシステム・コントロール・カテゴリにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なシステム・コントロール・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクにしたがって、各システム値の詳細を参照してください。

システム・コントロール・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	コマンド・インターフェースでの名前
型式番号	システムの型式番号を表示する。	QMODEL
シリアル番号	システムのシリアル番号を表示する。	QSRLNBR
プロセッサのフィーチャー・コード	システムのプロセッサのフィーチャー・コードを表示する。	QPRCFEAT
コンソール名	システムのコンソール名を表示する。	QCONSOLE
操作援助レベル	システムの操作援助レベルを設定する。	QASTLVL
アテンション・プログラム	システムで使用されるアテンション・プログラムを指定する。	QATNPGM
デフォルト・ユーザー環境	デフォルト・ユーザー環境を設定する。	QSPCENV
先行入力機能の使用	先行入力機能を設定する。また、アテンション・キー・バッファリング・オプションの使用を選択することもできます。	QKBDBUF

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

システム・コントロール・システム値: 型式番号

(QMODEL)

型式番号は、**QMODEL** とも呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムの型式番号を表示できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「システム」
デフォルト値	マシンによる
変更が有効になるとき	このシステム値は読み取り専用です。この値を変更することはできません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を表示できます。この値は、システムのどの区画でも同じです。インストールされている iSeries システムのタイプを識別します。表示できる値の例として、400、530、620、あるいは 640 があります。この値を編集することはできません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、システム・コントロール・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリーのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

システム・コントロール・システム値: シリアル番号

(QSRLNBR)

シリアル番号は、**QSRLNBR** とも呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリーのメンバーです。このシステム値を使用して、システムのシリアル番号を表示できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「システム」
デフォルト値	マシンによる
変更が有効になるとき	このシステム値は読み取り専用です。この値を変更することはできません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を表示できます。 シリアル番号は、識別の手段として使用されます。この番号は、インストールされている OS/400 システムのバージョン、リリース、およびモデルによって決まります。システムのシリアル番号は、システムの各区画で同じです。 シリアル番号は、たとえば、1001003 などの番号です。この値を編集することはできません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、 システム・コントロール・システム値概要を参照してください。 特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

システム・コントロール・システム値: プロセッサ・フィーチャー・コード

(QPRCFEAT)

プロセッサ・フィーチャー・コードは、**QPRCFEAT** とも呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムのプロセッサ・フィーチャー・コードを表示できます。 iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。 詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「システム」
デフォルト値	マシンによる
変更が有効になるとき	このシステム値は読み取り専用です。 この値を変更することはできません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を表示できます。この値は、システムのプロセッサ・フィーチャー・コードのレベルを示します。この番号は、データを操作するコンピューター・システムの一部であるプロセッサを識別します。プロセッサ・フィーチャー・システム値は、システムの各区画で同じです。 この値を編集することはできません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、 システム・コントロール・システム値概要を参照してください。 特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

システム・コントロール・システム値: コンソール名

(QCONSOLE)

コンソール名は、**QCONSOLE** と呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムのコンソール名を表示できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 → 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「システム」
デフォルト値	QCONSOLE
変更が有効になるとき	このシステム値は読み取り専用です。この値を変更することはできません。
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

このシステム値を表示できます。この値は、コンソールである表示装置の名前を指定します。コンソールがオンに構成変更された時点で、システムがこの値を変更します。この値を編集することはできません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、システム・コントロール・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

システム・コントロール・システム値: 操作援助レベル

(QASTLVL)

操作援助レベルは、**QASTLVL** と呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムの操作援助レベルを表示できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。 > 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「ユーザー・デフォルト」
特殊権限	なし
デフォルト値	基本
変更が有効になるとき	次回ユーザーがシステムにサインオンするとき
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

システムのユーザーに使用可能な援助のレベルを指定できます。この値を使用して、システムのユーザーに使用可能な表示のレベルを調整します。経験の浅いユーザーに対する画面は、熟練したユーザーに対する画面よりも高いレベルの援助を提供するように設定することができます。

有効な値は次の通りです。

- **基本**
操作援助レベルのシステム画面が使用可能です。
- **中級**
中級援助レベルのシステム画面が使用可能です。
- **アドバンスト**
アドバンスト援助レベルのシステム画面が使用可能です。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、システム・コントロール・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

システム・コントロール・システム値: アテンション・プログラム

(QATNPGM)

アテンション・プログラムは、**QATNPGM** とも呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、システムで使用されるアテンション・プログラムを指定できます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。> 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「ユーザー・デフォルト」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	操作援助機能を使用する
変更が有効になるとき	次回ユーザーがシステムにサインオンするとき
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

アテンション・キーを押したときに呼び出されるプログラムを指定できます。

有効な値は次の通りです。

- **操作援助機能を使用する**
 アテンション・キーを押すと、操作援助機能のメインメニューが表示されます。
- **なし**
 アテンション・キーを押しても、アテンション・プログラムが呼び出されることはありません。
- **プログラム名**
 アテンション・キーを押したときに呼び出されるプログラムを指定します。
 - **ライブラリー**
 アテンション・キーを押したときに呼び出されるプログラムのライブラリーを指定します。 **ライブラリー・リストの使用**を指定すると、iSeries サーバーは、ライブラリーの値を、プログラム名がある場所の値に自動的に設定します。ユーザーが、次回に、システム・コントロール・システム値をオープンすると、「**ライブラリー・リストの使用**」ではなく、ライブラリー名が表示されます。

プログラムは、システム補助記憶域プール (ASP) または基本ユーザー ASP に存在していなければなりません。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、システム・コントロール・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけない場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

システム・コントロール・システム値: デフォルト・ユーザー環境

(QSPCENV)

デフォルト・ユーザー環境は、**QSPCENV** と呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、デフォルト・ユーザー環境を設定することができます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。→ 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「ユーザー・デフォルト」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	OS/400
変更が有効になるとき	次回ユーザーがシステムにサインオンするとき
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

すべてのユーザーによって、デフォルトとして使用されるシステム環境を指定します。次のオプションを使用することができます：

- **OS/400**
 ユーザーがサインオンするときに iSeries システム環境を指定します。

- システム /36

ユーザーがサインオンするときにシステム/36 環境を指定します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、システム・コントロール・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

システム・コントロール・システム値: 先行入力機能の使用

(QKBDBUF)

先行入力機能の使用は、**QKBDBUF** と呼ばれ、OS/400 システム値のシステム・コントロール・カテゴリのメンバーです。このシステム値を使用して、先行入力機能を設定することができます。また、アテンション・キー・バッファリング・オプションの使用を選択することもできます。iSeries ナビゲーターで、すべてのシステム値を処理できるようになりました。詳しくは、以下を参照してください。

クイック・リファレンス	
ロケーション	iSeries ナビゲーターで、システムを選択します。> 「構成およびサービス」 → 「システム値」 → 「システム・コントロール」 → 「ユーザー・デフォルト」
特殊権限	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ)、および機密保護管理者 (*SECADM)
デフォルト値	選択 - 先行入力機能を使用する
変更が有効になるとき	次回ユーザーがシステムにサインオンするとき
ロック可能	いいえ

このシステム値を使用してユーザーができること

先行入力機能およびアテンション・キー・オプションを使用するか否かを指定します。先行入力機能により、一連のキー・ストロークをシステムに記憶させることができます。

たとえば、いつも、オプション 2 を押した後に次の画面を待つからでないとオプション 4 を指定できないとしましょう。先行入力機能を使用すれば、ユーザーは 2 を入力した後、次の画面を待つことなくただちに 4 を入力することができます。次の画面がオープンするとき、すでに指定された 4 をシステムが記憶しています。

先行入力オプションを選択した場合、**アテンション・キー・バッファリング・オプションの使用**を選択することもできます。

アテンション・キー・バッファリング・オプションの使用

アテンション・キー・バッファリング・オプションをオンにするかどうかを指定します。このオプションがオンになると、システムはアテンション・キーが押されたことを記憶します。

このシステム値についての詳細情報の入手

詳細については、システム・コントロール・システム値概要を参照してください。特定のシステム値、または特定のカテゴリのシステム値を見つけたい場合は、OS/400 システム値ファインダーを使用してください。

第 19 章 システム値の概念

▶ システム値の設定値を処理する前に、次の概念をよく知っておく必要があります。

- 機密保護関連システム値のロック機能
システム値をロックしたりアンロックしたりする方法について説明します。一部のシステム値のみ、ロックすることができます。ロック機能について、どのシステム値をロックできるか、およびロックとアンロックを行う方法を説明します。
- 復元操作におけるシステム値設定の影響
復元操作において複数のシステム値が互換性を保てるように、正しくシステム値を設定する方法を説明します。また、このトピックでは、復元が実行される際に 3 つの復元システム値がどのように一緒に作用するか説明します。



機密保護関連システム値のロック機能

▶ ほとんどの機密保護システム値は、機密保護管理者 (*SECADM) 特殊権限とすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限とを合わせ持つユーザーのみが変更することができます。通常の運用中にこれらのユーザーさえも機密保護システム値を変更できないようにするために、システム保守ツール (SST) 専用保守ツール (DST) は、これらの機密保護値をロックするオプションを提供します。

デフォルト値ははいです。つまり、ユーザーは機密保護関連システム値を変更できます。

次のテーブルに、このオプションによって影響を受けるシステム値を示します (iSeries ナビゲーターでの名前と文字ベースの名前の両方を示します)。

ロック可能なシステム値

監査システム値

アクション監査の活動化	QAUDLVL
オブジェクト監査の活動化	QAUDCTL
監査ジャーナル・エラー・アクション	QAUDENACN
新規作成オブジェクトのデフォルト監査	QCRTOBJAUD
補助記憶域内のジャーナル項目の最大数	QAUDFRCLVL

装置システム値

ローカル制御装置と装置	QAUTOCFG
パススルー装置および Telnet	QAUTOVRT
装置エラーが発生したときにとる処置	QDEVRCYACN
遠隔制御装置と装置	QAUTORMT

ジョブ・システム値

タイムアウト・インターバル	QDSCJOBITV
ジョブがタイムアウトになったとき	QINACTMSGQ

パスワード・システム値

パスワード有効期限	QPWDEXPITV
連続する数字の制限	QPWDLMTAJC
制限付き文字	QPWDLMTCHR
反復文字の制限	QPWDLMTREP
パスワード・レベル	QPWDLVL
最大パスワード長	QPWDMAXLEN
最小パスワード長	QPWDMINLEN
各桁に新しい文字が必要	QPWDPOSDIF

最低 1桁の数字が必要	QPWDRQDDGT
パスワードの再使用サイクル	QPWDRQDDIF
パスワード妥当性検査プログラム	QPWDVLDPGM
メッセージおよびサービス・システム値	
システムの遠隔保守の許可	QRMTSRVATR
復元システム値	
復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査	QVFYOBJRST
復元中のオブジェクトの変換	QFRCCVNRST
機密オブジェクトの復元の許可	QALWOBJRST
機密保護システム値	
機密保護レベル	QSECURITY
サーバーの機密保護情報保存の許可	QRETSVRSEC
借用権限を持つプログラムを処理できるユーザー	QUSEADPAUT
QSYS.LIB ファイル・システムの新規作成オブジェクトのデフォルト権限	QCRTAUT
書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可	QSHRMEMCTL
監査可能でないオブジェクト...	QALWUSRDMN
サインオン・システム値	
遠隔サインオンに Telnet またはパススルーを使用する	QRMTSIGN
サインオン情報の表示	QDSPSGNINF
特権ユーザーを特定装置セッションに制限する	QLMTSECOFR
各ユーザーを 1 装置セッションに限定する	QLMTDEVSSN
正しくないサインオンの試み	QMAXSIGN
最大回数に達したとき	QMAXSGNACN

機密保護関連システム値の変更の許可にいいえを指定すると、ユーザーは機密保護関連システム値を変更できません。機密保護関連システム値を変更する必要がある場合は、SST で「機密保護関連システム値の変更の許可」フィールドをはいに変更する必要があります。

機密保護関連システム値の変更の許可にはいを指定すると、ユーザーは機密保護関連システム値を変更できません。機密保護関連システム値はアンロックされますが、これらを変更するにはやはり機密保護管理者(*SECADM) 特殊権限とすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限とを合わせ持つことが必要です。機密保護関連システム値をユーザーに変更させたくない場合は、SST で「機密保護関連システム値の変更の許可」フィールドをいいえに変更する必要があります。

詳細情報の入手


機密保護関連システム値のロックおよびアンロック

「システム保守ツールの開始 (STRSST)」コマンドを使用して、機密保護関連システム値をロックしたりアンロックしたりする方法について説明します。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。 

復元操作におけるシステム値設定の影響

▶ 復元操作を準備するときは、以下のシステム値がオブジェクトの復元にどのように一緒に作用するかをよく理解することが重要です。

- 復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査 (QVFYOBJRST)
- 復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST)
- 機密オブジェクトの復元の許可 (QALWOBJRST)

あるオブジェクトをシステムに復元しようとする試みがなされるとき、これら 3 つのシステム値は一緒になってフィルターのように作用し、そのオブジェクトを復元してよいか、あるいは復元中に変換を行うか、判別します。第 1 のフィルターは、復元時のオブジェクト検査 (QVFYOBJRST) システム値です。このシステム値は、電子的なサインの対象となるオブジェクトの復元を制御するために使用されます。2 番目のフィルターは、復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST) システム値です。このシステム値により、ユーザーは、プログラム、サービス・プログラム、SQL パッケージ、およびモジュール・オブジェクトを、復元中に変換するかどうか指定することができます。また、一部のオブジェクトが復元されないようにすることもできます。第 1 と第 2 のフィルターを通過することができたオブジェクトだけが、第 3 のフィルターによって処理されます。第 3 フィルターは、機密オブジェクトの復元の許可 (QALWOBJRST) システム値です。機密属性を持ったオブジェクトを復元できるか否かを指定します。

復元操作が実行される際には、**強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN) パラメーターと復元中のオブジェクト変換システム値に、互換性のある設定値を設定しなければなりません。**さもないと、エラー・メッセージを受け取って復元が失敗します。以下のテーブルは、どの設定値に互換性があり、どの設定値は失敗するかを示しています。

FRCOBJCVN パラメーター	QFRCCVNRST システム値	復元コマンドの結果
*SYSVAL	0、1、2、3、4、5、6、または 7	復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST) システム値が使用される。
*NO	0	オブジェクトは変換されず、すべてが変換なしに復元される。
*NO	1	妥当性検査エラーがあるオブジェクトだけが変換され、他はすべて変換なしに復元される。
*NO	2 ~ 7	互換性はない。システム管理者にエラー・メッセージが送られ、何も復元も変換もされない。
*YES *RQD	0、1、または 2	妥当性検査エラーがあるオブジェクト、または現行リリースで使用するために変換が必要なオブジェクトだけが変換される。
*YES *RQD	3 ~ 7	互換性はない。システム管理者にエラー・メッセージが送られ、何も復元も変換もされない。
*YES *ALL	0、1、2、3、4、5、6 または 7	FRCOBJCVN (*YES *ALL) は、QFRCCVNRST 値がどうであってもオーバーライドし、変換が正常に行われた場合はすべてのオブジェクトが変換され復元される。

オブジェクトが正常に復元されるようにするには、オブジェクトは、復元操作中に一緒に作用する次の 3 つのシステム値を通過しなければなりません。すなわち、**復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査 (QVFYOBJRST)、復元中の強制変換 (QFRCCVNRST)、および機密オブジェクトの復元の許可 (QALWOBJRST)。**ただし、**強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN) パラメーターと復元時の強制変換 (QFRCCVNRST) システム値とが互換性がない場合は、変換は行われず何も復元されません。**

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN) パラメーターに指定できるのは以下の値です。

- ***SYSVAL**
オブジェクトは、復元時の強制変換 (QFRCCVNRST) システム値の値を基にして変換される。これがデフォルト値です。
- ***YES *ALL**
すべてのオブジェクトは、現行の形式にかかわらず変換される。ただし、マシン変換が必要なデータを持たないオブジェクトの場合は、復元されません。変換が行われると復元操作にかかる時間は増大しますが、これにより、オブジェクトが最初に使用されるときに変換を行う必要がなくなります。この設定値は、強制オブジェクト変換システム値をオーバーライドします。
- ***YES *RQD**
オブジェクトは、現行オペレーティング・システムによって使用されるために変換が必要である場合のみ、変換される。オブジェクトが変換は必要だがマシン変換が必要なデータを持たないという場合は、復元されません。変換が行われると復元操作にかかる時間は増大しますが、これにより、オブジェクトが最初に使用されるときに変換を行う必要がなくなります。
- ***NO**
オブジェクトは、復元操作中に変換されない。

復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST)

次に示すのは、復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST) システム値に指定できる値です。

- **レベル 0 (0)**
すべてのオブジェクトを変換なしに復元します。
- **レベル 1 (1)**
妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。
- **レベル 2 (2)**
オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するには変換する必要があるオブジェクト、および妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。
- **レベル 3 (3)**
改ざんされた疑いのあるオブジェクト、オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するには変換する必要があるオブジェクト、および妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。
- **レベル 4 (4)**
妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、あるいは改ざんされた疑いのあるオブジェクトが変換されます。十分な作成データを含み、有効なデジタル・シグニチャーを持たないオブジェクトも、変換されます。
- **レベル 5 (5)**
妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、改ざんされた疑いがあるか、あるいは十分な作成データを含むオブジェクトが、変換されます。
- **レベル 6 (6)**
妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、改ざんされた疑いがあるか、あるいは有効なデジタル・シグニチャーを持たないオブジェクトが、変換されます。
- **レベル 7 (7)**
すべてのオブジェクトが変換されます。

すべてのレベルにおいて、変換の条件に合致するが変換に失敗したオブジェクトは、復元されません。変換する必要がないオブジェクトは、変換なしに復元されます。あるオブジェクトが変換されるときは、そのオブジェクトのデジタル・シグニチャーが除去されます。また、変換されるオブジェクトはユーザー状態に変更され、妥当性検査が訂正され、改ざんされた疑いをかけられることがなくなります。

詳細情報の入手


復元操作

計画、構成、および復元操作を、正しいシステム値の設定値を指定して行うための情報を見つけることができます。これらのタスクにより、復元操作のシステム値を準備するステップをたどることができます。さらに、復元操作の実行の際には注意すべきその他の予防措置があるため、より詳細な解説書を見つけることができます。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。 

第 20 章 システム値の管理

▶ システム値の機能を十分に活用するために、多くの作業のいずれかを行うことができます。次に示す作業は、ユーザーがシステム値を管理するのに役立ちます。

- システム値を比較して更新
マネージメント・セントラルを使用して、複数のシステム値を比較して更新する方法を見つけることができます。
- 機密保護ウィザードの完了
このツールを使用して、ユーザーの企業の機密保護レベルに合ったシステム値を設定する方法を計画します。これは特に、パスワード・システム値の設定方法がよくわからない場合に有効です。ウィザードは推奨される設定値を示し、ユーザーが手動でそれらの設定値を構成することができます。
- 機密保護関連システム値のロックおよびアンロック
システム値をロックしたりアンロックしたりすることにより、機密保護関連のシステム値をさらにコントロールする方法を見つけることができます。
- 復元操作システム値の準備
システム値は、復元操作においては非常に重要な役割を持っています。復元操作によって影響されるシステム値について計画し構成することは必須です。 詳細については、次のトピックを参照してください。
 - 復元操作システム値の計画
システム値の設定値をどのように構成すべきかを計画するのに役立つ、質問のリストを準備します。これは、復元操作が実行されるときにどのシステム値と一緒に作用するかよく理解していない場合、有用です。
 - 復元操作システム値の構成
復元操作の処理方法に影響のあるシステム値をどう構成するか、説明します。
 - 復元コマンドの実行
復元コマンドを実行するのに役立つ「バックアップおよび回復の手引き」へのリンクを提供します。復元コマンドによって影響されるシステム値を設定した後は、この資料を参照することが必要になります。この資料は、オブジェクトを復元する際に行う必要があるその他のステップについて説明しています。システム値は、復元処理の一部に過ぎません。
- システム値検索 (QWCRSVAL) API
システム値検索 (QWCRSVAL) API を使用して、システム値の長さの仕様を見つけます。
- システム値の保管
システム値を保管する方法について説明します。システム値を変更する度に、システム値の設定を保管する必要があります。
- システム・アクセス・レベルの保護
サインオン・アクセスを保護するために、すべてのパスワード・システム値がどのように一緒に作用するか、詳細を説明します。さらに、中程度に厳格な企業において推奨される設定値を示し、ユーザーはそれらの設定値を自社の機密保護レベルに合うように変更することができます。
- システム値インベントリーの処理
システム値インベントリーを処理できる方法の詳細を説明します。



システム値を比較して更新

マネージメント・セントラルを使用して、ネットワーク内の複数のシステムにあるシステム値を比較し、更新してください。管理者として、複数のシステムにまたがるシステム値を管理することができます。モデル・システムのシステム値を、複数のターゲット・システムのシステム値と比較し、ターゲット・システムの値をモデル・システムの値に一致するように更新することができます。また、必要があれば、ターゲット・システムの値を実際に変更するのではなく、モデル・システムとターゲット・システムの値を差を示すリストを作成することもできます。

ターゲット・システムに現行システム値インベントリーがあることを確認してください。モデル・システムのインベントリーを収集していれば、モデル・システムをターゲット・システムにすることができます。すべてのシステム値インベントリーを PC ファイルにエクスポートすることもできます。これらの PC ファイルにはインベントリーのヒストリーがあって、データをスプレッドシート・プログラムまたはその他のアプリケーションで処理することができます。

システム値を比較し、更新する方法については、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターで「マネージメント・セントラル」を展開します。
2. 「エンドポイント・システム (Endpoint Systems)」、「システム・グループ (System Groups)」、あるいは「自分の接続 (My Connections)」を展開します。
3. 「エンドポイント・システム」または「システム・グループ」を右クリックして、「システム値」、そして「比較と更新 (Compare and Update)」を選択します。
4. 「比較と更新」ダイアログを完了します。
 - ターゲット・システム (単数または複数) を比較する対象となるモデル・システムの名前を選択します。
 - 比較に組み込みたいカテゴリおよび値を選択します。ターゲット・システム上の更新したいそれぞれのシステム値ごとに、「更新」列から項目を選択します。
 - 選択されたターゲット・システム (単数または複数) を検証します。
5. 「OK」をクリックして、作業を即時に行うか、または「スケジュール」をクリックしてこの作業を後で実行させます。

機密保護ウィザードの完了

➤ 機密保護関連システム値を正しく設定する方法がよくわからない場合、あるいは現行の機密保護ポリシーを調べたい場合は、機密保護ウィザードを完了します。このウィザードはユーザーのシステムを、貴社に合った正しいシステム値設定に自動的に構成します。ユーザーが構成を行うために、多くのオプションが提供されます。以下は、ウィザードがユーザーに与えるオプションの一部です。

- ユーザーが提供する情報を基にして、ユーザーのシステムのシステム値を自動的に構成する
- 報告書を保管して、後日ユーザーがシステムを構成できるようにする
- ユーザーのシステムに推奨されるシステム値の設定値を、それら設定値の含意とともに組み込んだ報告書を印刷する

機密保護ウィザードにアクセスするには、次の手順を完了します。

1. iSeries ナビゲーターでシステムを選択します。
2. 「機密保護」を右クリックします。
3. 「構成」を選択します。
4. その後で、機密保護ウィザードを完了します。



機密保護関連システム値のロックおよびアンロック

➤ システム保守ツールの開始 (STRSST) コマンドを使用して機密保護関連システム値をロックしたりアンロックするには、次のステップに従います。

1. 文字ベースのインターフェースをオープンします。
2. コマンド行に、STRSST と入力します。
3. ユーザー名およびパスワードを入力します。
4. オプション 7 (システム機密保護の処理) を選択します。
5. システム値をアンロックするには **Y**、機密保護関連システム値フィールドの変更の許可にある機密保護関連システム値をロックするには **N** を入力します。

注: 機密保護関連システム値をロックまたはアンロックするには、保守ツール・プロファイルおよびパスワードを持っていることが必要です。



復元操作システム値の準備

➤ システム値は、復元操作においては非常に重要な役割を持っています。復元操作に影響するシステム値を計画し構成することは必須です。復元を正常に行うために考慮すべき、必須の予防措置があります。詳細については、次のトピックを参照してください。

- 復元操作システム値の計画
システム値の設定値をどのように構成すべきかを計画するのに役立つ、質問のリストを準備します。これは、復元操作が実行されるときにどのシステム値と一緒に作用するかよく理解していない場合有効です。
- 復元操作システム値の構成
復元操作の処理方法に影響のあるシステム値をどう構成するか説明します。
- 復元コマンドの実行
復元コマンドを実行するのに役立つ「バックアップおよび回復の手引き」へのリンクを提供します。復元コマンドによって影響されるシステム値を設定した後は、この資料を参照することが必要になります。この資料は、オブジェクトを復元する際に行う必要があるその他のステップについて説明していません。システム値は、復元処理の一部に過ぎません。



復元操作システム値の計画

➤ 復元操作を実行する前に、実行したい復元のタイプを計画しておく必要があります。その後で、ユーザーの必要性に合った正しい設定値にシステム値を構成します。そして、復元操作が実行されるときに、システムが指定どおりの正しい設定値になります。

システムにオブジェクトをどのように復元したいかを計画するために、自社の必要性に基づき次の質問に答えてください。

1. 復元される内容に、どの程度注意を払いますか。

- 復元中のオブジェクト変換をレベル 0 (0) に設定すると最も制限の緩やかな状態になり、レベル (7) が最も厳格になります。
2. どのオブジェクトの復元を許可したいですか。
 3. 強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN) パラメーターが復元中のオブジェクト変換システム値をオーバーライドすることを認めますか。
 - 復元中のオブジェクトの変換は上書きすることができます。復元中のオブジェクト変換システム値と、復元コマンドにおける強制オブジェクト変換パラメーターの互換性のある値のリストについては、復元操作におけるシステム値設定の影響トピックを参照してください。
 4. オブジェクト・シグニチャーについてどんな検査を実行したいですか。

これで、復元操作を扱うシステム値をどのように設定したいか、計画ができました。復元操作のシステム値を構成する用意ができています。◀

復元操作システム値の構成

▶ 復元操作をどのように機能させたいか計画できたら、iSeries ナビゲーターを使用して、復元を処理したい方法を反映するようにシステム値を設定します。これで、ご使用のシステムは復元コマンドに対する準備が整います。iSeries ナビゲーターで正しいシステム値を設定するには、次のステップに従ってください。

1. iSeries ナビゲーターをオープンします。
2. システムを選択します。→ 「構成およびサービス」 → 「システム値」
3. 「復元」を選択します。
4. 「変換」ページで、復元中のオブジェクト変換システム値を、ユーザーがオブジェクト変換を処理したい方法に合わせて設定します。
5. 「シグニチャー」ページで、復元時のオブジェクト・シグニチャーの検査システム値を、ユーザーがオブジェクトのシグニチャーを処理したい方法に合わせて設定します。
6. 「オブジェクト」ページで、機密オブジェクトの復元の許可システム値で復元を許可したいオブジェクトを選択します。

システム値の設定値を構成したら、システム値をいかに設定するかに関しては、復元操作を実行する用意ができたことになります。ただし、単一のオブジェクトの復元やシステム全体の復元には、さらに事前に注意すべき事項があります。詳細については、復元コマンドの実行の方法を参照してください。◀

復元コマンドの実行

▶ どのような復元処理を行うかの計画と、復元を適切に処理するためのシステム値の構成ができたなら、復元コマンドを実行する用意ができたことになります。

復元時の強制変換システム値が、復元コマンドの強制オブジェクト変換パラメーターと互換性のある設定値になっていることを確認します。これら 2 つの設定値の互換性の詳細については、復元操作におけるシステム値設定の影響トピックを参照してください。

「バックアップおよび回復の手引き」  を参照して、復元操作を正しく行ってください。◀

システム値の保管


▶ システム値を変更する度に、システム値の設定を保管する必要があります。システム値の保管は、次のような状態が発生した場合、ご使用のシステムにとって重要になります。

- 災害に遭い、システム全体を復元しなければならない場合。
- システム値 (単数または複数) が損傷を受けた場合。

いずれの状態においても、現行システム値の設定値を保管しておけば、システム値情報が失われることはありません。

システム値はシステム・ライブラリー QSYS に保管されます。次のことを行くと、QSYS ライブラリーが保管されます。

- 「保管に進む (Go Save)」コマンド・メニューを使用し、オプション 21 (システム全体) を選択してシステム全体を保管します。
- 「保管に進む (Go Save)」コマンド・メニューを使用し、オプション 23 (システム・データのみ) を選択してシステム・データのみを保管します。
- OS/400 プラグインの Backup Recovery and Media Services を使用している場合は、*SYSTEM (システム全体のバックアップ) バックアップ・ポリシーまたは *SYSGRP (すべてのシステム・データのバックアップ) バックアップ・ポリシーを使用します。

システム全体を回復する必要がある場合、オペレーティング・システムを復元するときにユーザーのシステム値は自動的に復元されます。詳細については、「バックアップおよび回復の手引き」 を参照してください。◀

システム・アクセス・レベルの保護

▶ 会社に適合した正しいレベルの機密保護をインプリメントするために、パスワード・システム値を使用してシステム・アクセスを制限することをお勧めします。パスワード・システム値を正しく設定することにより、会社は機密保護のレベルをコントロールすることができます。

たとえば、ある会社で最近、機密性の高い財務アプリケーションを実行する iSeries が追加された場合、おそらくその会社のシステム機密保護ポリシーを再評価する必要があります。一般には、その会社は中程度に厳格な機密保護ポリシーに従います。ポリシーを完全に書き直すよりも、パスワード規則を強化して新たな財務システムへのサインオン・アクセスを制限することにします。

財務システムに入ることを保護するには、以下のようにします。

- パスワードをありふれたものにしてはならないこと、パスワードを共用してはならないことを述べたポリシーを設定します。
- 新しいポリシーを強制する援助となるシステム値を設定します。(表 1 参照)

さらに、ユーザーに次のような情報を提供したい場合もあるでしょう。

- パスワードの基準のリスト。
- 正しいパスワードおよび正しくないパスワードの例。(表 2 参照)
- 良いパスワードを考える方法の提案。

表 1: システム値の設定値

以下のテーブルでは、新しいパスワード要件をインプリメントするために推奨されるパスワード・システム値をリストします (これらの値は、サインオン・アクセスをユーザーがどこまで厳格に制限したいかによって変わる場合があります)。

文字ベース・インターフェースでの名前	推奨値	文字ベース・インターフェースでの名前
パスワード有効期限	60 日間	QPWDEXPITV
連続数字の制限	はい	QPWDLMTAJC
パスワード・レベル	3 (注 1 を参照)	QPWDLVL
パスワードの最大長	8 文字	QPWDMAXLEN
パスワードの最小長	6 文字	QPWDMINLEN
各位置に異なる文字が必要	はい	QPWDPOSIDIF
数字が少なくとも 1 つ必要	はい	QPWDRQDDGT
パスワードの再利用サイクル	10 パスワード	QPWDRQDDIF
パスワード妥当性検査プログラム	なし (注 2 を参照)	QPWDVLDPGM
反復文字の制限	文字は続けて使用できない	QPWDLMTREP
制限される文字	A、E、I、O、U、@、#、および \$	QPWDLMTCHR

注 1: 長いパスワードをサポートしない V5R1 以前の iSeries サーバーと接続する必要がある場合には、パスワード・レベル 3 (限定されていない文字セットを使用した長いパスワード。Windows 95/98/ME 上の iSeries NetServer は使用不可) は使用できません。

注 2 このシステム値を変更するには、文字ベース・インターフェースを使用する必要があります。iSeries ナビゲーターにはありません。文字ベースのインターフェースをオープンし、次のように入力します。
CHGSYSVAL VALUE(QPWDVLDPGM) VALUE('*NONE')

表 2: パスワードの例

次の表は、良いパスワードと良くないパスワードの例を示します。

パスワード	詳細
JohnDoe	良くない。名前は使用してはならない。また、数字が使用されていない。
112000	良くない。ユーザーに関連して識別できてしまう日付は使用してはならない。
aaaxyz	良くない。2 つ以上の連続文字が使用されており、許されない文字 (a) が使用されている。また、数字が使用されていない。
cm2s0j	良い。良いパスワードのすべての基準を満たしている。

パスワード	詳細
c0mptr	良い。良いパスワードのすべての基準を満たしている。
Mfc1RB	良い。良いパスワードのすべての基準を満たしている。このパスワードの考え方は、ある文の各単語の最初の文字を使用している、すなわち「My favorite color is Royal Blue」。母音を数字で置き換え、大文字と込み時を組み合わせで使用している。

これらのステップを完了することにより、パスワード・システム値を変更し、財務システムへのサインオン・アクセスを厳重にします。それぞれのパスワード・システム値の値を、自分の会社の機密保護レベルに合うように変更することができます。この例では、中程度に厳格な環境をつくるためにパスワード・システム値が一緒に作用する一つの方法を示しています。

iSeries ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

パスワード概要

すべてのパスワード・システム値を説明しています。さらに、それぞれのシステム値のさまざまな設定値を説明する、特定のパスワードの説明へのリンクを見つけることができます。

OS/400 システム値ファインダー

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。OS/400 システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

システム値カテゴリー

これを使用すると、iSeries ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。



システム値インベントリーの処理

OS/400 V5R1 以降が稼働している任意のエンドポイント・システムの、システム値のインベントリーを収集することができます。これらのインベントリーを収集したら、マネージメント・セントラルを使用して、モデル・システムとこれらの選択されたターゲット・システムのシステム値を比較することができます。モデル・システムと一致させるために、ターゲット・システムのシステム値を変更することも選択できます。

システム値の比較と更新を行う前に、システム値インベントリーが現行のものであることを確認したほうがよいでしょう。「比較と更新」ウィンドウには、システム値インベントリーが最後にターゲット・システムから収集された日付と時刻が表示されます。比較と更新には、エンドポイントのインベントリー・データが使用されるため、現行のインベントリーが必要です。システムまたはグループのインベントリーを収集するには、単にそのエンドポイントまたはシステム・グループを右クリックし、「インベントリー」を選択してから「収集」を選択するだけです。

システム値インベントリーを PC ファイルにエクスポートすることもできます。これらの PC ファイルにはインベントリーの履歴があって、データをスプレッドシート・プログラムまたはその他のアプリケーションで処理することができます。システム値インベントリーをエクスポートするには、エンドポイント・システムまたはシステム・グループを右クリックして、「システム値」を選択し、「エクスポート」を

選択します。「比較と更新」ウィンドウから「エクスポート」ボタンをクリックすることもできます。



Printed in Japan